仏　教　学　部

履　修　要　項

平　成　5　年　度

駒澤大學

学　　年　　暦

前　期

4月8日(木)	入学式
9日(金)～12日(月)	新入生オリエンテーション
9日(金)～16日(金)	在校生身分証明登録
9日(金) 10日(土)	在校生成績発表
9日(金) 10日(土)	体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)受付(学部2年次生)
12日(月)	時事外国語受講届受付(経済学部3年次生)
13日(火)～19日(月)	在校生成績質疑応答
13日(火)	前期授業開始
20日(火)～23日(金)	履修届受付(学部・短大)(学部により受付日が異なる)
19日(月)～23日(金)	春季健康診断(卒業年次生対象)
5月25日(火)～6月10日(木)	卒業論文論題受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
7月14日(水)～20日(火)	中間試験及び前期終了定期試験(授業平常どおり)
20日(火)	前期授業最終日
21日(水)	夏季休業第1日(9月15日まで)
21日(水)～25日(日)	体育実技Ⅱ集中授業コース(学部2年次生)
23日(金)	前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切
9月6日(月)～10日(金)	補講期間

後　期

9月16日(木)	後期授業開始
16日(木) 17日(金)	前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
24日(金)～30日(木)	外国語指定届受付(仏教・文〈除英米文〉・法学部・短大国文・英文の1年次生および昭和63年度以前入学の経済学部の2年次生)
24日(金) 25日(土)	専攻コース指定届受付(歴史・社会学科の1年次生)
25日(土)～10月1日(金)	前期終了科目追・再試験(授業平常どおり)
4日(月)～7日(木)	秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
15日(金)	第111回開校記念日(全学休業)
27日(水)～29日(金)	転部・転科試験願書受付
25日(月)～29日(金)	編入学願書受付
11月20日(土)	転部・転科試験
12月1日(水)～10日(金)	卒業論文受付(仏教・文学部の4年次生)(締切日は正午まで)
5日(日)	編入学試験
20日(月)	冬季休業第1日(1月7日まで)
20日(月)～24日(金)	体育実技Ⅱ集中授業コース(学部2年次生)
平成5年	
1月8日(土)	後期授業再開
14日(金)	後期授業最終日
17日(月)～26日(水)	定期試験(専門・基礎・教職科目)
27日(木)～2月3日(木)	定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
4日(金)	卒業論文口頭試問(仏教・文学部の4年次生)
4日(金)	定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
4日(金)	定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1～3年次生)
15日(火)～19日(土)	体育実技Ⅱシーズン・コース(スキー)(学部2年次生)
17日(木) 18日(金)	成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
23日(水)～3月1日(火)	追・再試験(学部4年次生・短大生)および追試験(学部1～3年次生)
19日(土)	卒業者名簿発表
25日(金)	卒業式

授業時間

時　限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時　間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

目　　次

Ⅰ　単位制と学年制

1．単位制と学年制 …… (1)
2．授業科目の単位数 …… (1)
3．授業科目の区分 …… (1)

Ⅱ　卒業に必要な単位数と卒業論文

1．卒業に必要な単位数 …… (2)
2．卒業論文 …… (4)
3．卒業及び学位記の授与 …… (4)

Ⅲ　授業科目の履修方法

1．一般教育科目の履修方法 …… (5)
2．外国語科目の履修方法 …… (6)
3．保健体育科目の履修方法 …… (8)
4．基礎教育科目の履修方法 …… (9)
5．専門教育科目の履修方法 …… (10)
6．他学部科目の履修方法 …… (18)
7．随意科目の履修方法 …… (20)
8．再履修科目の履修方法 …… (20)
※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 …… (21)
※　授業科目のコード番号について …… (22)

Ⅳ　履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1．履修科目の登録 …… (23)
2．履修届記入上の注意 …… (24)
3．履修届（時間割）の作成順序 …… (25)
4．授業時間 …… (25)

Ⅴ　試験および成績評価

1．定期試験 …… (26)
2．中間試験 …… (26)
3．追・再試験 …… (26)
4．受験心得 …… (27)
5．成績評価・単位認定 …… (27)
6．試験時間 …… (28)
7．成績発表 …… (28)

Ⅵ　進級について …… (29)

Ⅶ　クラス制およびクラス主任 …… (30)

Ⅷ　教職課程・資格講座 …… (30)

Ⅸ　事務取扱いについて

1．事務室の事務受付時間 …… (31)
2．休　　講 …… (31)
3．掲示・連絡 …… (31)
4．問い合わせ …… (31)

Ⅹ　学籍について

1．修業年限と在学年数 …… (32)
2．休　　学 …… (32)
3．復　　学 …… (32)
4．退　　学 …… (33)
5．除　　籍 …… (33)
6．懲　　戒 …… (33)
7．編 入 学 …… (33)
8．再 入 学 …… (33)
9．転部・転科 …… (33)
10．留　　学 …… (34)
11．学生氏名・保証人 …… (34)
12．学 生 番 号 …… (34)

Ⅺ　既修得単位の認定について …… (35)

Ⅻ　届書・願書について …… (36)

ⅩⅢ　各種証明書取扱い窓口 …… (37)

試験実施規程（抜粋） …… (38)
講 義 内 容 …… (41)

Ⅰ　単位制と学年制

1．単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは，授業科目を履修して試験に合格することにより，各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また，学年制とは，単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し，一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では，授業科目の履修と単位の修得を体系的，かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2．授業科目の単位数

各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3．授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1．一般教育科目	（人文分野・社会分野・自然分野）……	選択必修科目
2．外国語科目	（第1外国語・第2外国語）……	選択必修科目
3．保健体育科目	（講義・実技）……	必修科目
4．基礎教育科目	（専門教育科目の基礎となる科目）……	必修科目
5．専門教育科目	（専門的知識を内容とする科目）……	必修科目・選択科目
6．他学部科目	（履修可能な他学部公開設置科目）……	選択科目
7．随意科目	（卒業に必要な単位に含まれない科目）……	選択科目

※　必修科目　……　必ず履修しなければならない科目
　　選択必修科目　……　数科目の中から所定の科目数または単位数を選び，必ず履修しなければならない科目
　　選択科目　……　自由に選び履修できる科目

Ⅱ　卒業に必要な単位数と卒業論文

1．卒業に必要な単位数

A．平成３年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第１外国語	4	8	12	
	第２外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	88	
	選択	12	48		
	卒業論文（必修）		8		

B．昭和60年度～平成２年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第１外国語	4	8	12	
	第２外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒業論文（必修）		8		

C．昭和59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	24	132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		4	16	16	
専門教育科目	必修	14	38	76	
	選択		30		
	卒業論文（必修）		8		

2．卒業論文

卒業論文は，あらかじめ自己の研究目標に基づき，2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し，4年次で提出しなければならない。

指導教授および論題は，原則として演習Ⅰ，演習Ⅱに基づいて決定することが望ましい。

提出された卒業論文（1部）は審査の上，合格者には8単位を認定する。

イ．論題提出について

(1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上，指導教授の承認印を受けて提出すること。

(2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間　5月25日（火）～6月10日（木）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ．論文作成について

(1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して，その指導を受けなければならない。

(2) 論文は提出した論題により作成すること。

(3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。

(4) 論文は楷書でていねいに書くこと。

(5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

(6) 論文作成にあたっては『卒業論文作成の手引』を参照のこと。

ハ．論文提出について

(1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。

(2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。

(3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し，提出すること。

論文提出期間　12月1日（水）～10日（金）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき，または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ．論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い合否を判定する。

口頭試問日　2月4日（金）

3．卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し，卒業に必要な単位を修得した者には，卒業証書・学位記が授与され，次の学士の学位が与えられる。

仏教学部	禅学科 ……	学士（禅学）
	仏教学科 ……	学士（仏教学）

Ⅲ　授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

イ．授業科目は，教授会の定めるところに従い各学年に配当する。

ロ．授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は，各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし，再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。

ハ．各学年に配当された授業科目は，当該学年に限り履修することができる。ただし，下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。

ニ．各学年の履修科目数の最低および最高限度は，教授会の定めるところによる。

ホ．一度単位の認定を受けた授業科目は，再度履修することはできない。

1．一般教育科目の履修方法

イ．一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。

ロ．「宗教学Ⅰ」を1年次の必修科目とする。

ハ．2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	3科目	計12単位	合計6科目　24単位
社会分野	2科目	計8単位	
自然分野	1科目	4単位	

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」を含めて3科目選択必修	12	24	
	哲学	4				
	論理学	4				
	文学	4				
社会分野	法学憲法（日本国憲法2単位を含む）	4	2科目選択必修	8		教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。
	経済学	4				
	社会学	4				
自然分野	自然科学概論	4	1科目選択必修	4		
	心理学	4				
	人類学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2．外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を，1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1　年　次	2	4	2	4	4	8
2　年　次	2	4	－	－	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6か国語のうち英語ＩＡ・ＩＢの2科目と，入学手続の際に指定した英語以外の外国語ＩＡ・ＩＢの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ＩＡ	2		ＩＡ・ＩＢの2科目を必修とする。ただしＩＡは「英会話Ｉ（定員40名）」または「英語LLＩ（定員30名）」に振り替えることができる。なお，振り替えを希望する者は，最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し，担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ＩＢ	2		
英会話Ｉ	2		
英語ＬＬＩ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ＩＡ	2	文法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語ＩＡ・ＩＢの2科目を必修とする。
ドイツ語ＩＢ	2	講読	
フランス語ＩＡ	2	文法	
フランス語ＩＢ	2	講読	
中国語ＩＡ	2		
中国語ＩＢ	2		
スペイン語ＩＡ	2		
スペイン語ＩＢ	2		
ロシア語ＩＡ	2		
ロシア語ＩＢ	2		

※　英語科目内容

英語ＩＡ：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ＩＢ：講読を通し，内容と文構造の基本を把握する。

※　ＬＬ……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ＩＢ」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語のうち，いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 ⅡA	2		中国語 ⅡA	2	
英語 ⅡB	2		中国語 ⅡB	2	
ドイツ語 ⅡA	2	講読	スペイン語 ⅡA	2	
ドイツ語 ⅡB	2	講読	スペイン語 ⅡB	2	
フランス語 ⅡA	2	講読	ロシア語 ⅡA	2	
フランス語 ⅡB	2	講読	ロシア語 ⅡB	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ，応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し，はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

イ．外国語科目の組分けは，すべて授業時間表で指定するので，学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。

ロ．1年次の9月24日（金）～30日（木）までの期間内に，現在履修の外国語（英語と他の1か国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し，登録すること。なお，登録後の変更はできないので，十分考慮の上行うこと。

また，登録をしない場合，外国語の履修ができなくなることもあるので，登録は必ず行うこと。

ハ．なお一層の語学教育を望む学生は，外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ．不合格科目の再履修については，別に定める（P.20参照）。

ホ．2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3．保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ，講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位，実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位，計3科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ．講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ．講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※　体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は，最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので，必ず出席すること。なお，当日の服装は，普段着でよい。

ハ．体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し，単位を修得しなければならない。

A．本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B．後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C．前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ．体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し，単位を修得する。

※　体育実技Ⅱについての種目の説明，シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については，『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については，掲示板参照。）

ホ．講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4．基礎教育科目の履修方法

A．平成3年度以降入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で，1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	学　　科	授業科目	単位	備　考
1年次	禅学科	禅学序説	4	
	仏教学科	仏教学序説	4	

B．平成2年度以前入学生適用

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で，1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備　　考
1年次	基礎仏教学	4	（禅学科）禅学序説 （仏教学科）仏教学序説
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5．専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ，それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については，専門科目全般にわたって十分検討すること。なお，一度単位を修得した科目については再度履修することはできない。

禅　学　科

必 修 科 目（40単位）

A．平成３年度以降入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	坐禅 Ⅰ	4	坐禅（坐禅儀）	
	宗典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演習 Ⅰ	4		※
四年次	卒業論文	8	４頁参照	
二・三年次	禅学研究 Ⅰ	4	教義に関するもの	２年次１科目 ３年次１科目 計２科目８単位 選択必修
	禅学研究 Ⅱ	4	実践に関するもの	
	禅学研究 Ⅲ	4	教団に関するもの	
	禅学研究 Ⅳ	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		１科目４単位 選択必修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国仏教史	4		
	朝鮮仏教史	4		
	日本仏教史	4		
	中国禅宗史	4		
	日本禅宗史	4		
三・四年次	禅籍講読 Ⅰ	4	【中国初期】二入四行論・絶観論・六祖壇経・参同契 等	３年次１科目 ４年次１科目 計２科目８単位 選択必修
	禅籍講読 Ⅱ	4	【中国後期】宏智録・従容録・如浄録・臨済録 等	
	禅籍講読 Ⅲ	4	【日本初期】正法眼蔵・永平広録・伝光録・信心銘拾堤 等	
	禅籍講読 Ⅳ	4	【日本後期】孔山広録・面山広録・五家参詳要路門・盤珪禅師語録 等	

※　演習Ⅰ・演習Ⅱ（選択科目）の履修方法については，２年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅　学　科

選択科目（48単位以上）

A．平成3年度以降入学生適用

授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択		
宗教史	4	
日用経典	4	
中国古典語初級	4	
2・3・4年次選択		
仏書解説Ⅰ	4	
仏書解説Ⅱ	4	
仏教語解説	4	
禅学概論	4	
禅学研究Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること
禅学研究Ⅱ	4	
禅学研究Ⅲ	4	
禅学研究Ⅳ	4	
禅学特講Ⅰ	4	
禅学特講Ⅱ	4	
禅学特講Ⅲ	4	
禅学特講Ⅳ	4	
禅学特講Ⅴ	4	
禅学思想史	4	
禅美術	4	
禅心理学	4	
インド仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
パーリ仏教史	4	
チベット仏教史	4	
中国仏教史	4	
朝鮮仏教史	4	
日本仏教史	4	
中国禅宗史	4	
日本禅宗史	4	
仏教概論	4	
仏教研究Ⅰ	4	
仏教研究Ⅱ	4	
仏教研究Ⅲ	4	

授業科目	単位	備考
仏教研究Ⅳ	4	
仏教特講Ⅰ	4	
仏教特講Ⅱ	4	
仏教特講Ⅲ	4	
仏教特講Ⅳ	4	
仏教特講Ⅴ	4	
仏教特講Ⅵ	4	
インド仏教思想史	4	
中国仏教思想史	4	
インド仏教文化史	4	
パーリ仏教特講	4	
仏典研究	4	
原始仏教	4	
外国語仏書演習	4	
各宗綱要（浄土学）	4	輪番開講本年度は「真言学」
各宗綱要（真言学）	4	
各宗綱要（日蓮教学）	4	
仏教民俗学	4	休講
仏教美術	4	
仏教伝道概説	4	
仏教伝道研究	4	
哲学概説	4	
現代哲学概説	4	
哲学史	4	
哲学史特講	4	
哲学演習	4	
インド哲学史	4	
中国哲学史	4	休講
東洋思想研究	4	
中国文学概論	4	
中国文学演習	4	
宗教学概論	4	
宗教教育	4	

授業科目	単位	備考
宗教行政	4	隔年開講・休講
新宗教概説	4	輪番開講本年度は「神道概説」
神道概説	4	
宗教哲学	4	
キリスト教概論	4	
キリスト教史	4	
パーリ語初級	4	
パーリ語上級	4	
サンスクリット語初級	4	
サンスクリット語上級	4	
チベット語初級	4	
チベット語上級	4	
中国古典語上級	4	※イ
ラテン語特講	4	
青少年問題研究	4	
青少年指導演習	4	休講
心理学概論	4	
詩偈	4	
書道	4	
3・4年次選択		
坐禅Ⅱ	4	※ロ
禅籍講読Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること
禅籍講読Ⅱ	4	
禅籍講読Ⅲ	4	
禅籍講読Ⅳ	4	
仏典講読Ⅰ	4	
仏典講読Ⅱ	4	
仏典講読Ⅲ	4	
仏典講読Ⅳ	4	
4年次選択		
演習Ⅱ	4	

※イ．中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ．坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

禅　学　科

必 修 科 目（46単位）

B．平成２年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科　目　内　容	備　　考
二年次	禅学概論	4		
	禅宗史Ⅰ	2	中国禅宗史	
	宗典講読Ⅰ	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅（坐禅儀）	
三年次	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅宗史Ⅱ	2	日本禅宗史	
	宗典講読Ⅱ	2	大清規・信心銘拈提	
	禅学講義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禅学演習Ⅰ	2	碧巌録・従容録・無門関	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅（用心記）	
	演習Ⅰ	4		
四年次	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	禅学演習Ⅱ	2	洞山録・永平語録・臨済録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8	４頁参照	

※　演習Ⅰ・演習Ⅱ の履修方法については，２年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅 学 科

選 択 科 目（30単位以上）

B．平成２年度以前入学生適用

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択			仏教研究Ⅲ	4		東洋思想研究	4	
宗教史	4		仏教研究Ⅳ	4		中国文学概論	4	
日用経典	4		仏教特講Ⅰ	4		中国文学演習	4	
中国古典語初級	4		仏教特講Ⅱ	4		宗教学概論	4	
2・3・4年次選択			仏教特講Ⅲ	4		宗教教育	4	
禅学研究Ⅱ	4		仏教特講Ⅳ	4		宗教行政	4	隔年開講・休講
禅学研究Ⅳ	4		仏教特講Ⅴ	4		新宗教概説	4	輪番開講 本年度は「神道概説」
禅学特講Ⅰ	4		仏教特講Ⅵ	4	旧「仏教研究」	神道概説	4	
禅学特講Ⅱ	4		インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」	宗教哲学	4	
禅学特講Ⅲ	4		パーリ仏教特講	4		キリスト教概論	4	
禅学特講Ⅳ	4		仏典研究	4		キリスト教史	4	
禅学特講Ⅴ	4	旧「禅特講」	原始仏教	4		パーリ語初級	4	
禅学思想史	4		外国語仏書演習	4		パーリ語上級	4	
禅美術	4		各宗綱要（浄土学）	4	輪番開講 本年度は「真言学」	サンスクリット語初級	4	
禅心理学	4		各宗綱要（真言学）	4		サンスクリット語上級	4	
インド仏教史	4	旧「印度仏教史」	各宗綱要（日蓮教学）	4		チベット語初級	4	旧「チベット語（文法）」
パーリ仏教史	4		仏教民俗学	4	休講	チベット語上級	4	旧「チベット語（講読）」
チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」（チベット）	仏教美術	4		中国古典語上級	4	※
中国仏教史	4		仏教伝道概説	4	旧「教化法」	ラテン語特講	4	
朝鮮仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」（朝鮮）	仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」	青少年問題研究	4	
日本仏教史	4		哲学概説	4		青少年指導演習	4	休講
仏教概論	4		現代哲学概説	4		心理学概論	4	
仏教教理史Ⅰ	2	印度	哲学史	4		詩偈	4	
仏教教理史Ⅱ	2	中国	哲学史特講	4		書道	4	
仏教研究Ⅰ	4		哲学演習	4				
仏教研究Ⅱ	4		中国哲学史	4	休講			

※　中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

〔廃講科目〕
禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

〔名称変更科目〕
新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合，新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
仏教特講Ⅵ	仏教研究	禅学特講Ⅴ	禅特講
インド仏教史	印度仏教史	チベット語　初級	チベット語（文法）
インド仏教文化史	印度仏教文化史	チベット語　上級	チベット語（講読）
朝鮮仏教史	仏教史特講Ⅰ　朝鮮	仏教伝道概説	教化法
チベット仏教史	仏教史特講Ⅱ　チベット	仏教伝道研究	青少年教化法

仏教学科

必修科目（40単位）

A．平成3年度以降入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	坐禅 Ⅰ	4	坐禅（坐禅儀）	
	宗典	4	正法眼蔵・伝光録	
三年次	演習 Ⅰ	4		※
四年次	卒業論文	8	4頁参照	
二・三年次	仏教研究 Ⅰ	4	教義に関するもの	2年次1科目 3年次1科目 計2科目8単位 選択必修
	仏教研究 Ⅱ	4	実践に関するもの	
	仏教研究 Ⅲ	4	教団に関するもの	
	仏教研究 Ⅳ	4	歴史に関するもの	
	インド仏教史	4		1科目4単位 選択必修
	パーリ仏教史	4		
	チベット仏教史	4		
	中国仏教史	4		
	朝鮮仏教史	4		
	日本仏教史	4		
	中国禅宗史	4		
	日本禅宗史	4		
三・四年次	仏典講読 Ⅰ	4	原始・部派仏教（Vinaya・Suttanipāta・清浄道論・倶舎論 等）	3年次1科目 4年次1科目 計2科目8単位 選択必修
	仏典講読 Ⅱ	4	大乗仏教（般若経・法華経・華厳経・中論 等）	
	仏典講読 Ⅲ	4	中国仏教（三論玄義・摩訶止観・華厳五教章・四分律行事鈔 等）	
	仏典講読 Ⅳ	4	日本仏教（三経義疏・顕戒論・往生要集・教学抄 等）	

※ 演習Ⅰ・演習Ⅱ（選択科目）の履修方法については，2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目（48単位以上）

A．平成3年度以降入学生適用

授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択		
宗教史	4	
日用経典	4	
中国古典語初級	4	
2・3・4年次選択		
仏書解説Ⅰ	4	
仏書解説Ⅱ	4	
仏教語解説	4	
仏教概論	4	
仏教研究Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏教研究Ⅱ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏教研究Ⅲ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏教研究Ⅳ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏教特講Ⅰ	4	
仏教特講Ⅱ	4	
仏教特講Ⅲ	4	
仏教特講Ⅳ	4	
仏教特講Ⅴ	4	
仏教特講Ⅵ	4	
インド仏教思想史	4	
中国仏教思想史	4	
インド仏教文化史	4	
パーリ仏教特講	4	
仏典研究	4	
原始仏教	4	
外国語仏書演習	4	
各宗綱要（浄土学）	4	輪番開講 本年度は「真言学」
各宗綱要（真言学）	4	輪番開講 本年度は「真言学」
各宗綱要（日蓮教学）	4	輪番開講 本年度は「真言学」
仏教民俗学	4	休講
仏教美術	4	
仏教伝道概説	4	
仏教伝道研究	4	

授業科目	単位	備考
インド仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
パーリ仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
チベット仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
中国仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
朝鮮仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
日本仏教史	4	必修とした科目以外を履修すること
中国禅宗史	4	必修とした科目以外を履修すること
日本禅宗史	4	必修とした科目以外を履修すること
禅学概論	4	
禅学研究Ⅰ	4	
禅学研究Ⅱ	4	
禅学研究Ⅲ	4	
禅学研究Ⅳ	4	
禅学特講Ⅰ	4	
禅学特講Ⅱ	4	
禅学特講Ⅲ	4	
禅学特講Ⅳ	4	
禅学特講Ⅴ	4	
禅学思想史	4	
禅美術	4	
禅心理学	4	
哲学概説	4	
現代哲学概説	4	
哲学史	4	
哲学史特講	4	
哲学演習	4	
インド哲学史	4	
中国哲学史	4	休講
東洋思想研究	4	
中国文学概論	4	
中国文学演習	4	
宗教学概論	4	
宗教教育	4	

授業科目	単位	備考
宗教行政	4	隔年開講・休講
新宗教概説	4	輪番開講 本年度は「神道概説」
神道概説	4	輪番開講 本年度は「神道概説」
宗教哲学	4	輪番開講 本年度は「神道概説」
キリスト教概論	4	
キリスト教史	4	
パーリ語初級	4	
パーリ語上級	4	
ｻﾝｽｸﾘｯﾄ語初級	4	
ｻﾝｽｸﾘｯﾄ語上級	4	
チベット語初級	4	
チベット語上級	4	
中国古典語上級	4	※イ
ラテン語特講	4	
青少年問題研究	4	
青少年指導演習	4	休講
心理学概論	4	
詩偈	4	
書道	4	
3・4年次選択		
坐禅Ⅱ	4	※ロ
仏典講読Ⅰ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏典講読Ⅱ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏典講読Ⅲ	4	必修とした科目以外を履修すること
仏典講読Ⅳ	4	必修とした科目以外を履修すること
禅籍講読Ⅰ	4	
禅籍講読Ⅱ	4	
禅籍講読Ⅲ	4	
禅籍講読Ⅳ	4	
4年次選択		
演習Ⅱ	4	

※イ．中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

※ロ．坐禅Ⅱは曹洞宗教師資格取得を希望するものは履修することが望ましい。

仏教学科

必修科目（46単位）

B．平成２年度以前入学生適用

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	仏教概論	4		
	仏教教理史Ⅰ	2	印度仏教教理史	
	仏典演習Ⅰ	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅（坐禅儀）	
三年次	仏教教理史Ⅱ	2	中国仏教教理史	
	印度哲学史	2		
	経典講読Ⅰ	2	法句経・四十二章経・遺教経・心経・金剛般若経	
	仏典演習Ⅱ	2	起信論・三論玄義・四教儀・五教章	
	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅（用心記）	
	演習Ⅰ	4		
四年次	経典講読Ⅱ	2	法華経（寿量品・普門品）般若経・維摩経	
	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8	4頁参照	

※　演習Ⅰ・演習Ⅱ の履修方法については，２年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏教学科

選択科目（30単位以上）

B．平成2年度以前入学生適用

授業科目	単位	備考
1・2・3・4年次選択		
宗教史	4	
日用経典	4	
中国古典語初級	4	
2・3・4年次選択		
仏教研究Ⅰ	4	
仏教研究Ⅱ	4	
仏教研究Ⅲ	4	
仏教研究Ⅳ	4	
仏教特講Ⅰ	4	
仏教特講Ⅱ	4	
仏教特講Ⅲ	4	
仏教特講Ⅳ	4	
仏教特講Ⅴ	4	
仏教特講Ⅵ	4	旧「仏教研究」
インド仏教文化史	4	旧「印度仏教文化史」
パーリ仏教特講	4	
仏典研究	4	
原始仏教	4	
外国語仏書演習	4	
各宗綱要（浄土学）	4	輪番開講 本年度は「真言学」
各宗綱要（真言学）	4	
各宗綱要（日蓮教学）	4	
仏教民俗学	4	休講
仏教美術	4	
仏教伝道概説	4	旧「教化法」

授業科目	単位	備考
仏教伝道研究	4	旧「青少年教化法」
インド仏教史	4	旧「印度仏教史」
パーリ仏教史	4	
チベット仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅱ」（チベット）
中国仏教史	4	
朝鮮仏教史	4	旧「仏教史特講Ⅰ」（朝鮮）
日本仏教史	4	
禅学概論	4	
禅宗史Ⅰ	2	中国
禅宗史Ⅱ	2	日本
禅学研究Ⅱ	4	
禅学研究Ⅳ	4	
禅学特講Ⅰ	4	
禅学特講Ⅱ	4	
禅学特講Ⅲ	4	
禅学特講Ⅳ	4	
禅学特講Ⅴ	4	旧「禅特講」
禅学思想史	4	
禅美術	4	
禅心理学	4	
哲学概説	4	
現代哲学概説	4	
哲学史	4	
哲学史特講	4	
哲学演習	4	
中国哲学史	4	休講

授業科目	単位	備考
東洋思想研究	4	
中国文学概論	4	
中国文学演習	4	
宗教学概論	4	
宗教教育	4	
宗教行政	4	隔年開講・休講
新宗教概説	4	輪番開講 本年度は「神道概説」
神道概説	4	
宗教哲学	4	
キリスト教概論	4	
キリスト教史	4	
パーリ語初級	4	
パーリ語上級	4	
サンスクリット語初級	4	
サンスクリット語上級	4	
チベット語初級	4	旧「チベット語（文法）」
チベット語上級	4	旧「チベット語（講読）」
中国古典語上級	4	※
ラテン語特講	4	
青少年問題研究	4	
青少年指導演習	4	休講
心理学概論	4	
詩偈	4	
書道	4	

※　中国古典語初級を修得していなくても履修することができる。

〔廃講科目〕
禅学研究・禅籍講義・パーリ語演習・サンスクリット語演習

〔名称変更科目〕
新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合，新名称科目を履修することはできない。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
仏教特講Ⅵ	仏教研究	禅学特講Ⅴ	禅特講
インド仏教史	印度仏教史	チベット語　初級	チベット語（文法）
インド仏教文化史	印度仏教文化史	チベット語　上級	チベット語（講読）
朝鮮仏教史	仏教史特講Ⅰ　朝鮮	仏教伝道概説	教化法
チベット仏教史	仏教史特講Ⅱ　チベット	仏教伝道研究	青少年教化法

6．他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ．履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.19参照）

ロ．履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ．履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ．履修方法

(1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，**『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。**

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

(2) 『単位履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（単位履修届提出時）に提出すること。

ホ．履修登録上の注意

(1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。

(2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（００５…）で登録すること。

(3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ．再　履　修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.20）を参照のこと。

ト．単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
国文学科	上代文学	4	3・4	
	中世文学	4	3・4	
	近世文学	4	3・4	
	近代文学	4	3・4	
	中国文学	4	3・4	
英米文学科	英文学特講Ⅰ	4	3・4	
	英文学特講Ⅱ	4	3・4	
	英文学特講Ⅲ	4	3・4	
	英文学特講Ⅳ	4	3・4	
	英文学特講Ⅴ	4	3・4	
	英文学特講Ⅵ	4	3・4	
	英米演劇特講	4	3・4	
	米文学特講Ⅰ	4	3・4	
	米文学特講Ⅲ	4	3・4	
	時事英語	4	3・4	
地理学科	地質学	4	3・4	
	地形学Ⅰ	4	3・4	
	人口地理学	4	3・4	
	応用地理学Ⅰ	4	3・4	
	文化地理学	4	3・4	
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4	休講
	日本史特講Ⅶ（近代）	4	3・4	
	東洋史特講Ⅹ（近・現代）	4	3・4	
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4	休講
	考古学特講Ⅲ	4	3・4	隔年開講・休講
	歴史哲学	4	3・4	
	日本民俗学	4	3・4	
社会学科	マスコミュニケーション	4	3・4	
	産業社会学	4	3・4	
	都市社会学	4	3・4	
	社会福祉発達史	4	3・4	
経済学科	ロシア・東欧経済論	4	3・4	※イ
	社会政策	4	3・4	
	国民所得論	4	3・4	
	中国経済論	4	3・4	
	アジア経済論	4	3・4	
	日本経済史	4	3・4	
	中小企業論	4	3・4	
	教育経済論	4	3・4	
	アメリカ経済論	4	3・4	

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考
商学科	財務会計論	4	3・4	
	管理会計論	4	3・4	
	会計監査論	4	3・4	
	商業政策	4	3・4	
	貿易論	4	3・4	
	マーケティング	4	3・4	
	原価計算論	4	3・4	
	労務管理論	4	3・4	
法律学科	行政法Ⅱ	4	3・4	
	民法Ⅳ(1)	4	3・4	
	民法Ⅳ(2)	4	4	
政治学科	比較憲法	4	3・4	
	地方自治法	4	3・4	休講
	経済法	4	3・4	
	国際関係論	4	3・4	
	西洋政治史	4	3・4	
	宣伝広告論	4	3・4	
	比較社会構造論	4	3・4	休講
	政党論	4	3・4	
経営学科	国際経営論	4	3・4	
	経営統計	4	3・4	
	保険経営論	4	3・4	
	財務会計論	4	3・4	
	経営分析論	4	3・4	
	税務会計論	4	3・4	
	経営労務論	4	3・4	
	商業史	4	3・4	
短大国文科	国文講読Ⅰ（上代）	2	3・4	
	国文講読Ⅱ（中古）	2	3・4	
	国文講読Ⅲ（中世）	2	3・4	
	国文講読Ⅳ（近世）	2	3・4	
	国文講読Ⅴ（近・現代）	2	3・4	
	国文特講Ⅴ（近・現代）	4	3・4	
短大英文科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4	
	時事英語	4	3・4	
	英語演習Ⅰ	4	3・4	
短大放射線科	計算機言語概論	2	3・4	半期科目 ※ロ
	臨床放射線特論Ⅰ	2	3・4	半期科目
	応用計測学	2	3・4	半期科目

※イ．「ロシア・東欧経済論」 旧「ソビエト経済論」ソビエト経済論の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ．計算機言語概論については，機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7．随意科目の履修方法

各学科とも２・３・４年次で履修することができるが，卒業に必要な単位に含めることはできない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
日本宗教文化史	4		スペイン語Ｆ	2		中国語FLL(中級)	2	
民間信仰論	4		ロシア語Ｆ	2		ｽﾍﾟｲﾝ語FLL(初級)	2	
書道史	2	半期科目	英語ＬＬⅡ	2	※ロ	ｽﾍﾟｲﾝ語FLL(中級)	2	
編集実務	2	半期科目	ドイツ語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
英会話Ⅱ	2	※ロ	ドイツ語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
ドイツ語Ｆ	2		ﾌﾗﾝｽ語FLL(初級)	2		英語（海外演習）	2	※イ
フランス語Ｆ	2		ﾌﾗﾝｽ語FLL(中級)	2				
中国語Ｆ	2		中国語FLL(初級)	2				

※イ．「英語（海外演習）」は，海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで，１年次生より履修できる。なお，詳細については，講義内容（P.53）を参照のこと。

※ロ．「英会話Ⅱ」・「英語ＬＬⅡ」の履修を希望する者は，最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し，担当教員の捺印を受けること。

8．再履修科目の履修方法

イ．再履修とは，前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。

ロ．再履修する場合，授業科目名が同じであれば，担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ．再履修の授業科目は，新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ．外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は，それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお，外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』（教務部⑩番窓口で配布）から履修し，最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし，原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は，『外国語再履修票』を必要としない。

ホ．１年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で，原則として１・２年次において履修すること。

○日本語科目は，各所属学科の定めるところにより第１外国語または第２外国語として履修すること。修得単位は，外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は，８科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

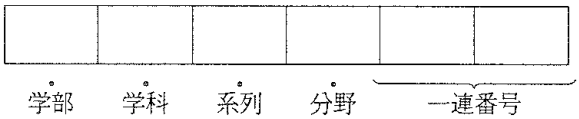
○各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は，これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は，『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし，その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ．科目コードの区分



ロ．学部・学科番号は「学生番号（P.34参照）」での説明のとおりである。

ハ．系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1（必修）・2（選択）
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実技		1
講義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

Ⅳ　履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1．履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

Ⅰ）各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次のとおりとする。

年　　次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1　年　次	14　科　目	——
2　年　次	14科目以内	18科目以内
3　年　次	14科目以内	18科目以内
4　年　次	1　科　目　以　上	

イ．2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

（注）再度履修する科目であっても，前年度において履修登録していない場合は，新履修科目数に含める。

ロ．4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ．半期科目も1科目とする。

ニ．課程・講座科目を履修する場合

認める　……　新履修制限科目数　14科目以内＋課程・講座科目数＝18科目

認めず　……　新履修制限科目数　15科目以上＋課程・講座科目数＝18科目

Ⅱ）登録上の注意

イ．履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ．履修届は，4月21日(水) 9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ．所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.19参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ．履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ．いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。

ヘ．『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

Ⅲ）履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

（記）5月13日(水)・14日(木)……　9：30～16：00　昼休み除く

履修届（本人控）と照合の上，誤りのある場合は，5月15日(金)～18日(月)までに教務部⑨番窓口で

訂正すること。

※　受付時間（9：30〜16：00　昼休み除く，土曜日は9：30〜正午まで）

2．履修届記入上の注意

授業時間表（例）

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者名	担当者コード
月	1	ドイツ語ＩＡ	112201	百済　勇	879
月	2	保健体育理論（前期）	114201	長濱友雄	A10
		保健体育理論（後期）			622
月	3	宗教学Ｉ	110101	岡部和雄	157
月	4	論理学	110203	国嶋一則	306
月	5	自然科学概論	110401	宇和川正人	104

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
月(1)	1		ドイツ語ＩＡ	112201	百済	879
	2		保健体育理論（前期）	142101	長濱	A10
	3		宗教学Ｉ	110101	岡部	157
	4	○	論理学	110203	国嶋	306
	5		自然科学概論	110401	宇和川	104

イ．楷書体で正確に記入すること。

ロ．記入の際は，必ず黒または青インクを使用し，捺印の上提出すること。

ハ．授業時間表のとおり記入すること。ただし，「担当」欄には，担当教員の姓のみを記入すること。

ニ．半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記，正しい記入例参照のこと）を入れ，前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ．再履修科目がある場合は，再履欄に○印をつけること。

ヘ．履修届は電算機で処理しているため，下記の場合には，登録が無効となるので注意すること。

(1)　科目名・科目コード，担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合

(2)　時限を誤って記入した場合

(3)　判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字0と6，1と7）

(4)　その他，不明瞭に記入した場合

ト．体育実技の記入方法は，授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを正しく記入すること。

チ．自己の責任において，必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ．履修届の本人控を正確に記入し，紛失しないように保管すること。

3．履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により，各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが，その場合必修科目，選択必修科目，選択科目の順序で決定すること。また，一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し，上級学年に進むに従い専門教育科目，教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合，次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ　（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語　（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ　（必修）	2
4	基礎教育科目	（禅学科）禅学序説，（仏教学科）仏教学序説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
6	専門教育科目	開講科目の中から1科目を選択	1
1年次履修制限科目数			14

4．授業時間

授業時間は，次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9：00～10：30	10：40～12：10	12：50～14：20	14：30～16：00	16：10～17：40

V　試験および成績評価

1．定期試験

イ．前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日（水）～7月20日（火）に，後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日（月）～2月3日（木）に実施する。

ロ．正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ．筆記試験のかわりにリポートの提出を課せられた場合は，論題，枚数，提出日時，提出先等をよく確認の上，表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し，読み易くとじた上で提出すること。

なお，指定された日・時以外は一切受理しない。

ニ．試験時間割は，原則として平常の講義の時限とし，時間および教場等については掲示で発表する。

（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日，時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2．中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（リポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3．追・再試験

Ⅰ）追　試　験

イ．追試験は，やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・リポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合，欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し，自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月23日（金），後期2月4日（金）〕

ロ．追試験料は徴収しない。

Ⅱ）再　試　験

1・2・3年次生については，再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ．卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・リポート提出を含む）を受験し，不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ．受験料は1科目1,000円とする。

（注意）前期終了科目の追・再試験は9月25日（土）～10月1日（金）に，後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日（水）～3月1日（火）に実施する。

Ⅲ）体育・外国語科目・その他

イ．体育実技，禅学実習，坐禅，その他実験実習を伴う科目は，追・再試験ともこれを行わない。

ロ．外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし，定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4．受験心得

イ．当該受験科目を履修登録していること。

ロ．指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。

ハ．学生証を携帯していない学生は受験できない。

ニ．学生証は試験中，机上に提示しておくこと。

ホ．試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。

ヘ．試験開始後30分を経過し，受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。

ト．学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。

チ．無記名の答案は無効となるので注意すること。

リ．配布された答案用紙は必ず提出し，試験場外へ持ち出してはならない。

ヌ．試験場（教場）においては，すべて試験監督員の指示に従うこと。

ル．試験場（教場）の秩序を乱したり，試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。

ヲ．試験において下記のような不正受験行為があった場合は，「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。

(1) 代人として受験したり，または代人受験を依頼すること。

(2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。

(3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。

(4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり，書き写しさせること。

(5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり，連絡を受けること。

(6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。

(7) 答案用紙をすり替えたり，すり替えさせること。

(8) その他上記に類似する行為をすること。

ワ．学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については，教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5．成績評価・単位認定

イ．定期試験の成績は，優(100点～80点)，良（79点～70点），可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし，優，良，可を合格，不可は不合格として発表する。

なお，素点に関する問い合わせは一切受付ない。

ロ．所定の授業時間数の３分の２以上授業に出席し，合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。

ハ．追試験の成績評価は定期試験に準ずる。

ニ．再試験（４年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6．試験時間

定期試験実施時間（前　期）	
1時限　9：20～10：20	4時限　14：40～15：40
2時限　10：50～11：50	5時限　16：10～17：10
3時限　13：10～14：10	

定期試験実施時間（後　期）	
1時限　9：30～10：30	4時限　14：30～15：30
2時限　11：00～12：00	5時限　15：50～16：50
3時限　13：00～14：00	

追・再試験実施時間（前期）
1時限　16：10～17：00
2時限　17：10～18：00

追・再試験実施時間（後期）
1時限　9：30～10：20
2時限　10：50～11：40
3時限　13：00～13：50
4時限　14：10～15：00
5時限　15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.38）ので参照のこと。

7．成績発表

イ．前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。

ロ．成績の質疑については，成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし，評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。

ハ．成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表	9月16日（木），17日（金）
後期成績発表（卒業年次生）	2月17日（木），18日（金）
〃　（在　校　生）	4月9日頃

Ⅵ　進級について

上級学年に進級するためには，進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし，基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○　注意進級とは，進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
　これによる進級者は，修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり，卒業が困難となる場合もあるので，十分反省して勉学に努める必要がある。

○　修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は，原級とし，同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進　　級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し，一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが，一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが，一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が，13単位以上不足している場合。

※　各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。
※　随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ　クラス制およびクラス主任

イ．1年次は学科毎にクラス制をとっている。

ロ．クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり，学生の学習指導，生活相談等にあたっているから遠慮なく相談されたい。

Ⅷ　教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得のための課程・講座は，次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備考
教職課程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は，中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	〃	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博物館学講座	〃	社会教育の場として博物館が十分に利用され，その目的，使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	〃	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。（社会福祉士の基礎科目も修得可能）
社会教育主事講座	〃	社会教育活動を行う者に対し，求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は，1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し，教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。）

なお，ガイダンスの日時等については，実施1ヵ月前より掲示板で，その旨指示する。

Ⅸ　事務取扱いについて

1．事務室の事務受付時間

イ．事務受付時間は，９時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし，昼食休憩時間は12時から13時とし，この時間は事務受付を休止する。

ロ．履修届提出・成績発表等各申込の受付は，９時30分から16時までとする。

2．休　　講

イ．休講は担当教員より連絡があり次第，休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って，教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は，教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。

ロ．運輸機関のストライキによる休講措置については午前７時現在，ＪＲ東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3．掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は，すべて掲示板に発表するので，登校・下校の際は，必ず掲示板を見ること。また，学生個人に対する伝達事項も，掲示または，郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4．問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定，休講，授業，学籍，試験，成績，その他）は，間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは，必ず登校のうえ，掲示板を見るか，関係事務室窓口で問い合わせること。

X　学籍について

1．修業年限と在学年数

イ．修業年限とは，大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）

ロ．在学年数とは，大学において学生の身分を有することができる期間のことで，本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2．休　　学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは，理由を付し，保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

Ⅰ）休学の手続き

イ．休学願に添えて次の書類を提出すること。

(1)　傷病の場合は，医師の診断書

(2)　外国で修学する場合は，修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届

(3)　その他の理由の場合は，保証人連署の休学を必要とする理由書

ロ．休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。

ハ．休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは，保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

Ⅱ）休学の期間

イ．休学の期間は1学年を区分とし，休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。

ロ．引き続き休学を要する特別な事情があるときは，許可を得てさらに1年に限り休学することができる。

ハ．休学期間は通算4年を超えることはできない。

ニ．休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

Ⅲ）休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学　　費
4月1日～9月20日	Ⅰ期（前期）分納入済のこと。（Ⅱ期分免除）
9月21日～11月30日	Ⅰ期（前期）分・Ⅱ期（後期）分共納入のこと。

Ⅳ）休学原級

休学を許可された者は，翌年度は現学年に原級留置とする。

3．復　　学

イ．休学した者が復学する場合は，Ⅰ期（前期）学費を納入の上，保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。

ロ．傷病で休学した場合は，通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4．退　　学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は，所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ．退学願は，退学理由を付し保証人連署で願い出ること。

ロ．退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ．退学年月日は次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者 …… 退学願提出日

(2) 当該期学費未納者 …… 学費納入済学期の最終日

5．除　　籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ．在学年数を超えた者

ロ．休学期間を超えた者

ハ．学費の納付を怠り，督促を受けてもなお納入しない者

6．懲　　戒

イ．本大学の学則等に違反し，その他学生の本分に反する行為があった場合，情状により譴責，停学，退学の処分をする。

ロ．退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で，改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し，その他学生としての本分に反した者

7．編　入　学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で，同一学部の他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは，選考の上入学を許可することがある。

ただし，編入学者の学年は，単位を修得した授業科目によっては，2年次となる場合がある。

8．再　入　学

本大学を退学した者または除籍された者で，再入学を希望する者があるときは，選考の上許可することがある。

イ．入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ．退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ．再入学者の在学年数は，従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9．転部・転科

本大学の学生で，同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは，選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は，転部・転科した年次にかかわらず，入学の時期から通算する。

10. 留　　学

本大学の学生で，外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは，教授会の議を経てこれを許可することがある。

イ．履修した授業科目の修得単位については，本大学において修得したものとみなし，卒業所要単位に算入することができる。

ロ．留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

イ．学生氏名は，住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきＪＩＳ第１水準・第２水準文字で運用する。

ロ．外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は，願い出て許可を得ること。

ハ．通称名使用の許可を得た者は，本大学在学中一貫して通称名を使用することとし，本大学発行の証明書，成績表，各種名簿等はすべて通称名で表示する。

ニ．保証人は原則として，父，母とし，やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。

ホ．保証人は，学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。

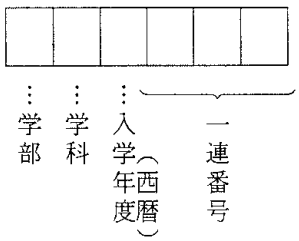
ヘ．学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは，すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学 生 番 号

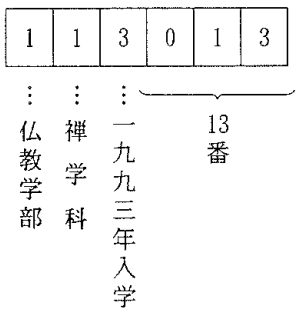
イ．学生番号は在学中はもとより，卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。

ロ．学生番号は６桁の数字からなっていて，その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



（例）1993年度入学・仏教学部
禅学科13番の場合



学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1	
禅学科		1
仏教学科		2
文学部	2	
国文学科		1
英米文学科		2
地理学科		3
歴史学科		4
社会学科		5
経済学部	3	
経済学科		1
商学科		2
法学部	4	
法律学科		1
政治学科		2
経営学部	5	
経営学科		1

XI　既修得単位の認定について

イ．新たに第１年次に入学した者

(1)　他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し，新たに本学の第１年次に入学した者は，従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち，一般教育科目，外国語科目および保健体育科目については，合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。

(2)　既修得単位の認定を受けようとする者は，申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて，教務部長に願い出なければならない。

(3)　既修得単位の認定は，教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ．編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は，提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ．再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ．転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は，提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ．留　学　者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が，留学先で修得した授業科目の単位は，提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は，卒業所要単位に算入される。

XII　届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種類		要領（必要書類）	本人印	保証人印	取扱窓口
届書	単位履修届	・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠試届	・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること（締切日は掲示参照）	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	・所定用紙あり ・掲示板にて指示	要	不要	⑥
	改氏名届	・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県名）変更届	・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・所定用紙あり ・在学誓書（保証書）添付	要	要	
	保証人住所変更届	・所定用紙あり ・変更後1週間以内	要	不要	
	死亡届	・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類（写し可）添付		要	
願書	休学願	・所定用紙あり ・傷病による場合は，医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は，修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は，保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復学願	・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は，医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること	要	要	
	退学願	・所定用紙あり ・学生証添付	要	要	

XIII　各種証明書取扱い窓口

<table>
<tr><th>証明書名</th><th>取扱窓口</th><th>料金</th></tr>
<tr><td>成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）</td><td rowspan="8">教務部④番</td><td rowspan="9">在学者にかかわる
証明書　1通200円
（英文 500円）

卒業者にかかわる
証明書　1通300円
（英文 600円）</td></tr>
<tr><td>成績証明書</td></tr>
<tr><td>卒業証明書</td></tr>
<tr><td>教員免許状取得見込証明書</td></tr>
<tr><td>教職・講座単位修得（見込）証明書</td></tr>
<tr><td>一般教養科目修了（見込）証明書</td></tr>
<tr><td>その他の諸証明書</td></tr>
<tr><td>人物考査書</td><td>就職部</td></tr>
<tr><td>健康診断証明書</td><td>学生部③番</td><td></td></tr>
<tr><td>在学証明書</td><td rowspan="3">学生部②番</td><td></td></tr>
<tr><td>学割</td><td>無料</td></tr>
<tr><td>通学証明書</td><td>無料</td></tr>
</table>

※　経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し，手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上，取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は，6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので，掲示に注意し，十分余裕をもって申し込むこと。

※　成績証明書は，卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目　的）

第1条　この規程は，駒沢大学（以下「学部」という。），駒沢短期大学（以下「短大」という。），駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条　試験は，当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条　試験の種類は，次のとおりとする。

(1) 定期試験　履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。

(2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。

(3) 再試験　第1号の試験を受験し不合格となった者について，臨時に行う試験をいう。

(4) 中間試験　第1号，第2号，第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。

2．試験の実施時期については，行事予定表をもってこれを定める。ただし，中間試験については，この限りではない。

3．第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は，次の各号の一に該当するときは，これを実施しない。

(1) 学部1・2・3年次生の再試験

(2) 学部外国語科目，体育実技，演習，その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験

(3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条　試験は，筆記，口述又は実技によって行う。ただし，授業科目担任者の決定により，レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条　試験時間は，原則として第1部は60分，第2部は50分とする。ただし，追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条　授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには，次の各号の条件を満たしていなければならない。

(1) 当該授業科目を履修登録していること。

(2) 授業料その他の学費を納入していること。

2．前項の条件を満たしているときであっても，当該授業科目について，出席すべき時間数の３分の１以上欠席している者については，当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3．追試験を受験するためには，定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し，許可を受けなければならない。
4．再試験を受験するためには，所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し，許可を受けなければならない。

（受験資格の喪失）

第７条　次の各号の一に該当するときは，当該授業科目試験の受験資格を失う。

(1) 学生証を携帯していないとき。
(2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
(3) 試験監督員の指示に従わないとき。
(4) 不正受験行為を指摘されたとき。

（受験心得）

第８条　試験を受ける者は，別に定める受験心得を遵守しなければならない。

（無効答案）

第９条　次の各号の一に該当する答案は，無効とする。

(1) 受験資格を有しない者の答案
(2) 不正受験行為により作成された答案
(3) 氏名，学生番号が記載されていない答案
(4) 指定された時間，指定された場所に提出されない答案
(5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

（成績評価及び単位認定）

第10条　試験の成績は，優(100点～80点)，良（79点～70点），可（69点～60点），不可（59点～０点）の４段階に分け，優，良，可を合格とし，不可を不合格とする。ただし，再試験の成績は，良（70点），可，不可のいずれかとする。
2．合格した授業科目については，所定の単位を修得したものと認める。

（不正受験行為者の処分）

第13条　不正受験行為者の処分については，別に定める。

（事務所管）

第14条　試験実施にかかわる事務は，教務部（教務課，第二学事課）の所管とする。

附　則

この規程は，昭和59年７月13日から施行する。

講 義 内 容 目 次

一 般 教 育 科 目 …… (45)

保 健 体 育 科 目 …… (48)

随 意 科 目 …… (49)

基 礎 教 育 科 目 …… (54)

専 門 教 育 科 目 …… (55)

他 学 部 履 修 科 目 …… (71)

〔巻 末〕

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野

宗教学 Ⅰ（松本 晧一）……45
宗教学 Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）……45
宗教学 Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）……45
哲 学（久保 陽一）……45
論理学（寺田 誠一）……45
文 学（篠原 壽雄）……45

社会分野

法学憲法（齋藤 洋）……46
経済学（石井 啓雄）……46
社会学（角家 文雄）……46

自然分野

自然科学概論（清水 善和）……46
人類学（江藤 盛治）……46
心理学（高橋 良博）……46

保健体育科目

保健体育理論（森本 葵）……48
保健体育理論（再クラス）（田中 佳孝）……48
保健体育理論（再クラス）（宮沢 栄作）……48

随意科目

日本宗教文化史（井上 順孝）……49
民間信仰論（谷口 貢）……49
書道史（那須 隆吉）……49
編集実務（長谷川 孝）……49
英会話 Ⅱ（P.A.Bendinelli ・ T.A.Grange
W.Hubbard ・ D.J.Nolan
J.K.Wells ・ P.Ziegler）……49
英語ＬＬⅡ（T.J.Cogan ・岩山 義春
大庭 直樹）……50
ドイツ語Ｆ（柴野 博子）……51
ドイツ語ＦＬＬ（初級）（小林 ゲアリンデ）…51
ドイツ語ＦＬＬ（中級）（松岡 晋）……51
フランス語Ｆ（桑田 禮彰）……51
フランス語ＦＬＬ（初級）（小玉 齊夫）……51
フランス語ＦＬＬ（初級）（M.マルタン）……51
フランス語ＦＬＬ（中級）（M.マルタン）……52
中国語Ｆ（岩崎 皇）……52
中国語ＦＬＬ（初級）（小川 隆）……52
中国語ＦＬＬ（中級）（松本 丁俊）……52
スペイン語Ｆ（ソニア・エレロ・ガルシア）……52
スペイン語ＦＬＬ（初級）（ホワン・ナバロ）…52
スペイン語ＦＬＬ（中級）（ホワン・ナバロ）…52
ロシア語Ｆ（杉山 秀子）……52
ロシア語ＦＬＬ（初級）（廣田 英靖）……53
ロシア語ＦＬＬ（中級）（滝川 ガリーナ）……53
英 語（海外演習）……53

基礎教育科目

禅学序説（原田 弘道）……54
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）
仏教学序説（皆川 広義）……54
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）
仏教学序説（伊藤 隆壽）……54
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）
平成２年度以前入学生：
仏書解説Ⅰ（伊藤 秀憲）……（54）
平成２年度以前入学生：
仏書解説Ⅱ（吉津 宜英）……（54）
平成２年度以前入学生：
仏教語解説（峰岸 孝哉）……（54）

専門教育科目

１年次以降履修科目

宗教史（松本 晧一）……55
日用経典（皆川 広義）……55
中国古典語初級（中村 璋八）……55

２年次以降履修科目

仏書解説Ⅰ（伊藤 秀憲）……55
仏書解説Ⅱ（吉津 宜英）……55
仏教語解説（峰岸 孝哉）……56
禅学概論（黒丸 寛之）……56
仏教概論（袴谷 憲昭）……56
禅学研究Ⅰ（青竜 宗二）……56
（平成２年度以前入学生：宗典講読Ⅰ）
禅学研究Ⅱ（佐藤 秀孝）……56
禅学研究Ⅲ（大谷 哲夫）……56
（平成２年度以前入学生：宗典講読Ⅱ）
禅学研究Ⅳ（原田 弘道）……56
仏教研究Ⅰ（池田 練太郎）……56
仏教研究Ⅱ（吉津 宜英）……57
仏教研究Ⅲ（石川 力山）……57
仏教研究Ⅳ（伊藤 隆壽）……57
禅学特講Ⅰ（原田 弘道）……57
禅学特講Ⅱ（黒丸 寛之）……57
禅学特講Ⅲ（石井 修道）……57
禅学特講Ⅳ（鈴木 格禅）……58
禅学特講Ⅴ（椎名 宏雄）……58
仏教特講Ⅰ（池田 練太郎）……58
仏教特講Ⅱ（納冨 常天）……58
仏教特講Ⅲ（鎌田 茂雄）……58
仏教特講Ⅳ（太田 久紀）……58

仏教特講Ⅴ（石川　力山）……59
仏教特講Ⅵ（田上　太秀）……59
インド仏教史（田上　太秀）……59
パーリ仏教史（片山　一良）……59
チベット仏教史（松本　史朗）……59
中国仏教史（佐藤　達玄）……59
朝鮮仏教史（鎌田　茂雄）……60
日本仏教史（石川　力山）……60
禅学思想史（峰岸　孝哉）……60
中国禅宗史（田中　良昭）……60
（平成２年度以前入学生：禅宗史Ⅰ）
日本禅宗史（原田　弘道）……60
（平成２年度以前入学生：禅宗史Ⅱ）
坐　禅　Ⅰ（河村　孝道・小坂　機融
永井　政之・伊藤　秀憲）……60
（平成２年度以前入学生：禅学実習Ⅰ）
宗　　典（黒丸　寛之）……61
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）
宗　　典（河村　孝道）……61
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）
詩　　偈（山口　晴通）……61
書　　道（野村　宙弘）……61
禅　美　術（海老根　聰郎）……61
インド仏教文化史（奈良　康明）……61
インド仏教思想史（袴谷　憲昭）……62
（平成２年度以前入学生：仏教教理史Ⅰ（印度））
中国仏教思想史（岡部　和雄）……62
（平成２年度以前入学生：仏教教理史Ⅱ（中国））
インド哲学史（金沢　　篤）……62
（平成２年度以前入学生：印度哲学史）
仏典研究　（木村　誠司）……62
原始仏教　（片山　一良）……62
パーリ仏教特講（片山　一良）……62
外国語仏書演習（松本　史朗）……63
パーリ語初級（片山　一良）……63
パーリ語上級（福田　孝雄）……63
サンスクリット語初級（金沢　　篤）……63
サンスクリット語上級（金沢　　篤）……63
チベット語初級（松本　史朗）……63
チベット語上級（木村　誠司）……63
中国古典語上級（小川　　隆）……64
ラテン語特講（佐藤　玖美子）……64
宗教学概論　（松本　晧一）……64
キリスト教史（三小田　敏雄）……64
キリスト教概論（鶴岡　賀雄）……64
神道概説（土岐　昌訓）……64
各宗綱要（真言学）（福田　亮成）……64
仏教美術（中島　亮一）……65
宗教教育（松本　晧一）……65
仏教伝道概説（皆川　広義）……65
仏教伝道研究（皆川　広義）……65
青少年問題研究（前期：中野　東禅）……66
（後期：和田　謙寿）
哲　学　概　説（杖下　隆英）……66
現代哲学概説（田島　節夫）……66
哲　　学　　史（中村　友太郎）……66
哲　学　演　習（久保　陽一）……66
哲学史特講　（杖下　隆英）……67
中国文学概論（篠原　壽雄）……67
中国文学演習（中村　璋八）……67
東洋思想研究（舘野　正美）……67
心理学概論　（篠原　英壽）……67
禅　心　理　学　（茅原　　正）……67
坐　禅　Ⅱ（鈴木　格禅・伊藤　秀憲
石井　清純）……68
（平成２年度以前入学生：禅学実習Ⅱ）
禅籍講読Ⅰ（小坂　機融）……68
（平成２年度以前入学生：禅学講義）
禅籍講読Ⅱ（大谷　哲夫）……68
（平成２年度以前入学生：禅学演習Ⅰ）
禅籍講読Ⅲ（大谷　哲夫）……68
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅱ）
禅籍講読Ⅲ（青竜　宗二）……68
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅱ）
禅籍講読Ⅳ（峰岸　孝哉）……68
（平成２年度以前入学生：禅学演習Ⅱ）
仏典講読Ⅰ（池田　練太郎）……69
（平成２年度以前入学生：経典講読Ⅰ）
仏典講読Ⅱ（岡部　和雄）……69
（平成２年度以前入学生：経典講読Ⅱ）
仏典講読Ⅲ（伊藤　隆壽）……69
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅱ）
仏典講読Ⅲ（木村　誠司）……69
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅱ）
仏典講読Ⅳ（佐藤　達玄）……69
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅰ）
仏典講読Ⅳ（石川　力山）……69
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅰ）

一　般　教　育　科　目

人　文　分　野

宗　教　学　Ⅰ

松　本　晧　一

宗教に対する全般的理解を深め，仏教（禅）に対する基礎的学識をつちかう。特に現代社会の中で宗教はどんな役割を果たしうるか，という問題を中心にする。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
〔参考書〕『宗教学Ⅰ』（更生社）

宗　教　学　Ⅰ（再クラス）

岡　部　和　雄

前半では宗教とは何かという問題について，現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり，その基本的輪郭を明らかにしようと思う。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道１』（東京書籍）

宗　教　学　Ⅰ（再クラス）

奈　良　康　明

人間生活における宗教，仏教の意味，機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来うるかぎり，現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲　　学

久　保　陽　一

哲学は生きるための支え，拠り所を求めつつ，同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で，哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし，それにより生きることを学ぶものである。授業では，最初，この哲学的思索がいかにして行われ，いかなる問いが立てられねばならないか，について一般的な要点を説明する。それを，更に，具体的に過去の哲学の営みを通して検討し，現代的視点から過去の哲学 ― 古代ギリシア哲学から現代哲学にいたるまで ― の意味を学ぶことにする。
〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕その都度指示する。

論　理　学

寺　田　誠　一

科学であれ哲学であれ，また日常的な行為においても，正しい論理的思考が求められるが，それを主題的に探究するのが論理学である。授業では，前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学（概念論，判断論，推理論等）を取り上げる。後期では，現代の記号論理学の基礎的内容（命題論理学と述語論理学）を学ぶ。
〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕その都度指示する。

文　　学

篠　原　壽　雄

より知的生活を目指す人間は，書かれたもの（書物）を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって，その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では，これからの研究に欠くことのできない基礎教養を目ざして，中国の古典をえらんで文学として鑑賞すると共に，その訓読法を学び，将来，漢訳仏典，禅録を研究する一助にしたい。
〔教科書〕『論語集註』（明治書院）￥1,500
プリント，他は随時示す。

社　会　分　野

法　学　憲　法

齋　藤　　洋

前半は法学一般の諸ルールを中心に説明する。後半は日本国憲法について，特に重要な事項をとりあげて，その内容を概説する。その際，あまりこまかい点には触れず，又，国際法などとの関連にも言及したいと思う。

〔教科書〕大西芳雄著『法学ノート』（法律文化社）

経　済　学

石　井　啓　雄

人文科学系の一般教育科目として位置づけられているこの経済学の講義では，時事的な問題 ― 例えば現代日本の大がかりな政治汚職とその経済的背景，ソ連・東欧体制の崩壊とその経済的背景，ガット協議・米市場開放と日本および世界の経済，など ― をとりあげながら経済問題と経済理論について学生諸君が将来とも関心をもちうるような講義をしたいと思う。そして最後に，経済学の基礎的理論の第一歩について講義したい。

テキストは用いず，参考書などを適宜指示していく。

社　会　学

角　家　文　雄

社会学の基礎理論と，その応用として教育社会学，マスコミ社会学を講義する。

〔教科書〕角家文雄著『現代社会の諸相』（学陽書房）¥1,700

自　然　分　野

自然科学概論

清　水　善　和

現在，地球環境の破壊とその保全が，世界的な課題となっている。本講義では，Ⅰ．環境破壊（CO_2 の温室効果，オゾン層破壊，酸性雨等），Ⅱ．放射能汚染（原発の事故，廃棄物等），Ⅲ．自然保護（熱帯林の破壊，砂漠化，種の保護等）の３つの観点から地球環境問題を取りあげ，自然と人間とのかかわり合いについて考える。

〔教科書・参考書〕なし

人　類　学

江　藤　盛　治

生物としての人類について，自然人類学の視点から考察を加え，文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか，動物だと言い切って間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり，過去から現在に至る道程のなかから，動物としての人類の本質を探り，また人類の将来をみつめてみたい。３本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが，本質的には「進化」も「変異」も「適応」の所産に他ならない。「文化」とは何かを含めて，人類という特殊な動物にせまってみたい。

教科書は使用しない。参考書は必要に応じてその都度紹介する。なるべく平易に講義するつもりである。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくれれば有難い。

心　理　学

高　橋　良　博

心理学を初めて学ぶ者を対象として，なるべく日常的な問題に即しながら，心理学の主要な領域と，その研究方法についての知識を深め，人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また，講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気を伝えたい。
〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』
（八千代出版）¥1,500

保　健　体　育　科　目

保健体育理論

森　本　　葵

体力づくり
〈若年層における体力づくりの必要性〉
〈体力のメカニズム〉
〈体力づくりの方法〉
〈体力づくりにかかわる疲労の問題〉
〈疲労の判定法〉
オリンピックゲーム
〈歴　史〉
〈問題点〉
〈その将来〉
〔教科書〕『保健体育理論』（科学書院）
〔参考書〕『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

保健体育理論（再クラス）

田　中　佳　孝

健康生活を維持する為に必要な栄養学的知識について，食物とビタミンを中心に講義を展開する。
内容はビタミンの生理作用と薬理作用・ストレス・喫煙と飲酒・身体に良い食物・間違ったダイエット等について話し，ＡＩＤＳについて識る。

保健体育理論（再クラス）

宮　沢　栄　作

大学保健体育の目的をふまえ，我が国体育の変遷にふれ，併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし，身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理，解剖学的根拠をもって図る。具体的には，栄養学を含めた体力トレーニング論と，価値あるべきスポーツが，方法を誤ると重大な障害を引き起すスポーツ障害の原因，予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて，ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

随　意　科　目

日本宗教文化史

井　上　順　孝

日本の宗教文化が，近世から近代・現代にかけて，どのように変化したかを，社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合，どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ，日本の宗教文化が，どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか，また逆にどのような面が影響を受けにくいかにも注意を払う。

教室の都合がつかなければ，できる限り視聴覚教材を利用して説明を行なう予定である。

〔参考書〕井上順孝『新宗教の解読』（筑摩書房）¥1,350
井上順孝『海をわたった日本宗教』（弘文堂）¥1,550

民間信仰論

谷　口　　貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら，神と人が織り成すさまざまな世界には，どのような意味があるのかを探っていきたい。そして，民間信仰の性格や機能，あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

書　道　史

那　須　隆　吉

現在見ることの出来る最古の文字である，殷代の甲骨文字を始めとし，その後時代と共に著しく変遷していく書体，書風，書法を通覧しながら，深遠な書道の歴史を講じたい。

〔教科書〕伏見冲敬著『書の歴史』（二玄社）

編　集　実　務

長谷川　　孝

情報社会の今，多様な情報を主体的に選択し活用できる力が求められ，さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験，意見や批判，感動や思いなどを，さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと摑みとり形を与えて他者に伝わるように表現することです。この講義では，物書き・編集者としての私の体験を語りながら，文章と印刷による表現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと，なぜ・なにを・どう「伝える」のか，を考えていきます。また，個人のミニ新聞（雑誌）を作ってもらい，作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川　孝編著『新聞をつくろう』（さ・え・ら書房，¥1,236)を随時，使用します。

英　会　話　Ⅱ

P.A.Bendinelli ・ T.A.Grange
W.Hubbard ・ D.J.Nolan
J.K.Wells ・ P.Ziegler

全学で6クラスを設け，学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Ⅰを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容（syllabus）を参考にし，場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者，曜日，時限，クラスは時間割表で確認してください。

P.A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL Ⅱ CLASS). Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T.A. Grange

Some mottoes : It is better to be forced to learn than not to know (AElfric) ; ... gladly would he learn and gladly teach

(Chaucer) ; a little learning is a dangerous thing (Pope) ; it takes all kinds of in and outdoor schooling to get accustomed to my kind of fooling (Frost) ; please don't be quiet — in English (tag).

You must learn to listen. Carefully. And you must talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D.J. Nolan

At the core of this course is

1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

Text to be announced in class.

J.K. Wells

Hello students! Welcome to my English ConversationⅡ course. My class will be an extension of English Conversation Ⅰ as Hiroshi Shimizu leaves his American host family and travels in the U.S.

Printouts will be handed out in each class, so join in the fun of learning English conversation through role-playing. We may have some future actors/actresses in the class!

Requirements : any 2nd year student
Attendance : only 3 absences will be allowed
Tests/Quizzes : 2 major tests (role-playing) ; announced quizzes
Class size : 40 students

See you in class

〔教科書〕Printouts (Books will not be necessary)

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

〔教科書〕英語の新聞記事のコピー・その他

英語ＬＬⅡ

T.J.Cogan ・岩 山 義 春
大 庭 直 樹

英語ＬＬⅠのアドバンスト・コースとして全学で３クラスを設け，学部及び短大の２年次生以上を対象とします。１年次に英語ＬＬⅠを履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日，時限，クラスは時間割表で確認して下さい。

T.J.Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The materials for this year will probably include a recent, popular movie and a news program. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩 山 義 春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び，それを繰り返し聞き，英文でアウトラインを書いてもらい，毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大 庭 直 樹

聞き取りと表現力のアップを目的とした中級から上級コースのクラスである。テキストは，内容理解を中心としたヒヤリング用のものと日常英語を中心とした会話用のもの，2冊を使う。クラスは毎回，両方のテキストを使って行なう。

ドイツ語F

柴 野 博 子

我々がドイツ文化をどうとらえているか，また，ドイツ人が日本文化をどうとらえているか，といういわゆる異文化理解の問題は，国際化がさけばれている今日，非常に重要なテーマだと思います。そこで本年は，ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして，この異文化理解の問題を考えて行きます。

なお，テキストは，随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語ＦＬＬ（初級）

小林　ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ，聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ，ドイツ語の基礎的な表現力を養成し，簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語ＦＬＬ（中級）

松 岡 晋

本講義はＦＬＬ（初級）終了者を対象とするが，時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も，受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は，毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」（独検）の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが，受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕コピーを配布する。

フランス語F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を，いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら，日本との違いを考えていきます。テーマとしては，家族／教育／趣味／宗教／思想などを予定しています。いずれの場合も，フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら，授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものと日本語のものがありますが，フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き，フランス語については，出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕使いません。

〔参考書〕授業の中で指示します。

フランス語ＦＬＬ（初級）

小 玉 齊 夫

ヴィデオ教材を利用して，初歩の聞きとり・会話の練習を行う授業です。音および画像からフランス語に入るつもりですので，文法的知識の有無を問いません。したがって，今までフランス語に触れたことのないひとでも「歓迎」しますが，しかしそのぶんだけ，新たに記憶したり書きつづけたりする「労力」は要求されるかもしれません。

願わくば，一年後には，音としてのフランス語に，習熟とまではいかなくとも，まあ，恐怖心を抱かずに直面できるていどにはなれるように，と思っています。

〔教科書〕『Avec Plaisir 1』（4月にＬＬ事務室で購入のこと）

フランス語ＦＬＬ（初級）

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて，基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語ＦＬＬ（中級）

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと，下記の教科書を使って，少し高度な聴きとり，及び表現の練習をします。
〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中　国　語　Ｆ

岩　崎　　皇

「一分間小説」を読みながら，講読の基礎を固めたいと思います。受講者の興味を考慮して作品を決めたいと思うので，自分の興味や学習程度を伝えられるようにしておいて下さい。

中国語ＦＬＬ（初級）

小　川　　隆

『学習中文』というビデオ教材を使って，会話と聴き取りの練習をします。中国語Ｉ既習ていどの基礎力が必要です。ビデオの内容は，ごく日常的な場面での会話ばかりで，楽しく学んでいけると思います。
プリントを用意しますので，履修希望者は必ず第一回の授業に出席して下さい。発音の復習から始めますので，イチからやり直したい人，中国語ＩＡ・Ｂの成績が芳しくなかった人でも大丈夫。要はヤル気です。

中国語ＦＬＬ（中級）

松　本　丁　俊

中国語ＦＬＬ初級を終えたものまたは中国語を１年以上履修したものを対象とする。中国語学習に熱意ある諸君の参加を歓迎する。
〔教科書〕プリント配布。
〔参考書〕随時指示する。

スペイン語Ｆ

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の１・２年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートォーキングの形式で，スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を，新聞その他の教材を利用して授業を行います。
〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語ＦＬＬ（初級）

ホワン・ナバロ

初心者を対象に，スライドやビデオを見ながら，やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語ＦＬＬ（中級）

ホワン・ナバロ

前年度ＬＬ初級を終えたもの，またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に，ビデオを見ながら，日常会話を勉強します。

ロシア語Ｆ

杉　山　秀　子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものをとりあげ，ロシア語らしい言いまわしや，語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし，第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事をとりあげ，現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。
〔教科書〕教場にてプリントを配布。
〔参考書〕露語辞書，ＮＨＫロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語ＦＬＬ（初級）

廣　田　英　靖

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音，イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に，最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し，正しいロシア語の発音に慣れるようにします。
〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語ＦＬＬ（中級）

滝川　ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独得の言いまわし，イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦，各共和国，諸民族の生活や文化にもふれます。
〔教科書〕プリントを教場で配布。

英　　語（海外演習）

この授業科目は，クインズランド大学・ブリティッシュコロンビア大学・エクセター大学における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は，全学部の１年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に三大学より受講生の成績・評価等が出される。仏教学部，文学部，短期大学の受講生には単位認定がなされる。

基 礎 教 育 科 目

禅 学 序 説
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）

原 田 弘 道

この講義は仏教を学ぶ上での基礎的知識と研究方法を身につけるところにその目的がある。従来の釈尊伝，道元・瑩山両祖伝の上に，広く仏教，禅を体系的に理解できるよう努める。その内容はインドの仏教と禅，禅の歴史，禅の思想，禅の現代的意義等である。そしてこれに関連した重要な典籍・資料について，それぞれ必要に応じて紹介解説も行う。

〔参考書〕駒澤大学仏教学部研究室編『宗教学』Ⅰ・Ⅱ
水野・柴田監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

仏教学序説
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）

皆 川 広 義

はじめて仏教を学ぶにあたり，その基礎的知識を学ぶことを目的とする。

まず，仏教の開祖である釈尊の生涯と教えを学ぶことによって，仏教研究の主体的立場を明確にしたい。

次に，釈尊以後の仏教の歴史的，教理的，文化史的展開について概観し，卒業論文や演習などの研究課題選定の能力を，育ててゆくようにしたい。

また，仏教研究の方法についても，具体的に述べてゆきたい。

〔教科書〕高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）¥1,800
〔参考書〕山口益策著『仏教学序説』（平楽寺書店）¥3,800

仏教学序説
（平成２年度以前入学生：基礎仏教学）

伊 藤 隆 壽

本講座は仏教入門講座として設けられたものであるので，これから仏教を学ぶ上での諸問題をできるだけ平易に述べたいと思う。仏教とはどのような教えなのか，仏教とは一体何なのか，という問題は，仏教を学ぶ者の永遠のテーマであろう。それを考えてゆく上での基本は，まず仏教の教祖である釈尊について，正しい理解をもつことが大切である。

そこで，釈尊の生涯をたどり，その教えの特色を知ることから始めたいと思う。

〔教科書〕水野弘元著『仏教要語の基礎知識』（春秋社）
〔参考書〕授業において紹介する。

平成２年度以前入学生：仏書解説Ⅰ

伊 藤 秀 憲

（P.55）参照

平成２年度以前入学生：仏書解説Ⅱ

吉 津 宜 英

（P.55）参照

平成２年度以前入学生：仏教語解説

峰 岸 孝 哉

（P.56）参照

専 門 教 育 科 目

1年次以降履修科目

宗 教 史

松 本 晧 一

今年度は特に日本を中心に，人間と宗教の関わり合いを歴史的にのべてみる。宗教史の講義名であるが，内容としては信仰の歴史というものに近い。特に教科書は指定せず，必要に応じて参考文献，資料等は講義中に指示する。

日 用 経 典

皆 川 広 義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について解説し，宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。
〔教科書〕テキスト，プリント配布。

中国古典語初級

中 村 璋 八

中国の古典は，経・史・子・集，すなわち，儒家の経典，歴史書，経典以外の思想家の書，文学作品の四つに分類され，その書の成立年代も先秦から明・清まで二千五百年余りの長期に及んでいるが，それらの若干異る思想，歴史，文学の書を歴史的背景をも考慮しながら日本の伝統的な訓読法で読み，漢訳仏典，中国仏典，日本仏典の解読にも役立つような基礎的学力を付けるようにして行きたい。また，中国思想史，中国文学史の一助ともしたい。
〔教科書〕『中国文学思想通史』（明治書院）
¥1,600

2年次以降履修科目

仏書解説Ⅰ

伊 藤 秀 憲

仏書解説Ⅰは禅籍の解説である。この講座では，漢文に親しむということも考えて，『禅籍志』の中の主な禅籍について，その解説を読みつつ講義を進めて行きたい。本書は中国の禅籍を中心とした解説書であるから，そこに収められていない日本のもの，特に両祖の著作については，補って解説する。

なお，新学期最初の授業には，テキストの部数を確認する必要から，受講希望者は必ず出席すること。また平成2年度以前入学生は1年次必修科目となっている。単位未修得者は，本年度中に修得するよう努力すること。

評価方法：試験の成績に加えて，出席，授業態度などを加味して決定する。
〔教科書〕『禅籍志』（コピーし配布する。）
〔参考書〕『禅家語録Ⅱ』（筑摩書房）
所収「禅籍解題」

仏書解説Ⅱ

吉 津 宜 英

この「仏書解説Ⅱ」は「同Ⅰ」が禅籍を中心として解説するのに対して，仏典を広く概説することを目的とする。したがって，私はまず現在最もよく用いられている『大正大蔵経』に拠って，主要な仏典を取り上げて説明してゆきたい。ただ，この大蔵経に拠るだけでは現今の仏教学の典籍概論としては不十分である。パーリ語，サンスクリット語，チベット語，さらにそれらの欧米語訳や日本語訳などにも言及したい。さらにまた仏書と禅籍との関連についての考慮も必要である。ある仏典については単にポイントのみを述べるにとどめたり，またある仏書については少し長めの文章を実際に読んでみるなどアクセントをつけて進めてゆきたい。

〔教科書〕プリント配布
〔参考書〕教場で指示する。

仏教語解説

峰　岸　孝　哉

ここでは仏教語のうち，禅仏教の基本語をとりあげ，順次解説していく。これは当然禅仏教の性格，世界観を探る問題でもあるので，具体的に文献の講読を通して考えてみる必要もあろう。したがってテキスト・参考書はその都度指示する。

禅　学　概　論

黒　丸　寛　之

釈尊の成正覚を起原として，インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想について述べ，禅の修証については道元禅師の著述を中心として講述する。また，本年度は，近世における禅者としての良寛の著作も併せて読むこととしたい。講義はノートとプリント配布によって行う。

仏　教　概　論

袴　谷　憲　昭

一般に仏教であると思われている考え方を広く概説するかたわらで，常に，正しい仏教とはなにかという視点から，通俗的に仏教であると考えられているどういうところに問題があるのかを，批判的に点検していくことにしたい。教科書としては，従来の代表的仏教入門書として下記のものを使用することにする。
〔教科書〕高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）￥1,600

禅学研究Ⅰ
（平成2年度以前入学生：宗典講読Ⅰ）

青　竜　宗　二

禅学研究Ⅰは禅の教義が課せられているので，修証論を中心に講義を行ない，宗典講読Ⅰの受講生のために，『学道用心集』『修証義』を順次講読しながら，本証妙修の教義面の把握に力点をおく。教科書，参考書は開講のとき指示する。

禅学研究Ⅱ

佐　藤　秀　孝

本講座は禅学に関する研究でも，とくに実践部門をその対象としている。そこで，百丈清規をはじめとする諸清規の変遷と内容を概観し，さらに百丈清規の特徴について考察する。また清規に載る坐禅儀や坐禅箴などについても触れたい。なお講義に必要とする資料などは，その都度，コピーなどで配布したい。

禅学研究Ⅲ
（平成2年度以前入学生：宗典講読Ⅱ）

大　谷　哲　夫

古来『信心銘』は禅の真髄を示したものとして珍重せられ，禅思想史上でも重視されている。今年度は特に『信心銘拈提』を基本的底本として，他の先人先学の『信心銘』に関する注釈とを比較検討しながら講読していく。
〔教科書〕詳細については開講時に指示する。
〔参考書〕適宜プリント等を配布する。

禅学研究Ⅳ

原　田　弘　道

本講座においては，初期日本禅宗史の一側面をとりあげる。
心地覚心が道元禅師より菩薩戒を受けてから始まる，曹洞宗と法灯派との交渉について，その歴史，思想の変遷をめぐり，歴史的意義を明らかにしてゆく。

仏教研究Ⅰ

池　田　練太郎

部派の中で思想的に最大の影響力をもったのは説一切有部である。「五位七十五法」といわれる法の体系は，この部派によって考察された多岐にわたる主張の中でも，最も特徴的なものの一つである。本講義では，そこに説かれる個々の術語について検討するとともに，この法体系の成立や思想的展開の問題も併せて考えていきたい。テキストについては，最初の時間に説明する。

仏教研究Ⅱ

吉　津　宜　英

「仏教研究Ⅱ」は「実践」に焦点を合わせてゆくことになっているが，他の教理・歴史・教団と分離して，実践のみを論ずることはできない。私はまずこれら四項を立体的に把握してゆく試み，仏教の５Ｗ１Ｈを問うところから始めたい。仏教では研究対象である教えの大系（法）も，研究主体である自己自身も，両者は全く対等に，水平に，対峙するので，研究者自身の５Ｗ１Ｈも当然のこととして大きな問題となる。今年度はインド仏教についての検討を概説にとどめ，中国・韓国・日本の仏教をその姿勢で検討してゆきたい。外来の宗教としての仏教がその国々の思想風土といかに対立，融合し，自立したかの究明がポイントとなろう。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕教場で指示する。

仏教研究Ⅲ

石　川　力　山

この講義は，仏教の歴史的展開の諸相のうちで，特に「教団」という組織集団が有する歴史的社会史的な意義や，その組織体の内容を検討することを中心課題とする。

ところで，正覚の成就という同一目的をもって釈尊のもとに集まった弟子達の集団（サンガ）は，当初は男性（比丘）だけで構成されていたが，ブッダの養育母マハーパジャーパティーの出家により，比丘尼のサンガが出現することになったと伝えられ，以後，性差にもとづくさまざまな社会的諸条件のなかで，その歴史を辿ることになった。今年度は，インド・中国におけるこの比丘尼の歴史や，戒律上の諸問題を概観した上で，主に日本仏教史における「尼」の問題を，社会思想史的観点から取り上げ検討したい。

〔教科書〕随時，プリント等配布。

〔参考書〕大隅和雄・西口順子編『シリーズ・女性と仏教』（全４巻，平凡社刊）￥10,760

田上太秀著『仏教と性差別』（東京書籍刊）￥1,200

曹洞宗尼僧史編纂会編『曹洞宗尼僧史』（曹洞宗尼僧団本部刊）

仏教研究Ⅳ

伊　藤　隆　壽

本講座は，仏教の歴史について扱うことになっているが，特に中国仏教を思想史の観点から取り上げたいと思う。中国の仏教は，日本の仏教に多大な影響を及ぼし，日本仏教の源流ともいえるが，中国において仏教がいかなる状況のもとに受容され変容して行ったかを思想的に跡付けてみたい。

特に教科書は使用せず，下記の参考書とコピー資料によって講義を進めることにする。

〔参考書〕『仏教史概説－中国篇－』（平楽寺書店）

伊藤隆寿著『中国仏教の批判的研究』（大蔵出版）￥6,400

禅学特講Ⅰ

原　田　弘　道

禅宗と公案

公案は禅宗における経典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し，その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史，看話禅の成立　(2)曹洞宗と公案　(3)公案の諸相，公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒　丸　寛　之

道元禅師と『法華経』について，『正法眼蔵』の所説を中心として講述し，併せて良寛の「法華転」「法華讃」を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は，既刊本の何れでもよいから，各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講Ⅲ

石　井　修　道

平成４年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は，『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは，手紙のことであり，大慧が居士に与えた手紙を中心としているので，主張は明瞭である。宋代禅の性格

を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが，まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして，和刻本の誤読についても言及したい。
〔参考書〕荒木見悟著『大慧書』（筑摩書房）
￥3,500
石井修道著『禅語録』（中央公論社）
￥5,200

禅学特講Ⅳ

鈴　木　格　禅

『見聞宝永記』講読
本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは，仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり，面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが，その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は，損翁における面山の「随聞記」といってよく，内容は多岐にわたるが，その根底には，現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が，一貫して流れている。
本学年度は，前年度にひきつづき本書を講読し，学道の資助としたい。
〔教科書〕教員より配布する。

禅学特講Ⅴ

椎　名　宏　雄

中世カナ法語の講読
中世初期において異色の禅者とされる明恵上人と夢窓国師のカナ法語を読む。すなわち，鎌倉初期に華厳と禅をきわめた明恵（1173～1232）の作品「あるべきやうわ」一篇と，鎌倉末期から南北朝初めにかけて密教禅を鼓舞し五山派を代表する夢窓（1275～1351）の作品「二十三問答」一篇を講読する。
深く難解な仏教の思想を，彼等はいかに平易なことばで民衆に対して説きあかそうとしたかを味わうとともに，その中から今日的な諸問題をも掘りおこしてみたい。
〔教科書〕プリント資料を無料で配布する。

仏教特講Ⅰ

池　田　練太郎

昨年度に引き続き，『八宗綱要』を講読する。これは東大寺の凝然（1240～1321年）によって著わされた，仏教各宗の教理と歴史に関する綱要書である。本書を通して，特に仏教の思想的な面について，今日の仏教学の成果を踏まえて検討していきたい。
〔教科書〕龍谷大学編『講本八宗綱要鈔』（永田文昌堂）￥800

仏教特講Ⅱ

納　冨　常　天

鎌倉仏教の成立とその展開を考察する。
〔参考書〕納冨常天著『鎌倉の仏教』（かまくら春秋社）￥1,800

仏教特講Ⅲ

鎌　田　茂　雄

華厳教学を講義する。天台教学と並んでもっとも難解な華厳教学は直接講義をきかないと理解できないものである。
〔参考書〕鎌田茂雄著『華厳五教章』（大蔵出版）
￥3,000
鎌田茂雄著『華厳の思想』（講談社学術文庫）￥680

仏教特講Ⅳ

太　田　久　紀

成唯識論　巻四，五，六巻　講読。
末那識，第六意識説を学ぶ。
〔教科書〕『選註成唯識論』を使用するが，その他何でも可。

仏教特講Ⅴ

石川力山

この講義は，「仏教と現代」という課題のもとに，「部落差別」をはじめとするさまざまな差別問題を人権という視座を中心にして考察し，この問題の基本的認識を確立して，仏教が現代社会にあって果たさなければならない責務を探ることを意図して設けられた。

今年度は，「差別問題と業思想」という課題で，部落差別など，人間がおかれたさまざまな境遇や不利益を被る状況を仏教的に解釈する際に，その理論的根拠としてしばしば用いられた「業思想」の社会史的機能を中心に検討する。またあわせて，部落差別の歴史や現状に言及し，障害者差別，性差別，民族差別などについても触れたい。その際，折々の新聞報道に見られる人権・差別問題についても，随時平行して検討の素材に使用するので，新聞一紙は常時講読していただきたい。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕野間　宏・沖浦和光『アジアの聖と賤』『日本の聖と賤〈中世篇〉〈近世篇〉〈近代篇〉』（人文書院刊）
¥1,400 ～¥1,957
原田伴彦著『被差別部落の歴史』（朝日選書）¥960

仏教特講Ⅵ

田上太秀

学界の最新の研究成果を踏えて，インド仏教教理に関して個々の問題を取り上げて検討・考察する。

随時，教場においてプリントを配布し，読み進むことにしたい。

インド仏教史

田上太秀

1．仏教の起源と発展
2．経典の成立・種類・思想など。
3．仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）
¥1,009
『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

パーリ仏教史

片山一良

仏教2500年の歴史は，原始仏教の流れを直接に汲む，今日の上座部仏教の中に見ることができるといっても過言ではない。この伝統仏教をパーリ仏教と呼ぶが，それは，インド以来，スリランカ，ミャンマー（ビルマ），タイなどにいたる仏教が，すべてパーリ語という聖典語を通して，伝えられたからである。それゆえにまた，ここには完全な経・律・論の三蔵が整っている。この講義では，スリランカの仏教を中心に，その歴史と伝統を紹介し，併せて文化ないし社会の変化についても触れたいと思う。

〔参考書〕Richard Gombrich: Theravada-Buddhism — A Social History from Ancient Benares to Modern Colombo (Routledge & Kegan Paul) 1988

チベット仏教史

松本史朗

チベット仏教は，教団史的にも思想的にも，インド大乗仏教の正系を受け継ぐ最も正統的な仏教であると評価されている。従来の我が国における仏教研究は，中国仏教においてなされた様々の仏教理解に大きく影響されてきたが，現在では，大乗仏教を研究するためには，中国仏教だけではなくチベット仏教をも学ぶ必要があると考えられるようになった。この講義では，この様な観点から，チベット仏教の歴史と思想を概説してみたい。

〔参考書〕山口瑞鳳著『チベット　下』（東京大学出版会）¥2,800

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と，固有思想との関係を概観した上で，隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説－中国篇』（平楽寺書店）

朝鮮仏教史

鎌　田　茂　雄

われわれ日本人は，あまりに近い国，朝鮮の文化や宗教についての知識がほとんどないといってよい。日本の古代仏教の実相を把握するためには，朝鮮仏教史の知識は不可欠である。同じ漢訳大蔵経にもとづきながら，中国，朝鮮，日本の仏教には，それぞれ相違がある。本講義では朝鮮における仏教の展開過程を，中国や日本の仏教と対比しつつ，その特色を明らかにすることに主眼をおきたい。

〔教科書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教史』（東京大学出版会）¥2,400

〔参考書〕鎌田茂雄著『朝鮮仏教の寺と歴史』（大法輪閣）¥1,900

日本仏教史

石　川　力　山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして，日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ，日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に，中世における鎌倉新仏教の成立は，急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり，それにともない，さまざまな社会問題にも関与することになって，正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では，仏教思想の流れとともに，こうした社会的機能の側面についても，あわせて検討していきたい。

〔参考書〕辻善之助著『日本仏教史』（全10巻，岩波書店刊）
家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全３巻，法蔵館刊）
川岸宏教・速水侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻，雄山閣出版刊）

禅学思想史

峰　岸　孝　哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが，本年は日本禅，とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し，そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』（吉川弘文館）
廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』（吉川弘文館）

中国禅宗史
（平成２年度以前入学生：禅宗史Ⅰ）

田　中　良　昭

禅宗史Ⅰは，中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し，菩提達摩を初祖とする系統が，中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ，独自の中国禅宗を形成し，後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では，達摩渡来以前を導入とし，以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史と，禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

〔参考書〕『禅の歴史－中国－』〔講座禅第三巻〕（筑摩書房）

日本禅宗史
（平成２年度以前入学生：禅宗史Ⅱ）

原　田　弘　道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は，その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来，受容，発展の実態とその思想史的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕『禅の歴史－日本－』〔講座禅第四巻〕（筑摩書房）
鈴木泰山著『禅宗の地方発展』（吉川弘文館）

坐　禅　Ⅰ
（平成２年度以前入学生：禅学実習Ⅰ）

河　村　孝　道・小　坂　機　融
永　井　政　之・伊　藤　秀　憲

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常

に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳粛に遂行されるが，このためには次の基本的心構えが必要である。

1．時間厳守
（始鈴十分前に全員入堂坐禅，遅刻は認めない）

2．威儀服装の整備
（規定の作法に従い厳粛かつ清楚であること）

3．懈怠厳禁
（自ら怠惰を戒め毎時間真摯に精励する）

なお，(1)追再試等による救済措置は全くない。(2)特に新学期最初の授業は，坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『坐禅講本」（更生社）

宗　　典
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）

黒　丸　寛　之

道元禅師著述の『正法眼蔵』と，瑩山禅師講述の『伝光録』について概説し，宗義上の基本となる諸巻・諸章を選んで講読する。

宗　　典
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅰ）

河　村　孝　道

道元禅師の主著『正法眼蔵』及び瑩山禅師の主著『伝光録』を講義する。

〔教科書〕『正法眼蔵』「道元禅師全集」第一巻（春秋社）
『伝光録』「曹洞宗全書」（宗源）
コピー配布

詩　　偈

山　口　晴　通

中国および日本の漢詩は，我々の精神生活において，はかり知れないほどの大きな影響を与えている。

ことに禅門にあっては，参禅者の修行における，心情吐露の表現方法として，また，禅門の教義宣揚法として活用されているのである。

したがって，作詩の基礎を知ることは，各自が生涯にわたって，重要なる意義を持つことであろう。

本講座では，具体的に漢詩を鑑賞しながら，初歩的な作詩法を学習せんとするものである。

漢和辞典の種類については，授業中に指示説明をする。

〔教科書〕山口晴通著『詩偈入門（上）』（曹洞宗宗務庁）￥1,000

〔参考書〕『漢和辞典』

書　　道

野　村　宙　弘

王義之の蘭亭序をはじめ，各種古典の臨書による，実技の指導を行う。

書道実技の為，墨，硯，筆，文鎮，下敷，半紙等の文房四宝の用意が必要。

（正しい用筆法，正しい墨のすり方等，初歩的な基礎勉強の指導と，かんたんな書道史の説明を行う）

〔教科書〕王　義之『蘭亭序』（清雅堂）￥360

禅　美　術

海老根　聰　郎

日本の中世絵画には，伝統的な大和絵と，この時代に中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり，画家も禅宗画僧である。講義は，この流れを黙庵，鉄舟，明兆，周文，雪舟などの画家を中心としてたどっていく。

（毎回スライドを使用する。）

インド仏教文化史

奈　良　康　明

いかなる社会であれ，その成員により獲得され，習熟され，伝達されていく諸観念や慣習，儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても，例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らめるものであることは疑いない。そうした高いレヴェルの観念や行法を一方におきつつ，他方に，各種民間信仰的な諸観念や儀礼，生活慣習等，日常レヴェルの生活様式を考察し，且つ，

両レヴェルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会，宗教とかかわらせつつ，仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ－インド，東南アジアー』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（ＮＨＫブックス）

インド仏教思想史
（平成２年度以前入学生：仏教教理史Ⅰ（印度））

袴谷憲昭

インド仏教史の展開を通史的に辿りながら，各時代の最も重要な思想問題を，具体的な文献を検討することによって重点的に考えてみることにしたい。かかる文献の指示は，適宜教場にて行うので，あまり欠席はしないようにしてもらいたい。

中国仏教思想史
（平成２年度以前入学生：仏教教理史Ⅱ（中国））

岡部和雄

インド仏教がどのようにして中国仏教へと展開していくかは，さまざまな観点から分析・研究されなければならないが，ここでは教理の歴史的展開を中心としてこの問題を考えてみたい。

〔参考書〕鎌田茂雄著『中国仏教史』〔第一巻～第四巻〕（東大出版会）
任継愈主編『中国仏教史』〔第一巻～第三巻〕（中国社会科学出版社）

インド哲学史
（平成２年度以前入学生：印度哲学史）

金沢篤

ヴェーダ時代から現代にいたるまでのインド思想の流れを，個々の事例に即して，概観する。

〔教科書〕早島鏡正他著『インド思想史』（東京大学出版会）¥3,000
〔参考書〕前田専学著『インド的思考』（春秋社）¥2,000

仏典研究

木村誠司

後期インド仏教およびチベット仏教の研究は，仏教論理学 ― ダルマキールティDharmakīrti (600－660)の思想 ― に関する知識なしでは，不可能な面がある。本講義では，シチェルバッキーTh. Scherbatsky のBuddhist Logicを随時参考にし，さらに，チベット仏教中最高の仏教者であるツォンカパTsong kha pa (1357－1419) の論理学に関する講義をまとめた『量の大備忘録』Tshad ma'i brjed byang chen moを基本資料とし，インド・チベットにおける仏教論理学について，出来るだけ詳細かつ丁寧に考察してみたい。

〔教科書〕Buddhist Logic Vol Ⅰ. Ⅱ, Dover Pab. Inc., Tshad ma'i brjed byang chenmo, The collected works of rJe Rin-po-che, vol. 23

原始仏教

片山一良

仏教の源泉を原始仏教という。大乗であれ小乗であれ，そのすべては後代の呼び名に過ぎず，どの教えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは，縁起，四諦の説，あるいは無常・苦・無我の三相についてであった。戒律を保ち守ることに始まり，少欲知足の生活をつねに勧められた。そこには智慧と慈悲の教えがあるのみで，何も飾りが見られない。この講義では，そうした原始仏教の基本的な教理，思想を紹介する。

〔参考書〕『原始仏教・２』（「沙門果経」）
『同・４』（アンバッタ経）（中山書房）

パーリ仏教特講

片山一良

原始仏教から今日の上座部仏教にいたる伝統仏教を，パーリ仏教という。具体的には，パーリ語聖典を奉じる，南／東南アジアのスリランカ，ミャンマー（ビルマ），タイなどの仏教を指している。ここではつねに，戒律が仏教の生命である，と言われるが，それは間違いなく仏教の正統である。釈尊は，法を説示され，律を制定された。この講義では，その伝統仏教における基本的な戒律について紹介し，その意義を考えたい。

〔参考書〕Mohan Wijayaratna: Buddhist Manastic Life (Cambridge U.P) 1990
『原始仏教・4』（長部「クータダンタ経」）（中山書房）

外国語仏書演習

松本史朗

原始仏典を，英訳によって読む。テキスト（コピー使用）は，開講初日に指示する。

パーリ語初級

片山一良

パーリ語は，原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。その文法の確実な習得につとめ，釈尊感嘆の言葉とされる『ウダーナ』（自説）の「第一経」読解に最終目標を置きたい。
テキストは，コピーにて配布する。尚，参考書は開講日に指示する。

パーリ語上級

福田孝雄

我々はブッダの言葉や原始仏教の精神に謙虚に耳を傾けながら，パーリのテキストを読んで行きたい。パーリテキストの中から，必要に応じて適当な箇所を選んでコピーし，講読する。
パーリ語文法を一応学んだ人であることが望ましいが，その基礎的事項を確認しつつ読んで行くので，初めてパーリ語を学ぶ場合であっても受講は可能である。

サンスクリット語初級

金沢篤

インド思想・文化などを学ぶ際の重要な拠所となるサンスクリット語の初級文法。
〔教科書〕J.ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』（春秋社）
〔参考書〕辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリット語上級

金沢篤

サンスクリット語（初級）文法に一通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット文献を実地に読むことを通じて，文法の基本的事項を確認し，デーヴァ・ナーガリー文字に馴れると共に，実際的な読解力を養う。テキストには以下のC. R. Lanmanの『サンスクリット読本』を予定しているが，場合によっては変更もありうる。
〔教科書〕C. R. Lanman, A Sanskrit Reader（廉価なインド版もある。）
〔参考書〕辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

チベット語初級

松本史朗

チベット語は，インド仏教・チベット仏教の研究を志す者にとって必須の語学である。本科目は，チベット語（文語）の文法を下記の教科書を用いて教授するが，教科書は未公刊につき，コピーを使用するので，受講希望者は開講初日に必ず出席すること。
〔教科書〕山口瑞鳳著『チベット語文法』

チベット語上級

木村誠司

前年度に引き続き，チャンキャ＝ルルペードルジェlCan skya Rol pa'i rdo rje(1717-1786) 著『教義規定』Grub mtha' rnam par bshag paの「中観章」を読む。本書は，宗義文献（学説綱要書）と呼ばれるものの一つであり，問題提起の適格さ，論述の緻密さにおいて，その最高峰に位置すると思われる。受講者はチベット語（文法）を修得した者か，本年それを並修する者であることが望ましい。
〔教科書〕Lokesh Chandra(ed.) : Buddhist Philosophy Systems (Satapitaka Series, Vol.233)

中国古典語上級

小川　隆

「初級」が伝統的な訓読法の訓練であるのに対し，「上級」は，中国古典を外国語として，つまりあくまで中国語そのものとして，文法的に読みとろうとするものです。双方ともに履習することが望ましいものですが，必ずしも初級→上級という順序である必要はありません。むしろ，この科目をとる為には，現代中国語の基礎を身につけていること（最低でも中国語ＩＡ・Ｂ既習ていど）が前提となります。また，漢和字典（手もちのものでよい）のほかに，『新華字典』（東方書店）か『支那文を読む為の漢字典』（研文出版）のうち，少なくとも一方を用意して下さい。

〔教科書〕小川環樹・西田太一郎『漢文入門』（岩波全書）￥1,400

〔参考書〕教場で指示。

ラテン語特講

佐藤　玖美子

この講座は，英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための，古典ラテン語の基礎知識の習得，とくに文法規則を学び，動詞，名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して，やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著「ラテン語入門」（駿河台出版社）

〔参考書〕田中秀央編「羅和辞典」（研究社）

宗教学概論

松本　晧一

人間生活の中で，宗教は如何なる意味と働きをもっているか，人間行動の学と称せられる心理学，社会学，人類学，精神分析学などの視座から概括的に考察してみたい。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕必要により随時，指示する。

キリスト教史

三小田　敏雄

キリスト教の歴史を古代・中世は簡単に概説し，本年度は宗教改革以後の近世・現代に焦点を合わせ講義する。19世紀の爆発的世界伝道がなぜ起ったか，その結果キリスト教内部にいかなる変化が起りつつあるか，という問題意識をもって進めて行きたい。出席を重視し，成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕倉松「教会史」中巻（日本基督教団出版局）

キリスト教概論

鶴岡賀雄

キリスト教は，信徒数で見る限り，現在世界最大の宗教である。また，現代世界を支配している欧米の文化，思想には，キリスト教的伝統が深くしみこんでおり，西洋文化の摂取にある程度成功した現代の日本人にも，無自覚のうちにその影響は及んでいる。

本講義は，このキリスト教について，その教えの核心と，歴史および現状に関する基本的知識を与えることを目標とする。その過程でまた，仏教などアジアで生まれた諸宗教との類似点や相違点も明らかとなろう。

〔教科書〕用いない。

〔参考書〕聖書（旧約，新約とも。どの訳でもよい。）

神道概説

土岐昌訓

講義の前半は，巨視的な観点から神道の基本的な問題を取り挙げて，解説することを試み，後半は特に神社信仰に焦点をあてた話を展開してみたい。

〔参考書〕土岐・白井共編『神社辞典』（東京堂出版）￥4,500

各宗綱要（真言学）

福田亮成

空海教学の体系を大きな視点から考察してゆこ

うと思う。空海の生涯・空海の人物交流・空海の修行・空海の教学体系・空海の著述。後半は，著作の一つである『般若心経秘鍵』を講読し，空海が主張する“密教”というものの特色を明らかにしてゆきたい。

〔教科書〕『般若心経秘鍵』（「十巻章」からのコピー）本文。

〔参考書〕『般若心経秘鍵－弘法大師に聞くシリーズ①－』（株式会社ノンブル）¥2,000

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生，そして敦煌を経て竜門・雲岡へ，更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで），仏像の様式の変遷を通観し，あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を，精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し，政治と仏教，風土と仏教，特に道教とのかかわりなど，広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野　健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

宗教教育

松本晧一

宗教的情操を培うことは，円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要な問題である。そうした点から，知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適時明示する。

仏教伝道概説

皆川広義

仏教における伝道法について，理論と実践との二面より概説したい。この場合，伝道とは教えを宣布する布教活動と，その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは，教義，対機，伝道者及び伝道法の三点より，現代における老・病・死の苦悩をふまえて仏教伝道のあり方をさぐる。実践面からは，教えの宣布を中心とした布教活動と，教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

〔参考書〕増谷文雄著『仏教の根本聖典』（大蔵出版）¥2,500

仏教伝道研究－対機研究と死の教育－

皆川広義

この仏教伝道研究では，伝道上とくに重要な課題をとりあげて，詳細に考察する。このたびは，「対機研究」と「死の教育」をとりあげる。

「対機研究」では，仏教の人間観，生命観をふまえ，新しい人間科学，生命科学の研究成果を参照して，現代における伝道対機を考察する。

「死の教育」では，生死の苦悩からの解脱道としての仏教の立場より，現代の死の教育について，その歴史，内容，これからの課題などを考察する。

〔参考書〕キューブラー・ロス著『死の瞬間』（読賣新聞社）

近藤　裕著『自分の死入門』（春秋社）

青少年問題研究

前期：中　野　東　禅
後期：和　田　謙　寿

開講時に指示します。

哲　学　概　説

杖　下　隆　英

西洋哲学の歴史において，古代，中世，近代から現代にわたって，不断に問い直され，重要と考えられてきた概念ーたとえば，因果，実体，普遍等ーとそれらをめぐる理論的，実践的課題のいくつかをとりあげ，歴史的，問題的に検討したいと思う。

〔教科書〕杖下隆英著『認識と価値』（東京大学出版会）¥5,047

〔参考書〕講義の過程で必要に応じて示す。

現代哲学概説

田　島　節　夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが，まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして，現象学におけるフッサール，分析哲学におけるフレーゲ，プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ，相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから，今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ，哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』（世界書院）¥2,500

哲　学　史

中　村　友太郎

西洋の思想と文化は，ヘレニズムとヘブライズム，ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは，神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時までに決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

哲　学　演　習

久　保　陽　一

現代の実存主義や解釈学に決定的な影響を及ぼした，ハイデッガーの『存在と時間』を学ぶことにしたい。

〔教科書〕ハイデッガー（桑木　務訳）『存在と時間』（岩波文庫）でも可。

〔Heideggar, “Sein and Zeit”. Max

Niemeyer〕
〔参考書〕渡辺二郎他『ハイデッガー「存在と時間」入門』（有斐閣）
茅野良男『人類の知的遺産75，ハイデッガー』（講談社）

哲学史特講

杖　下　隆　英

西欧思想の流れにおいて，一方では中世思想と批判的に対決し，他方ではそれを継承して，近世後期や現代の思想に重要な影響を与えた17・8世紀の哲学，とくにロック，バークリ，ヒュームらのイギリス古典経験論者を中心に，とりわけその掉尾を飾るヒュームの提起した問題を検討する。それと同時に関連する現代哲学の諸問題も同時に論ずる。
〔教科書〕杖下隆英著『ヒューム』（勁草書房）¥1,500
〔参考書〕講義の過程で必要に応じて示す。

中国文学概論

篠　原　壽　雄

中国文学全般にわたって概観できるようにつとめる。このために中国文学の詩賦文章を中心にして，その時代相と文人と，その作品を学ぶ。なお，日本文学との関連作品なども併せ講じたい。
〔教科書〕塩谷　温著『中国文学概論』（講談社文庫）¥900

中国文学演習

中　村　璋　八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智恵の結晶でもある易の書は，その後，儒家の根本経典，五経の第一に位置付けられ，「易経」として重要視され，長い時代，多くの人々に読まれた。この易は，占卜の書であると共に中国人の世界観，人生観をも記したものであり，中国の思想，宗教，文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく，日本の文学，宗教，習俗，建築など広い範囲に，その影響が見られる。この「易経」を読んで行き，中国人の考え方を究めると共に中国古典，日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。
〔教科書〕中村璋八・古藤友子『周易本義』（明徳出版社）¥2,900

東洋思想研究

舘　野　正　美

本年度は，インド伝統医学（アーユルヴェーダ），グレコ・アラブ伝統医学（ユナニィ）と並んで，世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について，医学思想の観点から哲学的に分析し，講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を，秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。
かくして，その医学思想の根幹をなすところの，中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ，現代医学における諸問題に対する，中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。
〔教科書〕プリント使用
〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

心理学概論

篠　原　英　壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが，専門科目であるので，心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで，心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象，及び意義について講義し，さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して，上述したこととの関連を紹介したい。
〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

禅　心　理　学

茅　原　　正

複雑で，ストレスに満ちた現代，瞑想に関する科学的研究がさかんに行なわれ，心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では，坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史，および研究の成果について概観するとともに，実験的課題と展望，禅の心理論理学などについても考察する。
〔参考書〕参考文献については，講義の際に指示する。

坐　禅　Ⅱ
（平成２年度以前入学生：禅学実習Ⅱ）

鈴木格禅・伊藤秀憲
石井清純

実習時間の前半は只管打坐，経行を挿んで後半は『坐禅用心記』の提唱。授業の実施要領および基本的心構え等については，「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。科目の性格上，遅刻を認めず，追再試やレポート提出等による救済措置は，一切講じられない。また，坐禅堂内およびその周辺における，服装・態度・言語・動作等の厳粛・整齊なるを，きびしく要求するから，これらのことを予めよく承知しておくこと。

なお，学年度最初の授業には，席次の決定や必要な諸注意をするから，全員かならず出席受講すること。

〔教科書〕『坐禅講本』（更生社）¥3,000

禅籍講読Ⅰ
（平成２年度以前入学生：禅学講義）

小坂機融

中国禅宗成立初期の語録中，『二入四行論』・『絶観論』・『六祖壇経』・『参同契』・『宝鏡三昧』・『証道歌』等について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し，その上で当該語録について講じ，各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は，『二入四行論』を中心にして講義する。

〔教科書〕教場で指示。
〔参考書〕『禅の語録Ⅰ』（筑摩書房）

禅籍講読Ⅱ
（平成２年度以前入学生：禅学演習Ⅰ）

大谷哲夫

従容録・碧巌録・無門関を順次に演習して，中国禅者の体得せる悟道の世界を把握しながら，公案のもつ意義と中国禅の特異性を追求してゆく。本年は従容録の演習。

〔教科書〕講義の際に指示する。
〔参考書〕『曹洞禅講義』

禅籍講読Ⅲ
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅱ）

大谷哲夫

瑩山禅師の主著である『伝光録』について講義する。

はじめに瑩山禅師の生涯と『伝光録』提唱の事情，禅師の著述全体の中における本書の意義，並びにその書誌的考察からその構成・中心的な思想について解説し，本文の講義に入る。

〔教科書〕光地英学著『冠註　瑩山禅師　伝光録』
〔参考書〕適宜に指示する。

禅籍講読Ⅲ
（平成２年度以前入学生：宗典講義Ⅱ）

青竜宗二

この講座は曹洞宗の二大宗典の一つである太祖・瑩山禅師の主著『伝光録』の講義が課せられている。テキストによって講義を進めるが，特に宗義の把握に力点をおく。

〔教科書〕光地英学著『冠註　瑩山禅師　伝光録』
〔参考書〕石川素童著『伝光録　白字弁』

禅籍講読Ⅳ
（平成２年度以前入学生：禅学演習Ⅱ）

峰岸孝哉

『永平元禅師語録』を読む。

本書は延文三年（1358），永平寺六世曇希によって刊行されて以来，江戸時代までに数回の版を重ねて，広く読まれてきた「永平道元」（1200～53）の語録である。しかし道元の語録としては『永平和尚広録』（通称『永平広録』）十巻がすでに存在するわけで，これに対し，本書は『永平元禅師語録』（通称『永平略録』）として流布してきたわけである。この本書の成立については後述することとして，いわば『永平広録』の抄録としての『永平略録』の講読を通じて，道元の世界を考えてみたい。テキストは教場で指示する。

〔参考書〕鏡島元隆『道元禅師語録』（講談社学術文庫），大谷哲夫他『永平広録』上巻，下巻，大本山永平寺（一穂社）

仏典講読Ⅰ
（平成２年度以前入学生：経典講読Ⅰ）

池　田　練太郎

『法句経』（ダンマパダ）を講読する。この経典は数多い原始仏教文献の中でも最古のものの一つとされ，釈尊の主張の真意を伝える経典として重視されてきた。また本経は，仏教の倫理観を説くものとしても注目されてきた。しかし，仏教の思想的な面から考察すると，本経にもまたさまざまな問題があることが知られる。この講義では，そうした批判的な視点からも検討を加えていくつもりである。

〔教科書〕中村　元訳『ブッダの真理のことば，感興のことば』（岩波文庫）

仏典講読Ⅱ
（平成２年度以前入学生：経典講読Ⅱ）

岡　部　和　雄

大乗経典とくに初期に成立した般若，維摩，法華などの諸経には大乗思想が横溢している。この経典講読Ⅱではそれらの大乗諸経から適切なパッセージをとりだし，講読する。大乗仏教がそれ以前の仏教とどのように相違するか，何をどう受けついで発達させたかを考える。

漢訳を中心とするが，梵文・パーリ文やチベット訳についても必要があれば言及する。

〔教科書〕テキストはその都度，配布する。

仏典講読Ⅲ
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅱ）

伊　藤　隆　壽

中国隋代の吉蔵の撰述した『三論玄義』を講読する。吉蔵は，無所得空を立場とすることを表明するが，根底には道・理の哲学を据えている。そこに，中国における仏教理解の典型が示されており，後世にまで多大な影響を及ぼした。最近の仏教学の成果を踏えながら，批判的に扱う。

〔教科書〕『大正大蔵経　第45巻』１～14頁，各自コピーのこと。

〔参考書〕『三論玄義』（岩波文庫及び大蔵出版）
平井俊榮『大乗仏典　中国・日本篇２　肇論・三論玄義』（中央公論）

仏典講読Ⅲ
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅱ）

木　村　誠　司

『天台小止観』を講読の中心とし，随時各種の文献を参照する。テキスト及び講義の方向性については，開講初日に詳しく述べる。

仏典講読Ⅳ
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅰ）

佐　藤　達　玄

天台教学の綱要書的性格として広く読まれている諦観の『天台四教儀』を講読して，智顗の佛教理解の方法論を考究したい。

仏典講読Ⅳ
（平成２年度以前入学生：仏典演習Ⅰ）

石　川　力　山

日本天台宗の祖最澄の撰述と伝えられる『末法燈明記』を講読する。本書は，末法の時代の依りどころ（燈明）となる存在は，破戒・無戒の僧侶だけであり，さらに末法には戒法が無いのであるから，持戒はもちろん破戒も有り得ないとする，末法無戒論を提唱する資料であり，思想史的には，道元を除き，法然・栄西・親鸞・日蓮などの鎌倉新仏教の諸師達により，ひとしく最澄の説として引用されて，末法を前提とする仏教を主張する際の根拠になった文献である。最澄撰述か否かの真偽論については，偽撰説が有力であるが，古代末期から中世にかけての日本仏教を考える上で欠くことのできない，世相とこれに対峙する仏教思想を反映した資料として，後世への影響，及び関連史料もあわせ検討しながら読み進める。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕松原裕善著『末法燈明記』（大谷大学）
稲葉円成著『末法燈明記講義』（西村為法館刊）

他 学 部 履 修 科 目

（全学部・短大共通）

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。（履修についての詳細は，「他学部科目の履修方法」を参照すること。）

目　　次

禅学特講Ⅰ（原田　弘道）……1
禅学特講Ⅱ（黒丸　寛之）……1
禅学特講Ⅲ（石井　修道）……1
禅学特講Ⅳ（鈴木　格禅）……1
禅学思想史（峰岸　孝哉）……1
哲　学　史（中村　友太郎）……1
インド仏教史（田上　太秀）……2
中国仏教史（佐藤　達玄）……2
日本仏教史（石川　力山）……2
日　用　経　典（皆川　広義）……2
仏　教　美　術（中島　亮一）……2
現代哲学概説（田島　節夫）……2
上代文学（小野　寛）……3
中世文学（水原　一）……3
近世文学（冨士　昭雄）……3
近代文学（菊地　弘）……3
中国文学（中村　璋八）……3
英文学特講Ⅰ（石原　孝哉）……3
英文学特講Ⅱ（高野　正夫）……3
英文学特講Ⅲ（岡崎　寿一郎）……3
英文学特講Ⅳ（中岡　洋）……4
英文学特講Ⅴ（高松　雄一）……4
英文学特講Ⅵ（丸小　哲雄）……4
英米演劇特講（落合　和昭）……4
米文学特講Ⅰ（東　雄一郎）……4
米文学特講Ⅲ（原川　恭一）……4
時　事　英　語（坂本　武）……5
地　形　学　Ⅰ（小池　一之）……5
地　質　学（貝塚　爽平）……5
人口地理学（土谷　敏治）……5
応用地理学Ⅰ（鶴見　英策）……5
文化地理学　（茨口　善美）……5
日本史特講Ⅶ（近代）（山口　一之）……5
東洋史特講Ⅹ（近・現代）（安藤　正士）……5
歴　史　哲　学（麻生　建）……6
哲　学　史　（丸山　豊樹）……6
日本民俗学（谷口　貢）……6
マスコミュニケーション（川本　勝）……6
産業社会学（安藤　喜久雄）……6
都市社会学（江上　渉）……6
社会福祉発達史（林　千代）……6
ロシア・東欧経済論（山縣　弘志）……7
社　会　政　策（光岡　博美）……7
国民所得論（吉野　紀）……8
中国経済論（小杉　修二）……9
アジア経済論（小林　英夫）……10
日本経済史（古庄　正）……10
中小企業論（三井　逸友）……11
教育経済論（谷敷　正光）……12
アメリカ経済論（瀬戸岡　紘）……12
財務会計論（遠藤　孝）……13
管理会計論（中原　章吉）……14
会計監査論（飯岡　透）……14
商業政策　（岩下　弘）……15
貿　易　論（古沢　紘造）……16
マーケティング（曽我　信孝）……16
原価計算論（加藤　利安）……17
労務管理論（前期：石井　脩二）……18
　　（後期：庄村　長）
行政法Ⅱ　（斉藤　寿）……18
民法Ⅳ（1）（青山　尚史）……19
民法Ⅳ（2）（青山　尚史）……19
比較憲法　（竹花　光範）……19
経　済　法（川井　克倭）……19
国際関係論（首藤　素子）……19
西洋政治史（浦田　早苗）……20
宣伝広告論（上條　末夫）……20
政　党　論（岩井　奉信）……20
経営統計　（後藤　儀一郎）……20
国際経営論（桑名　義晴）……20
保険経営論（石名坂　邦昭）……20
財務会計論（渡邊　惠一郎）……21
経営分析論（片桐　伸夫）……21
税務会計論（高木　克己）……21
経営労務論（中村　眞人）……21
商　業　史（山田　勝）……21
国文講読Ⅰ（上代）（佐原　作美）……21
国文講読Ⅱ（中古）（鈴木　裕子）……21
国文講読Ⅲ（中世）（薗部　幹生）……22
国文講読Ⅳ（近世）（清田　啓子）……22
国文講読Ⅴ（近・現代）（田澤　英藏）……22
国文講読Ⅴ（近・現代）（尾形　国治）……22
国文特講Ⅴ（近・現代）（大室　英爾）……22
英文タイプライティングⅡ（竹内　美恵子）……22
時事英語　（岡本　誠）……22
英語演習Ⅰ（岡本　誠）……22
計算機言語概論　（杉田　徹）……23
臨床放射線特論Ⅰ（本間　襄）……23
応用計測学（橿尾　英次）……23

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における経典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し，その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史，看話禅の成立　(2)曹洞宗と公案　(3)公案の諸相，公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禅師と『法華経』について，『正法眼蔵』の所説を中心として講述し，併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は，既刊本の何れでもよいから，各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講Ⅲ

石井修道

平成4年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は，『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは，手紙のことであり，大慧が居士に与えた手紙を中心としているので，主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが，まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして，和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕石井修道『禅語録』（中央公論社）
￥5,200
荒木見悟『大慧書』（筑摩書房）
￥3,500

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは，仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり，面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが，その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は，損翁における面山の「随聞記」といってよく，内容は多岐にわたるが，その根底には，現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は，前年度にひきつづき本書を講読し，学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが，本年は日本禅，とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し，そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕
（春秋社）
〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』
（吉川弘文館）
廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』
（吉川弘文館）

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は，ヘレニズムとヘブライズム，ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは，神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。
〔教科書〕開講時までに決定する。
〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

田　上　太　秀

1．仏教の起源と発展
2．経典の成立・種類・思想など。
3．仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用
〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）¥1,009
『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐　藤　達　玄

中国民衆の仏教受容と，固有思想との関係を概観した上で，隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。
〔教科書〕『仏教史概説－中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石　川　力　山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして，日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ，日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に，中世における鎌倉新仏教の成立は，急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり，それにともない，さまざまな社会問題にも関与することになって，正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では，仏教思想の流れとともに，こうした社会的機能の側面についても，あわせて検討していきたい。
〔参考文献〕辻　善之助『日本仏教史』（全10巻，岩波書店刊）
家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻，法蔵館刊）
川岸宏教・速水侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻，雄山閣出版刊）

日　用　経　典

皆　川　広　義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について解説し，宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。
〔教科書〕テキスト，プリント配布

仏　教　美　術

中　島　亮　一

仏教の発生から仏像の誕生，そして敦煌を経て竜門・雲岡へ，更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで），仏像の様式の変遷を通観し，あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。
従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を，精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し，政治と仏教，風土と仏教，特に道教とのかかわりなど，広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。
〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720
〔参考書〕久野　健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田　島　節　夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが，まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして，現象学におけるフッサール，分析哲学におけるフレーゲ，プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ，相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから，今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ，哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号

論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。
〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』
（世界書院）¥2,500

上代文学

小野　寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり，古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって，一首一首，諸本の本文の異同をたずね，その訓みを明らかにし，上代語およびその独自の語法をしらべ，作者の心をさぐり，その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。
〔教科書〕小野　寛著『新選万葉集抄』
（笠間書院）
〔参考書〕金井清一・小野　寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

中世文学

水原　一

『新古今和歌集』は『万葉集』『古今集』と共に和歌史上特視すべき勅撰集である。日本美学史の上にも画期的な中世美を実現させた。これを教材として作品の解釈・鑑賞，歌人・歌壇の考察・言語美の探求などを実践する。
〔教科書〕久保田　淳『新古今和歌集』（桜楓社）

近世文学

冨士昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して，芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。
〔教科書〕萩原恭男　校注『芭蕉おくのほそ道』
（岩波文庫）¥410

近代文学

菊地　弘

前期は有島武郎の小説と評論と，後期は芥川龍之介の小説と評論をとりあげ，その固有の文学を考察する。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら，演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は，儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく，日本にも夙に伝来し，奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事，民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし，現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで，国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。
〔教科書〕『五行大義』（明徳出版）¥2,170

英文学特講Ⅰ

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を，過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ，文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。
〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）

英文学特講Ⅱ

高野正夫

イギリス・ロマン派の詩人，ワーズワス，キーツ，ブレイクなどの物語詩を中心に読んでいく予定です。
〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

岡﨑寿一郎

おそらく，過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむつかしい。この認識の方法によって，十九・二十世紀の英詩について，その現代的意味を確認したい。具体的には，十九世紀ロマン派の詩人たち，テニスン，M.アーノルドの詩の

検証を経て，ハーディ，イェイッ，D.H.ロレンス，さらに，エズラ・パウンド，T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）について論究する。
〔教科書〕教場にて指示。
〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中　岡　　洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて，彼女たちの文学史的位相を見定め，彼女たちの生涯と芸術について詳述する。
〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高　松　雄　一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評，イェイツ，イマジズム，エリオット，ジョイスらの作品や批評を取りあげて，モダニズム文学運動の意味を考えたい。
〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸　小　哲　雄

文学批評は個人の嗜好ではなく，集団的な判断の問題であるから，批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになる。そのための有効な方法として伝統批評，ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム，受容理論（読者の立場），構造主義，記号論，ポスト構造主義，ニュー・ヒストリシズムなどの批評的考え方を講義します。同時に，作品の読み方と研究の仕方を覚えるためにテクストを利用して，レポートを作成してゆきます。従って，テクスト理論とテクスト実践を平行的に作業することになる。
〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト，および，適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落　合　和　昭

前期は悲劇，メロドラマ，コメディの劇の要素（筋，登場人物，テーマ，台詞，音楽，背景等）について学ぶ。
後期は演劇史に見られる主義（～ism)をギリシャ時代から現代にいたるまでを時間が許すかぎり追ってみたい。
また，講義用のテキストとしては，図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

東　　雄一郎

十七世紀のアメリカ女流詩人，アン・ブラッドストリートから二十世紀のシルヴィア・プラスまで，約四十六人の詩人の作品を読みます。ホイットマンの〈自我の歌〉，ポーの「詩の原理」，世紀末から出発したフロスト，パウンドやエリオットのモダニズム，フォーマリストのスティーヴンズ，客観主義の即物的実践者ウィリアムズ，物質文明の神を呪咀したギンズバーグとビート詩人たち（デニーズ・レバトフ，ロバート・クリーリー等）の作品から，新世界・「楽園」の夢への憧憬，自負，挫折を考えてみます。アメリカ詩の新鮮な驚きを堪能して下さい。さらに，ハート・クレインに見られる原始主義を考え，神話のない国の包括性に言及します。
〔教科書〕新倉俊一著『アメリカ詩の世界』（大修館）¥1,900

米文学特講Ⅲ

原　川　恭　一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は，敗者南部に復しえぬ荒廃と頽廃とをもたらした。その廃墟の中から，この南部の特殊状況を踏まえて，数多くの文学者が，文学作品が生まれ出たが，いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renascence）の興隆の様相を，William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら，歴史的，社会的視点をも構えて，出来る限り詳細に講じていきたい。
〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選－風土と文学』（中教出版）

時　事　英　語

坂　本　　武

放送英語，新聞英語その他時事面に関する英語について，テープ等も随時併用して講義する。また，時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ，「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名，Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。
〔教科書〕教場にて指示する。

地　形　学　Ⅰ

小　池　一　之

地理学の基礎，地形学史から講義をはじめ，川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは，出来るだけ，それらの解説も加える。講義は，プリント，スライド，ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。（内容は最先端の知見を含む）
〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』
（東大出版会）￥4,532

地　質　学

貝　塚　爽　平

前期には関東・東海地方でみられる，地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また，日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。
〔教科書〕貝塚爽平著『平野と海岸を読む』
（岩波書店）￥1,200

人口地理学

土　谷　敏　治

人口の分布やその変化，人口移動について，研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学Ⅰ

鶴　見　英　策

地理学の知識と考え方及び手法を用いて行う環境調査，災害調査と予測，土地評価など，各種の調査について具体的な事例をもとに解説する。

文化地理学

茭（こも）　口　善　美

本講義では，まず文化地理学の中心的課題，すなわち(1)文化，(2)文化領域，(3)文化景観，(4)文化史（誌），(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら，文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山　口　一　之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

安　藤　正　士

第２次大戦後から現在に至る日中関係を考察する。主な観点は，
Ⅰ．時期区分
Ⅱ．国際政治における日中関係の位置づけ
Ⅲ．各時期における両国間を連系する主要な要素とイシュー
Ⅳ．日本の各時期における代表的な中国論
など，政治，経済，文化など広い視野から資料を提示して講義を行う。

歴史哲学

麻生　建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で，歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を，「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは，今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが，そもそもは「他者理解」の問題，「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生　建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山豊樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし，近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから，まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で，近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって，近世哲学の歴史は開始されるが，それはカントの「批判哲学」によって総合され，後さらに幾多の曲折を経て，現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて，現代の哲学との関係を明確に示せるように講義を進めたい。

〔教科書〕講義中に，その都度指示する。

日本民俗学

谷口　貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して，日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では，各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら，通過儀礼（人生儀礼），年中行事，祭り，信仰，家族・親族，社会組織などについての理解を深め，民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川本　勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを，これまでのマスコミ研究の成果，理論を紹介しながら考察し，マス・コミュニケーションの特質，社会的機能，効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代，ニューメディアを含めて，マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか，社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤　喜久雄

産業社会学の主要領域 ― 組織，企業経営と労働者生活および労働者意識，労使関係，労働組合，職業・産業と社会，などについて概観し，そこでの社会学的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』
（学文社）¥2,500

都市社会学

江上　渉

都市社会学の主要なテーマは，都市という環境がいかなる人間を生み出すのかというところにあるが，これは2つに分けて考えられる。すなわち，環境としての都市そのものが何かということと，そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論，都市類型論，都市機能論，都市化論，生活構造論，ライフスタイル論，都市的生活様式論，ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお，テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので，それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林　千代

いつの時代にも，人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には，常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に，英国，日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法，

方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想，その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉，その本質は何か，その現状は等々を考えるためにこそ，歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡　他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山　縣　弘　志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し，東欧諸国も再編成されて，いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが，この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は，ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として，独自の，また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は，帝国主義の時代に，第1段階としてロシア革命，第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが，本来は社会主義の模索として開始されたものであり，社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が，同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ，個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも，ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は，今日においては，後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから，しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか，という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って，1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり，我々の時代の当面している課題が明らかになれば，自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので，以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1．社会主義とロシア革命
　(1) 社会主義論の歴史
　(2) マルクスの社会主義論
　(3) ロシア革命のめざしたもの ― レーニン時代 ―
2．ソ連経済体制の成立とスターリン時代
　(1) 1920年代から30年代への根本的転換
　(2) 工業化と農業集団化
　(3) ソ連型「社会主義」の特質
　(4) ソ連・東欧経済圏の形成
3．「計画経済」と経済管理システム
　(1) 「計画経済」の成立
　(2) 「計画化」と「計画経済」の実態
　(3) ソ連型経済管理システム
4．ソ連経済の到達水準
　(1) 経済構造の特質
　(2) 軍事生産と工業生産力
　(3) 工業技術の諸問題
　(4) 農業政策と農業制度
　(5) 農業生産力
5．停滞からペレストロイカへ
　(1) 経済改革の時代
　(2) ブレジネフと停滞の時代
　(3) ペレストロイカとその挫折
6．ロシア・東欧経済の現状と課題
　(1) ロシア・東欧社会の特質
　(2) 史上経済化の諸問題 ― 何から何への移行か ―

〈成績評価〉

本講義に限らず，学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で，成績評価はレポート（9月提出，40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可，60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るのは当然である。参考書は適宜指示する。

社　会　政　策

光　岡　博　美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは，資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に，当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが，やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で，戦前から，社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが，それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると，社会問題や労働問題の処理は，政府の政策によってだけではなく，国民の権利を前提として，その解決が意図されるようになってきた。殊に，労働問題は，政府の介入を避け，労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法，労

働組合法，労働関係調整法といった労働法体系は，このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は，社会・労働問題研究へのアプローチの方法として，労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても，欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し，日本の労働問題や労使関係の実態を分析し，労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで，このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで，本年度は，次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

(1) 社会政策学の思想と理論
(2) 労使関係論の思想と理論
(3) 日本における社会政策の歴史（戦前期）
(4) 日本における社会政策の歴史（戦後期）
(5) 戦後日本における労使関係の展開
(6) 現代日本の社会政策と労働問題
(7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)〜(7)の項目について，各々約3回程度の講義を予定している。しかし，時には，社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説，最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論，私が専門的に研究してきた問題なども，できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また，授業とは直接関連はないが，労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお，全体の講義を通じて，その時々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され，どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることとする。そして，われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが，教場では私語を慎むこと。また必要に応じて，出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成長の注意は，年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉　野　　紀

220万の法人企業，6,200万人の就業者，そして4,200万の世帯，これらの間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると，日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りくんでおり，その1つ1つを追跡すると，経済という森に歩み入って，森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで，森の上に飛び上がって，これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして，上空から眺めると複雑に入りくんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が，たとえば，日本経済の場合，国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば，マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと，現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……5回

GNP，GDPなど，国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と，さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成2年日本経済の循環図」（配布資料）
『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要，均衡産出量，均衡所得……4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が，モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後，練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され，前回までの主題との接合がはかられて，IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが，日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも，簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策，財政政策」……4回

前回までの内容が理解されれば，金融政策と財政政策の発動によって，望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし，金融政策，財政政策ともに，その効果という点では1律ではなく，機動的なポリシー・ミックスが望まれる，といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マグロウヒル）第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」
……4回

これまでに扱われてきたのは，財やサービスの取引と貨幣市場であったが，これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」……1回

平成5年日本経済の予想。

海外経済との関わりは，主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験 ―――――――――― 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件） ―――――――――― 15%

なお，練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には，学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもありうる。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1．現在の中国は対外開放，経済成長と生活の向上の結合，経済改革の試み等，新たな活気がみなぎるようになった。また，企業自主権の拡大，株式会社，個人営業の公認，失業・倒産の制度化，「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に，より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち，本講義のキー・ワードは，超大国志向，社会主義，発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2．前期授業のはじめに，キー・ワードを3週間分かけて説明する。ここでは，地域研究が本来もっている特徴である，問題のさまざまな面をとらえる，ということと，そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ，といった点に留意する。特に，私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3．2につづいて，中国経済の解明に取組むが，それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち，中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを，3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年），(2)毛沢東モデル（1958～78年），(3)鄧小平モデル（1978～）として，それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは，今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが，その方向というものは，あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり，現在および将来というのは，過去の何らかの延長であると考えるからである。それが単純な延長である場合もあろうし，新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし，また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も，過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば，将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4．上記の3つのモデルを超大国志向，社会主義，発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが，そこでの中国は著しく軍事大国志向，経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で，また，中国が途上国であることからして，やむを得ない面もあるが，世界が環境問題で行き詰まりつつある中での，このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5．授業の進め方は，教科書に沿った講義とビデオ（1-201 または1-301 教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており，自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって，中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては，自明とされていることや，初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また，何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので，年に数回，中国関係のビデオをみる。例えば，新日鉄宝山製鉄所，天津の用水路，長春第1自動車工場，江南億元郷，天安門激動の40年等。

6．受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし，このような方法は実社会では通用しない場合が多いし，正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために，無数にいる専門家の意見の比較，優劣判定，取捨選択，時間による検証，といった作業が必要になる。その前提になるのが，各専門家の学説の正確な理解である（学説の受け入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず，私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7．学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設－超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍渓書舎）￥3,300

アジア経済論

小　林　英　夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより，その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国，台湾，香港そしてシンガポールが，そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が，その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は，一つの高成長グループとしてくくられ，その名をニックス（ＮＩＣＳ）と称された。

では，なぜ，この時期，アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは，どのような歴史を背景に生まれたのか。そして，こうした成長地域の出現は，世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は，こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し，それが日本と世界の政治，経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は，講義形式で行なう。ただし，原則として年間2回外部講師をまねいて，実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが，一昨年は野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を，ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係（戦後日本とアジアの関係を，Ⅰ．賠償過程，Ⅱ．借款過程，Ⅲ．直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に，それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に，外部講師をよび，直接企業進出に的をしぼった，実態報告を行なう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動（1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について，主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する）

1月

まとめ（1年間の講義について，まとめを行なう）

授業の受講にあたっては，あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは，夏休み直前と期末のテストの2回を実施し，両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）¥3,200
小林英夫『東南アジアの日系企業』（日本評論社）¥3,200

日本経済史

古　庄　　正

幕末期の日本は，極東の一封建国家に過ぎなかった。にもかかわらず，開港後わずか数十年の間に日本は工業化を達成し，アジアにおける唯一の帝国主義国にのしあがった。幕末開港後のこうした日本経済の歩みを，出来るだけ系統的に，また分かり易くお話してみたいと思っている。お話する中身としては，今のところ次のテーマを予定している。

(1) 幕藩体制の動揺
(2) 開港と植民地化の危機
(3) 明治維新
(4) 明治政府の工業化政策
(5) 政商と華族の資本蓄積
(6) 農民の半プロ化と士族の没落
(7) 自由民権運動と天皇制国家
(8) 産業革命と工業化
(9) 紡績業と製糸業の発展
(10) 海運と鉄道の発展
(11) 鉱山業と重工業
(12) 寄生地主制と資本主義
(13) 外国貿易の発展
(14) 産業革命と公害
(15) 産業革命と民衆
(16) 日清・日露戦争と植民地支配

ところで，経済史をも含めて，いま，なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。講義要綱を書くたびに，いつも気になるのはこの点である。経済史研究の究極的課題は，人類史の中で今われわれがどのような地点に立っているのか，また，どこに行こうとしているのかを，「経済の深み」から具体的・歴史的に明らかにすることにある。日本経済史の場合ももちろんその例外ではない。かつて，圧政と貧困から人類を救い出す社会体制として期待された社会主義がソ連・東欧諸国を初めとして瓦解し，残存する社会主義大国中国も，ある種の資本主義国に転換しつつある今日，来し方は分かっても，行く末は不透明なものとなった。「昔は歴史というものがあったが，今はもうない」ということになるのかどうか，この点についての回答は近い将来には期待できそうもない。それだけに，歴史を学ぶ必要は一層強まった，といってよい。新聞を読んでいて「中国や韓国などアジアの人たち

と話していて感じるのは，日本についての権威と信頼のギャップである。日本の権威は高まっているものの，信頼の方は逆に低下しているのだ」（『毎日新聞』1992・11・27）という記事が目に止まった。「信頼は金では買えない」という表題のこの囲み記事で筆者が言いたかったことは，アジアの民は，日本が大国として行動することを受入れながらも，日本に対して不安と警戒心を強めている，ということであろう。第二次大戦中，日本はアジアの諸民族に計り知れない被害をあたえた。にもかかわらず，戦後半世紀たった今日でも戦後責任には目をつむり，その反面では，ＰＫＯへの参加を突破口として海外派兵の実績を積み重ねていることがその背景にある。特に植民地朝鮮からは，百万人を越える人々を軍人・軍属・従軍慰安婦・一般労務者として強制連行し，多くの人々を死傷させたにもかかわらず，日本政府と関係企業は何の補償もしなかったばかりか，謝罪さえ拒否してきた。軍の関与を示す決定的な証拠を突きつけられ，従軍慰安婦問題については一応「謝罪」し「真相究明と適切な措置」を約束したが，結局「真相究明」はせず，若干の補償金を支払うことで解決を図ろうとして，被害者と韓国政府の強い反発を招いている。日本政府と関係企業の韓国・朝鮮をはじめとするアジアの被害者に対するこうした傲慢な対応は，決して許されるべきではない。が，それと同時に，過去百年の日韓・日朝間の歴史についてのわれわれの無知・無関心が，これを放任していることも忘れてはならないだろう。日本が再びアジアの，そして世界の孤児にならないためには，日本政府と関係企業のこうした歴史認識を根本的に改めさせねばならない。しかし，そのためには，われわれ自身が歴史について無知・無関心であってはならない。歴史を学ぶことの必要性は，もちろんアジア諸民族との関係だけではない。国内問題についても同様のことがいえる。例えば，今日最大の社会問題となっている「環境問題」について，日本政府も企業もしばしば言及している。しかし「環境破壊」の主因をなす公害については，政府も企業も足尾鉱毒事件からは何一つ学ぼうとはしていない。水俣病患者の訴訟に対する冷酷な措置は，それを例証している。

中小企業論

三　井　逸　友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて，今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し，きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり，さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要があろう。

日本の中小企業は約 600万，企業の99%，従業者の80%を占め，製造業中小企業に限っても80万をこえ，付加価値の50%以上を生み出している。つまり，日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに，諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは，中小企業の地位が安定し，そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差，不利，経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割，当面する問題を概観し，次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し，「中小企業問題」の二面性と，現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では，「下請制」，「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い，結合生産力の「効率性」と，これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い，「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界，これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として，最近の政策課題として注目される，分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての，企業間連携・共同促進策，新規開業促進策，そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが，企業経営のナマの現場を理解してもらうため，ビデオ，スライドの上映，企業経営者の方の話しなどもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え，さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

Ⅰ．中小企業論の課題と対象，規定と構成，問題状況

Ⅱ．「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論

Ⅲ．中小企業の現代的存在形態

Ⅳ．「中小企業政策」の展開と国際比較

なお，毎年夏休みには，補足的資料として，『中小企業白書』を読んでもらい，希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は，他の

専門科目同様，学年末定期試験を中心とする。
〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
（青木書店）￥2,800（税抜）
〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』
（有斐閣）
中小企業庁編『中小企業白書』
〔各年次〕
『エコノミスト増刊，図説日本経済
1993』（毎日新聞社）

教育経済論

谷敷（やしき）正光

〈授業内容〉
経済発展に産業教育が果した意義とその役割について考察する。
日本は近年，「経済大国」として世界的に認められるようになったが，この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を究明するとともに，2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」，イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」，フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上，教育に市場原理の導入，高等教育の質的充実，教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。
そこで本年度は，こうした各国の経済再建と教育改革の動向と，日本の現状をまず考察する。
次に，外国からは高く評価されている日本の高い教育水準，人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に，戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に，それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策，産業教育政策を考察する。
〈授業形態〉
講義の他，年間5～6回程，その都度現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。
〈授業項目と授業スケジュール〉
(1) 欧米先進国の経済の現状と教育
①アメリカ，②イギリス，③フランス，④ドイツ，⑤日本
(2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
①学制時代，②学校令時代，③実業学校令時代
(3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
①復興期，②高度成長期，③1970年代，④1980年代，⑤1990年代
(1)(2)は前期に，(3)は後期に講義する予定。
〈履修条件〉
欠席しないこと。
〈評価方法〉
定期試験の成績
〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。
〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
（東大出版）
文部省『産業教育百年史』
（ぎょうせい）
本庄良邦『産業教育体制研究』
（三和書房）

アメリカ経済論

瀬戸岡　紘

最新のアメリカ情報と，過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら，今日のアメリカ経済事情について，幅ひろく，トータルな解説をします。それとともに，アメリカでのできごとと関係の深い世界の情勢を，ひろく検討します。
とりあげるテーマには，おおむね次のようなものを予定しています。
前期
〔導入の話題〕
◇新大統領の経済政策とアメリカ経済の近況
〔総論〕
◇アメリカ的特質
◇アメリカ経済の歴史的背景
〔アメリカ経済各論〕
◇アメリカの農業
◇アメリカの工業
◇アメリカの企業家
◇アメリカの労働者
◇アメリカの商業とサービス
◇アメリカの金融
◇アメリカの科学技術
◇アメリカの先端産業
後期
〔世界とアメリカ〕
◇国際通貨ドルの地位とＩＭＦ
◇アメリカと貿易（ＧＡＴＴ）
◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義
◇アメリカの海外援助
◇アメリカの多国籍企業
◇多国籍企業とアメリカ経済
〔アメリカと世界の諸地域〕

◇アメリカとＥＣ
◇アメリカと日本
◇アメリカと発展途上諸国
◇アメリカとカナダ・メキシコ
〔むすびの話題〕
◇アメリカの現状と経済学（あたらしい学派の見解）

講義では，一回ごとにひとつずつ（上記の◇）テーマをとりあげ，完結させるように話します。毎回の講義では，まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ，ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには，受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

この講義を受講するためには，特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように，理路整然と，わかりやすく話をすすめます。しかし同時に，アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には，さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発をしてみようかとも考えています。他方，講義でとりあげるニュースとキーワードは，就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として，この講義は，いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく，奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものです。

講義は，極力，受講者諸君の希望をいかして，楽しくすすめるつもりです。とくに，この講義には，アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるように心がけています。たとえば，ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように，講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点，改善提案などは，もちろん今年も実施します。

この講義では，特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって，しかもどの一冊も，これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では，その都度よい文献などを紹介していきます。今，どうしてもといわれれば，日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が，この講義の教科書です。

なお，この講義は，３年生，４年生いずれもが受講できることはいうまでもありませんが，さきに述べたこの講義の性格からいえば，３年生のうちに受講することをすすめます。また，この講義については，いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には，退屈させない楽しい講義をするつもりです。

財務会計論

遠藤　孝

〈授業の主たる内容〉

会計学，とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について，その伝達，開示の手段である賃借対照表（BALANCE SHEET），損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に，その性質，内容，役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので，企業会計とは何か，企業が作成する賃借対照表などの決算書は，どのようにして作成されるか，それはどのような性質，内容をもつものであるか，それはどのような役割を果すものであるか，また決算書はどのように読んだら良いのか，など実例をもって説明する。

〈授業形態，講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

① ４月第１週
企業会計，財務会計とは何か。会計学，財務会計論とは何か，その企業会計，財務会計の何を学ぶのか。

② ４月第２週
先週に引続き，企業会計，財務会計とは何か。企業会計，財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。

③ ５月第１週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度，各国企業会計制度のタイプ。

④ ５月第２週
先週に引続き，日本の企業会計制度の問題点，「企業会計原則」について。

⑤ ５月第３週
賃借対照表論，賃借対照表とは何か。実際に企業が作成した賃借対照表で説明。賃借対照表の役割，賃借対照表学説。

⑥ ６月第１週
資産評価について。流動資産 ― 棚卸資産の評価，有価証券の評価，現行評価制度の問題点。

⑦ ６月第２週

資産評価について。固定資産の評価，土地評価，減価償却について。

⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性，繰延資産項目とその償却。

⑨ 6月第4週
引当金について，引当金とは何か，引当金の設定基準－商法，「企業会計原則」の引当金，引当金会計の問題点。

⑩ 7月第1週
同　上

⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。

⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。

⑭ 9月第3週
同　上

⑮ 10月第1週
企業内容，会計内容の開示について。
注記　財務諸表附属明細表（書）

⑯ 10月第2週
同　上

⑰ 10月第3週
財務諸表の監査，商法上の監査。

⑱ 10月第4週
財務諸表の監査，証券取引法上の監査。

⑲ 11月第1週
会計の国際化，会計基準の国際的調整。

⑳ 11月第2週
同　上

㉑ 11月第3週
日本，世界企業会計の最新動向。

㉒ 12月第1週
同　上

㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
－総括

㉔ 最終週
予　備

以上のスケジュールは学会出張，大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。

〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中　原　章　吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は，多くの人にとって，大学に入って始めてお目にかかるものです。どの分野でも，ある段階に達するまでには，何段もの階段を一段一段上がってゆかねばなりません。この「管理会計論」は，その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は，企業の「ことば」である会計，その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して，「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は，管理会計の本質，体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思います。

後期は，管理会計の豊富な各論のなかから，「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については，その企業の健康診断としての役割を，方法とその留意点，収益性の分析，生産性の分析，安全性の分析，総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については，経営計画とくに要員計画と付加価値会計，経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年度で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば，『企業会計の基礎構造』創成社

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

会計監査論

飯　岡　　透

会計監査の目的は，企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて，監査人が意見を表明することにあり，企業規模の拡大，利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い，近年，その役割はますます重要になってきている。

本講座では，次の内容につき順次講義する。

1．会計監査の意義と役割
(1) 会計監査の意義と機能
(2) 会計監査の種類
(3) 監査基準の必要性とその構造
2．わが国における監査制度の発展
(1) 戦前におけるわが国の監査制度の展開
(2) 戦後におけるわが国の監査制度の展開
3．監査役と会計監査人
(1) 監査人の種類とその要件
(2) 監査役および会計監査人の選任と解任
(3) 監査役および会計監査人の職務権限
(4) 監査役および会計監査人の義務と責任
4．監査証拠の種類と内容
(1) 監査証拠の意義と分類
(2) 合理的証拠とその決定要因
5．監査手続の種類と内容
(1) 監査手続の意義と分類
(2) 監査手続の内容
6．内部統制と試査
(1) 内部統制の意義と構成内容
(2) 内部統制の調査範囲と調査手続
7．予備調査と監査計画
(1) 監査契約と予備調査
(2) 監査計画の目的と種類
8．監査調書の目的と種類
(1) 監査調書の目的と作成要件
(2) 監査調書の種類と保存
9．監査報告書と監査概要書
(1) 監査報告書の意義と機能
(2) 監査報告書の種類
(3) 監査報告書の記載内容
(4) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は，財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから，簿記，財務会計論の講義を履修し，財務諸表について，十分に理解していることが望まれる。なお，成績は，レポートおよびテストの結果によって評価する。また，教材については，最初の授業時に指示する。

商　業　政　策

岩　下　　弘

〈授業項目〉

一　わが国の小売商業構造と蓄積構造
　1　80年代の小売商業構造
　2　80年代の大手小売業の資本蓄積構造
　3　90年代の大手小売業の資本蓄積構造
二　わが国の流通政策論
　1　中小小売商保護政策
　2　流通近代化政策
　3　流通システム化計画
　4　流通革命論
三　流通ビジョンと流通政策
　1　70年代の流通
　2　80年代流通産業ビジョン
　3　90年代流通ビジョン
四　わが国の小売商業調整政策の展開過程
　1　百貨店法
　　1）第一次百貨店法　2）第二次百貨店法
　2　中小小売商業振興法
　3　小売商業調整特別措置法
　4　大店法
　　1）1973年法　2）79年改正法
　　3）91年改正法
　5　凍結宣言，要綱及び条例
　6　通産省による行政指導＝抑制措置
　7　規制緩和
　　1）規制緩和の流れ－前川レポート，行革審報告　2）日米構造問題協議　3）適正化措置
　8 特定商業集積法
　　街づくりと都市計画
五　海外の流通政策
　1　イギリス
　　1）出店調整政策－都市・農村計画法
　　2）日曜営業問題－商店法
　2　フランス－ロワイエ法
　3　ドイツ－土地利用計画
　4　アメリカ－ゾーニング規制
六　「大型店問題」と訴訟－中小商業者運動論
　1　大型店の出店をめぐる諸問題
　　1）社会問題としての大型店の出店
　　2）消費者と大型店
　2　江釣子訴訟
　　1）北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
　　2）訴状と判決の問題点
　3　生業権訴訟
　　1）名古屋市の大型店問題
　　2）名古屋市の商業と小売市場
　　3）生業権論
七　流通問題と消費者保護政策
　1　消費者問題論
　2　消費者保護基本法
　3　消費者行政
　4　生協
八　流通問題と独禁政策
　1　独占禁止法
　2　不公正取引
　3　取引慣行　　以上

〈成績評価〉

試験，レポート，出席により評価する。

〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

古沢紘造

オゾン層破壊，熱帯林破壊，温暖化，酸性雨，放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方，私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では，こうした危機的状況を踏まえ，生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易，投資，援助）を批判的に考察したいと思います。その際，構造的に，また，人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは，人格をもった人間としてのニーズ，環境，資源，地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と，それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

Ⅰ．農産物と貿易
Ⅱ．水産物と貿易
Ⅲ．林産物と貿易
Ⅳ．資源と貿易
Ⅴ．工業製品と貿易
Ⅵ．援助と貿易
Ⅶ．企業進出と貿易
Ⅷ．総括

Ⅰ－Ⅷの具体的な内容については，最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが，自主的にレポートを提出してもらい，それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき，論点を明確にし，自分の考えをしっかり出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは，そのつど説明しますので，授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち，もう少し掘り下げてみたいということがありましたら，遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪ねたらよい機関を紹介します。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究室館4階34号室）を訪ねる人もいます。

マーケティング

曽我信孝

1．前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策
　① 概念と差別化政策
　② 多様化・細分化政策
　③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策
　① 概念と価格設定の方法(1)
　② 価格設立の方法(2)と消費者支配
　③ 差別価格と収奪

(3) チャネル政策
　① 概念と流通機構
　② 商業の排除と系列化政策
　③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策
　① 概念と人的販売政策
　② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは，マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし，講義中は理論の説明に固執するわけではなく，とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2．後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ，総合商社を軸として，日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを，マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境
　① 国内市場の変化
　② ブロック経済化
　③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業
　① 川下戦略
　② 消費財生産部門への参入
　③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略
　① 消費財マーケティングの展開
　② 総合商社の需要創造活動
　③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社
　① 子会社戦略
　② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略
　① 国際化と情報の対応

② 通信事業と支配
③ 情報関連事業と支配
※地球規模での市場の変化は，日本企業だけではなく，世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また，日本市場だけを考えても，生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは，国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで，日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって，総合商社の行動を分析することで，総合商社の国際マーケティングはもとより，日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉
① 年一回の定期試験…70%
夏休中の課題 …20%
出席状況 …10%
② 評価基準
講義内容の理解 …60%
問題意識 …30%
分析力・応用力 …10%

〔教科書〕曽我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000
〔参考書〕三浦信・来住元郎・市川貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200
石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

原価計算論

加藤利安

〈基本的な視点（問題意識）〉

経済的，社会的環境の構造的変化（たとえば，為替相場の変動，国際貿易摩擦，国際化，ハイテク化，高度情報化，経済のソフト化やサービス化，高齢化，就業意識の変化，消費者の価値観の多様性，女性の社会進出，環境問題の対応）によって抜本的な経営改革の必要性の強調＝リストラクチャリング（生産，販売システム等すべての事業組織の再構築）とグローバル経営が標榜されている今日，これら経済的，社会的環境の構造的変化は企業会計の研究にとっても無関係ではないだろう。もし，そうであるならば，それは原価計算の領域にとってもあてはまるだろう。なぜならば，原価計算は計数的技法として企業会計の一領域を形成し，諸種の計算目的の達成を通じて企業経営組織に貢献するものと考えられてきたし，また今後もそうであると考えられるからである。

19世紀中葉において確立した原価計算は，目的手段体系として，その成立の当初から現在に至るまで，さまざまな実践の場から提起され，時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果す目的を5つ列挙している。換言すると，そこでは財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら，基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており，全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において，戦後における原価計算の研究は，その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算，直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され，さらに，最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が議論されている。このように，一定の時代的環境状況の認識の下である特定の社会的役割を果すべく設定されてきた「原価計算基準」も，変容した今日的な経済的，社会的環境下においてその現実的課題への適合性が問題とされるに至り，原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになっている。それは「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしているが，一定の経済的，社会的環境の下で企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され，計数的技法としての原価計算が当該目的達成のための手段であるとすれば，目的手段体系の因果的把握が可能となるのではないだろうか。このような趣旨で本年度の授業内容は，わが国の「原価計算基準」を所論展開の出発点としながらも，その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ，それらを会計現象の一つとして捉え，それをできるだけ系統的に分析し，原価計算の展開過程を論理的に解明することを心掛けることにした。

〈授業計画〉

前期では，原価計算の基礎的考察として原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では，近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として，意思決定指向的な原価計算について検討を加える。

〈評価方法〉

原則として，学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが，夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験を行う。

〔教科書〕最初の授業前に指示する。
〔参考文献〕授業時に適宜挙げる。

労務管理論

前期：石　井　脩　二
後期：庄　村　　長

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめている。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き，国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発，過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ，いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで，あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は，今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは，現実に生起している事実を可能な限り把握し，そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は，日本企業の現実に焦点を併せ，これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は，一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し，その効果的な組み合せによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは，これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在，日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは，競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものが妥当性を問われているということにほかならない。この講義では，日本企業が直面している企業環境の変化のなかで，どのような人的資源管理が展開されようとしているのかを極力最新の情報によりつつ明らかにし，新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は，人的資源管理に関わるもののうち，一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは，企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は，周知の終身雇用慣行であり，年功制度であった。しかし，今日，日本企業を取りまく環境変動は，従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし，解体の様相さえみせはじめている。この講義では，その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は，以下の順序で進めていく。

序　章
　労務管理ないし人的資源管理とは（4月）
第1章
　日本企業が直面している諸問題（4月～5月）
　第1節　企業環境の変化と日本企業の戦略転換
　第2節　事例研究
第2章
　雇用管理の内容と新しい動き（6月）
　第1節　募集・選考
　第2節　教育訓練・配置
　第3節　昇進・昇格
　第4節　給料・報酬
　第5節　労働時間
　第6節　定年退職
第3章
　人事制度の新しい展開（6～7月）
　第1節　変化を促進した要因
　第2節　具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は，講義方式，板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点），後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は，答案の論理性と説得性にもとづく。勿論，講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また，その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし，以下の文献は必読。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）￥2,800
②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）￥1,300
③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）￥1,300
④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）￥1,700

行　政　法　Ⅱ

斉　藤　　寿

行政法の各論として，各種の行政法領域ごとに，関係法令を類型化し，解釈学的にとらえるとともに，判例や事例研究を通して，行政法令の現実的機能にふれつつ，興味深い講義を続け，楽しく研究します。

主な内容としては，(1)行政組織法，(2)公務員法，(3)公物法・営造物法，(4)警察法，(5)統制法，(6)公企業法，(7)公用負担法，(8)財政法，などについて学んでいきます。

そして，時間的に可能であれば，生活空間（環境）形成行政法などにも，およぶ予定です。これらの講義は，一年間・全体を通じて，極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房），『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など，拙著の中から，講義の際，選択・指示します。

民　法　Ⅳ（1）

青　山　尚　史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は，最も身近な法律である。講義では，夫婦・親子・親族を中心としつつ，民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち，民法総則の簡単な説明，ついで物権と債権につき必要最小限度の説明，そして親族法に大部分の時間を充て，最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』（啓文社）

民　法　Ⅳ（2）

青　山　尚　史

民法Ⅳ－(2)は，相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粋身分法を中心とするのに対して，相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は，大別すると，相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『相続法講義』（啓文社）

比　較　憲　法

竹　花　光　範

本年度も，昨年度と同様，次の順序で講義を行う予定である。

1．比較憲法学とは
2．憲法の概念と分類
3．国体と元首（共和制と君主制，元首，国のシンボル等）
4．統治の原理と構造（民主政治の基本原理，議院内閣制と大統領制，一院制と二院制，社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経　済　法

川　井　克　倭

経済法―独占禁止法を中心として―

第1部　経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部　独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占，カルテル，企業結合，独占的状態，不公正な取引方法等について，なるべく条文に即して講義する。

このほか，最近でいえば経済の国際化を迎えて，国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり，臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトウデートの問題に対して講義し，学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克倭著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。
川井克倭著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）
川井克倭著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首　藤　素　子

第1に，冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に，戦後日本の対外関係について，日米経済摩擦，東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に，これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に，現代の国際関係における紛争の問題について，とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ，暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版　国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀貞他編『講座　国際政治』（東大出版会）1989年（第2，3，4巻）

西洋政治史

浦　田　早　苗

世界は今，大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革，高度産業化に伴う社会の変質などによって，国家や政党，制度や組織，国民や民族などの近代政治の概念に基本的な検討がせまられている。講義では，歴史政治学的アプローチに則った大局的視方から現在ヨーロッパで問題になっている制度や事件の検討を行う。

宣伝広告論

上　條　末　夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論，歴史，そして実際について，具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ，政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は，これにどう対応していくべきか，あるいは社会人として，社会および個人の関係をどう調整していくべきか，という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政　党　論

岩　井　奉　信

政党は民主政治の要であるといわれてきた。事実，民主主義国家で政党を主体とする政治が行われていない国はない。しかし，近年，社会的価値の多元化と共に従来の政党政治のあり方が大きな曲り角に来ているともいわれる。本講義では変貌する政党政治という視点から政党とは何か，政党制と選挙システム，政党組織形態などという基本的な問題を論じた上で，日本における政党と議会政治との関係とその変化について，実証的に学んでゆく。とりわけ自民党とその政治のあり方については最新の資料やデータを用いて，派閥や族議員の問題など今日的なテーマを取り上げ，具体的にかつ体系的に論じてゆく予定である。

〔教科書〕岩井奉信『国会議員の研究』（日本経済新聞社）近刊
岡沢憲芙『政党』（東京大学出版会）

〔参考書〕岩井奉信『族議員の研究』（日本経済新聞社）
岩井奉信『政治資金の研究』（日本経済新聞社）

経　営　統　計

後　藤　儀一郎

統計学，特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学は，もはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら，それらが実際においてどのように応用（たとえば統計的品質管理）されるかを学習する。

〔教科書〕吉野紀・後藤儀一郎著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

国際経営論

桑　名　義　晴

われわれの住む地球は，かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在，世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は，地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では，近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば，国際環境の激変と政治リスク管理，グローバル競争戦略，国際情報システム，国際経営組織，国際人事管理，日本的経営の国際的適用性などの諸問題を，日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

保険経営論

石名坂　邦　昭

今日，日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり，一方国内の個人消費，住宅投資，設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中にあって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から，リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

渡　邊　惠一郎

財務会計論は会計学の一分野であり，企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は，企業経営に責任を持つ経営者が，投資者，債権者，その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して，適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が賃借対照表，損益計算書などの財務諸表である。

講義では，財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし，またこれに関するわが国の商法，税法などの会計法規を取り上げ，さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

経営分析論

片　桐　伸　夫

経営分析の方法を大略，以下の要領で講義する予定ですが，特に伝統的，基本的方法である収益性，流動性の分析にポイントを置きます。

1．収益性分析
2．流動性分析
3．生産性分析
4．成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高　木　克　己

我々が社会生活を送って行く上で，一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし，企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを，広範な事例を解説しながら講義を進めて行く。なお，テキスト，参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中　村　眞　人

企業社会と言われる今日の日本社会で，人々はどのように働き，生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で，企業に働く人々の仕事の現実について考えていきたい。現代日本企業の労務管理諸制度と労働問題を考察の素材とする。

はじめに，問題をとらえるための基本的枠組として，労働市場と分業について話す。つづいて，雇用管理（人事管理），賃金，労働時間，労使関係という個別の事柄へと話を進めていく予定である。

商　業　史

山　田　　勝

現代商業の生成過程を，貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ，現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降，日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐　原　作　美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌を中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋　寛編『作者別　万葉集』（桜楓社）¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

鈴　木　裕　子

今年度は，『源氏物語』を，若紫巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

園　部　幹　生

『発心集』を読む。本作品は鴨長明の有名な説話集であるが，本講座では，著者の思想そのものよりも，一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味，及び他作品との関連について考えてみたい。
〔教科書〕特に指定しない。
〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

清　田　啓　子

安永天明期の知識人の機智をあつめて成立した黄表紙を，その生成から完成，下降まで，作者の個性を追いながらたどってみたい。
〔教科書〕プリント

国文講読Ⅴ（近・現代）

田　澤　英　藏

「吾輩は猫である」（夏目漱石）を通読する。また，同じ頃に書かれた「倫敦塔」「カーライル博物館」などにも触れてみたい。
〔教科書〕開講後に指示する。

国文講読Ⅴ（近・現代）

尾　形　国　治

明治・大正・昭和期の名作を１年間でおよそ12～３作品じっくりと読む。作者とその時代，生い立ちの問題，さらにはその文学的特色と可能性，その限界など，さまざまな角度から考察してみたいと思う。
〔教科書〕各種文庫本

国文特講Ⅴ（近・現代）

大　室　英　爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。詩及び散文の読みを通し，彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。本年度は「春」が中心となろう。
〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

英文タイプライティングⅡ

竹　内　美恵子

一年次に習得した基礎の上に，レター，各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし，一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。
なお，他学部の学生は，ブラインド・タッチをマスターしていること。

時　事　英　語

岡　本　　誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。
〔教科書〕テープ使用。

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡　本　　誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば，ＯＫという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。
〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田　徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野，医療関係の検査診断機器には，顕著なものがある。将来，診療放射線技師を目指す諸君にとって，コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASIC を中心に，アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1．コンピュータ言語の基本理論
2．BASIC 言語
3．パーソナルコンピュータ（PC-9801)による実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
（サイエンス社）¥1,854

臨床放射線特論Ⅰ

本間　襄

医療の中で，診療録・依頼箋の内容を理解し，相互のコミニュケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では，将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕定めず

応用計測学

樫尾英次

医用画像診断装置は，コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では，核医学機器（ガンマカメラ，シングルホトンＥＣＴ，ポジトロンＣＴ），Ｘ線ＣＴ装置，ＭＲＩ装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置，ＤＳＡ，ＣＲならびにＰＡＣＳについても，その概要を講述する。

〔参考書〕岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
（コロナ社）

教職および資格講座

教　職　課　程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事
社会福祉士基礎　講座

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが，各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
（履修についての詳細は，「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。）

課程・講座名	資格取得学部
教職課程	全学部
学校図書館司書教諭講座	全学部
社会教育主事講座	全学部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事 社会福祉士基礎　講座	全学部

講　義　内　容　目　次

Ⅰ　教職課程

(1)　教職に関する専門科目（必修）

教育原理（上岡　安彦）……1
教育原理（北村　三子）……1
教育原理（坂本　信昭）……1
教育原理（村山　輝吉）……1
教育原理（小山　一乗）……1
教育心理学（教育方法論を含む）
（大浜　幾久子）……2
教育心理学（教育方法論を含む）
（遠藤　司）……2
教育心理学（教育方法論を含む）
（国眼　眞理子）……2
教育心理学（教育方法論を含む）
（中村　均）……2
教育心理学（教育方法論を含む）
（難波　和明）……2
青年心理学（教育方法論を含む）
（大浜　幾久子）……2
青年心理学（教育方法論を含む）
（川田　三夫）……2
青年心理学（教育方法論を含む）
（小宮山　要）……3
青年心理学（教育方法論を含む）
（牟田　悦子）……3
特別活動　（中野目　直明）……3
生活指導　（遠藤　司）……3
生活指導　（佐藤　尚人）……3
宗教科教育法（小山　一乗）……3
国語科教育法（神谷　道倫）……4
書道科教育法（那須　隆吉）……4
英語科教育法（荒井　良雄）……4
社会科・地理歴史科教育法（長野　覚）…4
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・地理歴史科教育法（中島　義一）…4
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・地理歴史科教育法（野呂　肖生）…4
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・公民科教育法（長谷部　八朗）……5
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・公民科教育法（谷敷　正光）……5
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・公民科教育法（大久保　治男）……5
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
社会科・公民科教育法（橋爪　敏）……6
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）
職業科教育法（前田　幸一）……6
商業科教育法（谷敷　正光）……6
道徳教育の研究（上岡　安彦）……7
教育実習（上岡　安彦）……7
教育実習（坂本　信昭）……7
教育実習（村山　輝吉）……7
教育実習（北村　三子）……7

(2)　教職に関する専門科目（選択）

教育哲学　（汐見　稔幸）……7
教育社会学（高島　秀樹）……8
現代社会の諸問題と教育（高島　秀樹）……8
教育評価　（大浜　幾久子）……8
教育情報学（難波　和明）……8
教育調査　（鈴木　規夫）……8
教　育　史（北村　三子）……8
教育関係法規（広沢　明）……9
社会教育の基礎（社会教育概論）
（村山　輝吉）……（9）
社会教育施設（村山　輝吉）……（9）
図書館学Ⅰ（山崎　慶子）……（9）
図書館学Ⅱ（源　昌久）……（9）
青少年問題研究（前期：中野　東禅）……9
（後期：和田　謙寿）
視聴覚教育（赤堀　正宜）……（9）
教育臨床心理学（牟田　隆郎）……9
教育法規研究（神田　修）……9
児童文化　（湯山　厚）……9
宗教教育　（松本　晧一）……10

(3)　教科に関する専門科目

【社会　地理　歴史　公民】

日本史概説（粟野　俊之）……10
日本史概説（小松　寿治）……10
世界史概説（井村　行子）……10
世界史概説（渡辺　惇）……10
地誌学概説（橋詰　直道）……10
地誌学概説（長野　寛）……10
地誌学概説（宮口　侗廸）……11
人文地理学概説（小林　高壽）……11
自然地理学概説（早船　元峰）……11
自然地理学概説（安部　喜也）……11
民　法　Ⅰ（青野　博之）……11
民　法　Ⅰ（林　幸司）……12
政治学原論（大塚　桂）……12
社会学原論（渡辺　源樹）……12
経済原論　（阿部　弘）……13
経済原論　（荒木　勝啓）……14
経済原論　（小野　俊夫）……15
哲学概説　（篠原　壽雄）……15
哲学概説　（国嶋　一則）……15

倫理学概説（久保　陽一）……15
宗教学概説（洗　　建）……15
宗教学概説（松田　文雄）……15
宗教人類学（佐々木　宏幹）……（15）
民間信仰論（谷口　　貢）……15
東洋思想研究（舘野　正美）……16
民衆宗教成立史（洗　　建）……16
歴史哲学　（麻生　　建）……16
日本文化史Ⅰ（廣瀬　良弘）……（16）
美術史概説（中島　亮一）……（16）
日本宗教文化史（井上　順孝）……16
日本仏教史（廣瀬　良弘）……16
【職　業】
産業概説（前田　幸一）……17
職業指導（山田　勇治）……17
商業実習（前田　幸一）……17
【商　業】
職業指導（山田　勇治）……（18）

Ⅱ　学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ（山崎　慶子）……19
図書館学Ⅱ（源　　昌久）……19

Ⅲ　社会教育主事講座

(1)　必修科目
社会教育の基礎（社会教育概論）
（村山　輝吉）……20
社会教育計画（村山　輝吉）……20
社会教育実習（村山　輝吉）……20
社会教育実習（上岡　安彦）……20
(2)　選択必修科目
現代社会の諸問題と教育（高島　秀樹）…（20）
婦人問題と社会教育（矢口　悦子）……20
青少年問題研究（前期：中野　東禅）……21
（後期：和田　謙寿）
社会教育施設（村山　輝吉）……21
図書館学Ⅰ（山崎　慶子）……（21）
博物館学Ⅰ（倉田　芳郎）……（21）
博物館学Ⅱ（竹内　順一）……（21）
企業内教育・職業訓練（塩川　正人）……21
社会体育Ⅰ（古田　潤子）……21
社会体育Ⅱ（古田　潤子）……21
視聴覚教育（赤堀　正宜）……（22）
教育原理……（22）
教育心理学（教育方法論を含む）……（22）
青年心理学（教育方法論を含む）……（22）
社会心理学（坪井　　健）……22
教育社会学（高島　秀樹）……（22）
教育調査　（鈴木　規夫）……（22）
教　育　史（北村　三子）……（22）
児童文化　（湯山　　厚）……（22）
社会教育行政（牧野　　篤）……22
成人学習論（牧野　　篤）……22

Ⅳ　博物館学講座

(1)　必修科目
博物館学Ⅰ（倉田　芳郎）……23
博物館学Ⅱ（竹内　順一）……23
教育原理……（23）
社会教育の基礎（社会教育概論）
（村山　輝吉）……（23）
視聴覚教育　（赤堀　正宜）……23
博物館実習Ⅰ（館務）
（倉田　芳郎・太田喜美子）…23
博物館実習Ⅱ（収集）
（倉田　芳郎・所　理喜夫・
葉貫　磨哉・太田喜美子）…23
考古発掘実習（千葉　基次）……24
博物館実習Ⅲ（見学）
（倉田　芳郎・太田喜美子）…24
(2)　選択必修科目
日本文化史Ⅰ（廣瀬　良弘）……24
インド仏教文化史（奈良　康明）……24
西洋文化史Ⅲ（三小田　敏雄）……24
仏教美術　（中島　亮一）……24
現代美術　（宮崎　克己）……25
禅　美　術（海老根　聰郎）……25
美術史概説（中島　亮一）……25
西域美術史（相馬　　隆）……25
考古学概説Ⅰ（日本）
（倉田　芳郎）……25
考古学概説Ⅱ（外国）（飯島　武次）……25
考古学特講Ⅱ（高浜　　秀）……25
考古学特講Ⅳ（飯島　武次）……25
日本民俗学（谷口　　貢）……26
宗教人類学（佐々木　宏幹）……26
地形学Ⅰ　（小池　一之）……26
地　質　学（貝塚　爽平）……26

Ⅴ　社会福祉主事講座

社会福祉士基礎

※社会福祉原論（伊藤　秀一）……27
※社会福祉原論（原田　信一）……27
※老人福祉論　（中野　いく子）……27
※障害者福祉論（原田　信一）……27
児童福祉論（高橋　重宏）……27
※社会保障論（近藤　　功）……28
※公的扶助論（伊藤　秀一）……28
※地域福祉論（和田　敏明）……28
※心理学（福祉）（井上　孝代）……28
※社会学（福祉）（江上　　渉）……28
※法　学（福祉）（小林　弘人）……28

リハビリテーション論（原田　信一）……29
社会福祉計画論（坂田　周一）……29
社会福祉運営論（坂田　周一）……29
家 族 福 祉 論（田村　健二）……29
医 療 福 祉 論（春見　静子）……29
婦 人 福 祉 論（林　　千代）……29
保 健 福 祉 論（安梅　勅江）……30
社会福祉発達史（林　　千代）……30
海外社会福祉論（中野　いく子）……30
上記科目のうち
※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注（　）頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

Ⅰ 教　職　課　程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教　育　原　理

上　岡　安　彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に，出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ，ルソーの音楽の音色を身体で感じることとします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
（岩波文庫）
上　¥570，中　¥520，下　¥520

教　育　原　理

北　村　三　子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して，近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は，近代以前の若者の有り様を概観した後，近代青年期の成立とその特性にふれ，次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教　育　原　理

坂　本　信　昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ，ともに考えていきます。

1．いま教育のめざすもの
2．ひとの適応・成長・発達
3．家庭の役割・地域の働き
4．人格をはぐくむ
5．学校への期待
6．よりよい授業に向けて
7．学習をふかめる
8．教師を育てる
9．教育制度をみなおす
10．障害児とともに
11．内なる差別を考える
12．学びへの出発

さらに，教育問題にかかわるＶＴＲを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジアルノート（エイデル研究所）¥1,800
〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
（学芸図書）¥950
デューイ著，宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200
西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）¥2,600

教　育　原　理

村　山　輝　吉

テキストにそいながら，下村湖人の著作などを手がかりとして，人間の発達と教育，文化，社会のかかわりについて原理的考察をおこない，あわせて教育の制度，形態，内容，方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）
¥480
〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教　育　原　理

小（こ）山（やま）一（かず）乗（のり）

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら，日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し，教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けている用語についてもとりあげてみたい。基本的な留意項目は，①教育学研究の諸方向，②教育とは「何」か，③教育の目的・目標，④教育の内容，⑤教育の方法（教授学習・生活指導），⑥教育の経営，⑦教育の制度，⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』

（学芸図書）￥950
『教育小六法』（学陽書房）￥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省，各￥230，￥250，￥370）
『生徒指導の手引』（文部省￥460）
〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジアルノート（エイデル研究所）￥1,800

教育心理学
（教育方法論を含む）
大　浜　幾久子

前半では，発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち，教育にかかわるものを解説する。後半では，学校教育を中心に，教育の現場の様々な問題をとりあげ，教育心理学的な考え方と，それに関連した最近の心理学研究を紹介，解説していく。また，知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時，行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）
遠　藤　　司

今日の教育の現場において，教師，生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に，教師として生徒と様々な形で関わる際に，心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって，具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では，心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを，学習，評価等の諸領域において概観しながら，生徒とのよりよい関わりを作るために，教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。
教科書，参考書については，講義中，随時紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）
国　眼　眞理子

教育心理学は，教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが，中学・高校の免許状取得を念頭において，「青年期」「心の健康」，「対人関係とパーソナリティ」，の三領域を中心に学んだ上で，「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。
〔参考書〕授業において随時紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）
中　村　　均

1．発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達的変化の概観。
2．学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3．個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4．教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）
難　波　和　明

動機づけ，ＡＴＩなどを中心として，教える立場からだけでなく，学ぶ側の立場を考慮にいれた授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに，認知心理学の最近の成果にも触れながら，教育について考えていく。
〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学
（教育方法論を含む）
大　浜　幾久子

まず青年期に限らず一般に，人間の発達とは何か，について考察する。その上で青年期の様々な問題をとりあげ，それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介，解説していく。また，性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時，行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）
川　田　三　夫

青年は発達的な存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め，友達と比較をしたりして色々と悩みながら現在に至っている。親はもちろん，テレビ・マンガ，遊び・おもちゃ，学校・友達，勉強・進学，文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多

い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で，分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学（教育方法論を含む）

小宮山　　要

前半では青年期の発達課題，自我，感情，知性等について考察する。また，後半では親子関係，恋愛・結婚，職業，問題行動，時間的展望等について検討し，自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕使用しない。

青年心理学（教育方法論を含む）

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら，青年期の身体的，知的，情緒的発達や人間関係の特徴，彼らへの対応について学ぶ。また，現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して，各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本　弘編著『ポイント教育学－青年心理学』（学文社）￥1,000

特別活動

中野目　直　明

情報化，国際化，高齢化の進む現代社会において，広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え，人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として，次の内容を講義する。

1．現代社会と学校教育の課題
2．人間形成を目指す特別活動
3．特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』（明治図書）

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）￥2,000

生活指導

遠藤　　司

教師として生徒の「生活」にいかにして関わるべきかという問題は，今日の学校教育において重要になっている。特に最近，学校生活に適応できずに，様々な形で不適応状態に陥り，困難をおぼえている生徒も多い。本講義では，それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味，あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ，一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか，また，学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書，参考書については，講義中，随時紹介する。

生活指導

佐藤尚人

児童・生徒の教育を考える時，教科学習の指導はもちろん，学習がスムーズに行われるための環境づくり，わけても１人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では，友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに，子どもの精神発達の道すじを理解し，教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』（福村出版）￥2,200

宗教科教育法

小山一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係，「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第２次世界大戦後の，対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ，日本国憲法20条と教育基本法９条との関係，基本法９条と初期社会科学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で，「宗教の定義集」への着目をし，「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討す

る。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育，宗教的情操教育，宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して，異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し，幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』（曹洞宗宗務庁）￥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道　どこが違うか』（大法輪閣）￥1,600
『教育小六法』（学陽書房）￥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省，各￥230，￥250，￥370）
『生徒指導の手引』（文部省￥460）
その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。

〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版，1985年）
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神　谷　道　倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容，あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義，後期は実際の教材にあたって，基礎学力を点検するとともに，教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め，実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕改編　中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）￥1,800

書道科教育法

那　須　隆　吉

長い歴史をもつ書の特質を考察し，その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し，将来の教師としての自覚を促し，指導力を養うことにつとめたい。

〔教科書〕未定
〔参考書〕適宜指示する。

英語科教育法

荒　井　良　雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

〔教科書〕『英語科教育法の実際』（成美堂）￥2,200
〔参考書〕荒井良雄『英語英文学とともに』（新樹社）￥2,060

社会科・地理歴史科教育法（平成元年度以前入学生：社会科教育法（地理））

長　野　　覚

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち，特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを具体的に指導する。後期は授業演習を行い，教育実習に備える。

〔教科書〕中学校社会科教科書，高等学校地理教科書・地図帳，文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法（平成元年度以前入学生：社会科教育法（地理））

中　島　義　一

社会科（地理歴史）教育の諸問題を講義し，後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法（平成元年度以前入学生：社会科教育法（歴史））

野　呂　肖　生

「中学校で社会科，高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし，社会科・地歴科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

長谷部　八　朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら，社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は，社会科公民科の性格，目標，歴史，指導計画，指導案，教材研究，教育評価といった問題について，とりあげる予定である。

そして後期には，受講生にテーマを課し，発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については，最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕適宜指示する。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

谷（や）敷（しき）　正　光

〈授業内容〉

社会科は，民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で，重要な使命を負って誕生した教科であり，日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし，この社会科教育も，戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し，動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し，新たに生活科を設け，高等学校の社会科を廃止し，新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって，しっかりとした社会科教育を樹立するため，単なる授業方法の技術論ではなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で，社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ，教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論，視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1．日本教育の現状
2．教育の基本概念
3．社会科教育の原点
4．社会科学習指導要領の変遷
5．中学校の教育課程と公民科
6．高等学校の教育課程と公民科
7．社会科の学習指導計画
8．学習指導案の作成
9．中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10．高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11．教育評価
12．教育実習の意義
13．模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14．社会科教師論
15．教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

定期試験は行わないが，授業での課題の提出，学習指導案の作成，授業実践などで総合的に評価する。

〔教科書〕大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

〔参考書〕遠山　啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）
石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）
灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）
無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）
その他，若干のルポ，小説，社会科・公民科の教科書，中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注　意〕①年間かなりのプリントを配布するので，必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

大久保　治　男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ，公民科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標，構成，内容等について考究する。さらに具体的に指導計画，指導案，指導方法，教材研究，教育評価については，受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。ＯＨＰ，スライド，８ミリ，ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ，将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講

義となるよう配慮する。
〔教科書〕その都度指示する。
〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）
各自が使用した社会関係の教科書。

社会科・公民科教育法
（平成元年度以前入学生：社会科教育法）

橋　爪　　敏

社会科は，戦後の民主的諸改革の一環として，民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって，単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく，戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし，現実の政治的状況・教育状況のなかで紆余曲折してきたのも事実であり，周知のように，高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ，公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して，厳しいものがあると言ってよかろう。

この授業では，こうした点を踏まえた上で，公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また，模擬授業等の機会を設けて“教えること”を，実際の体験を通しても学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前　田　幸　一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが，ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

(1)　「技術・家庭のあり方」について，新聞の切り抜きを通して考えていく。

(2)　「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について，その新旧の違い，変化などを比較検討する。

(3)　職業教育について

(1)(2)は前期授業，(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

〔参考書〕宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』
（開隆堂）
近藤大生・有本章編著『職業と教育』
（福村出版）

商業科教育法

谷（や）敷（しき）　正　光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は，日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され，産業構造の高度化，経営革新にともなってめまぐるしく変遷してきた。そして，高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され，さらに先端産業化，国際化，情報化時代をむかえ，再び修正されている。従って，本講は，「職業教育」のあり方そのものが問われている現在，しっかりとした商業教育を樹立するため，この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり，本来的な意味での商業教育論を展開し，教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから，「近年，産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添をお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている。昨年度も商業科の教員志望者は多数採用されているので，しっかり勉強して教師をめざして欲しい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論，視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1．日本経済の発展と教育・職業教育
2．職業教育の現状と課題
3．職業教育・商業教育の概念
4．高等学校における商業教育の歴史
5．高等学校の教育課程
6．商業科の教育課程
7．商業科の学習指導計画
8．学習指導案の作成
9．商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10．教育評価
11．教育実習の意義
12．模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13．商業科教師論
14．教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）
〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』
（新潮文庫）
灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）
竹内　宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）
その他，高校商業の教科書，高等学校学習指導要領，新聞の切り抜き，雑誌，ルポ，小説なども使用する。
〔注　意〕①年間かなりのプリントを配布するので，必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上　岡　安　彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。
〔教科書〕『道徳教育の研究』〔新訂版〕（学芸図書）￥900

教　育　実　習

上　岡　安　彦

事前指導
学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作成実習
訪問指導
実習期間の研究授業参加
事後指導
デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し，日本の教育を考えてみる。
〔教科書〕『中学校　学習指導要領』（大蔵省印刷局）￥250
『高等学校　学習指導要領』（大蔵省印刷局）￥370
デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
￥350

教　育　実　習

坂　本　信　昭

教育実習前の段階では，教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し，教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。
教育実習期間中は，できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。
教育実習後は，口頭報告，レポート作成－提出，教育問題にかかわるＶＴＲの視聴，グループ編成による授業（ディスカッション）を行い，教育への理解を深め，教育とは何か，どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし，さらに，望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は，下記以外にも授業で適宜紹介する。
〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
（共文社）￥480
田村皖司他著『きょういく』ビジアルノート（エイデル研究所）￥1,800
西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）￥2,600

教　育　実　習

村　山　輝　吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ，教育実践について理解を深めるよう，年間を通じて次の事項をとりあげる。
1．教育実習の意義と心がまえ
2．学習指導について
3．生活指導について
4．学校と教師に関する諸問題
実習校における実習体験をはさんで，講義，討議，レポート作成，面接指導等，適宜の方法と形態で進めていく。

教　育　実　習

北　村　三　子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は，教育をめぐる技術・技能を主題に，文献を読み合い討議をしたい。

(2)　教職に関する専門科目（選択）

教　育　哲　学

汐　見　稔　幸

今年度も学校に焦点をあて，文化の変容と学校

という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは，社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず，学校の内側がそれに見合って変わっていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか，コンピュータ教育をどうすべきかなどいくつかの角度から，現状を批判しつつ，考えてみます。教職を希望しつつも，教育の今後を少し理論的に考えみようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが，年何回かの簡単な合宿を行なう予定でいます。

教育社会学

高　島　秀　樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ，社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいうまでもないが，それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し，次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという，きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で，社会集団の教育（家族，遊びと仲間集団，地域社会など）と学校に焦点を合わせ，その基本的特質を明らかにするとともに，現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』
（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高　島　秀　樹

現代日本社会とその内での私達の生活は，今日大きく変動しつつあり，そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では，現代社会の内における個人のライフステージに沿って，各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題，各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし，さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に，実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず，各々の問題について基本的なことを説明した上で，受講生自身に考え，発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著
『生活世界を旅する－ライフステージの社会学』（福村出版）
1993年３月刊行予定

教　育　評　価

大　浜　幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず，教育心理学の研究手法 ― 実験・観察・調査・テスト ― の基礎を学ぶ。その上で，発達や学習の測定，評価に関わる研究演習を行い，そのことを通して，教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお，パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難　波　和　明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに，ＣＡＩ，ＣＭＩ，コンピュータ・リテラシーなど，コンピュータと教育に関する話題を扱いながら，情報化時代の教育について考えていく。

教　育　調　査

鈴　木　規　夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い，調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は，調査主題の設定，主題に関する討議，調査票の作成，調査の実施，結果の分析等である。なお，結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教　育　史

北　村　三　子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広沢　明

憲法，教育基本法，子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき，具体的事例に触れながら講義を行う。校則，体罰，内申書，日の丸・君が代，教科書検定，学校事故，障害児教育，民族教育など今日的な教育問題について，法的観点から検討をしたい。
〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

（P.20）参照

社会教育施設

村山輝吉

（P.21）参照

図書館学Ⅰ

山崎慶子

（P.19）参照

図書館学Ⅱ

源　昌久

（P.19）参照

青少年問題研究

前期：中野東禅
後期：和田謙寿

開講時に指示します。

視聴覚教育

赤堀正宜

（P.23）参照

教育臨床心理学

牟田隆郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は，必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために，感受性に富む若い人たちが，社会のもつさまざまな矛盾を，「問題」というかたちで表現してもいる。
本講義では，社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ，その発生の機序と対応について，心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神田　修

憲法と教育基本法，教育と権利，学校教育・教師と法，教育行政と法などについて学習する。
〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）
②神田修他編著『現代教育の課題』1992年（北樹出版）
③兼子仁，神田修編著『教育法規事典』1991年（北樹出版）

児童文化

湯山　厚

児童文化とはなにかとか，その史的推移とか，あるいはこれからのあり方は，といったように概論風にではなく，現に身近にある名作物の児童図書や，リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ，それらを歴史的に，あるいは他ジャンルとの関連，さらには公教育，民間教育運動との関係，といった観点からとらえなおし，子どもを取りまく環境の一部ともなっている

文化財をみなおすいとぐちとしたい。
〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）￥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各￥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）￥400
H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）￥1,300

宗　教　教　育

松　本　晧　一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から，知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。
〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3)　教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会　地理　歴史　公民】

日本史概説

粟　野　俊　之

前半では，日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを，主に政治史を中心として概観する。後半では重要な問題をとりあげて，具体的に考えて行きたい。この際，関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小　松　寿　治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが，特に日本史を教える上で，最小限必要である事項を選び，授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井　村　行　子

ヨーロッパ，アメリカの歴史を中心に概説する。帝国主義の時代以降に重心を置いていきたい。
〔教科書〕山本・藤縄・早川・野口・鈴木編『西洋の歴史』〔古代・中世編〕（ミネルヴァ書房，1988）￥2,060
大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房，1987）￥2,000
〔参考書〕西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』〔ビジュアル版〕世界の歴史18（講談社，1986）￥1,500

世界史概説

渡　辺　　惇

アジアの歴史を地域的に東アジア，東南アジア，南アジア（インド），西アジア，内陸アジアに分け，それぞれの歴史的世界の風土，歴史展開の特色等について講義する。
〔教科書〕特に定めず，プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋　詰　直　道

前半は，地域の捉え方，地域区分，自然環境と人間の関わり方など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。
後半は，主に都市と農村の変容について，動態地誌的な事例研究成果を紹介し，地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。
教科書は特に定めず，講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長　野　　寛

前期は地理学における，地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で，国際的に関心をもたれている国，および中華人民共和国の地誌を学習することにしたい。講義はプリント資料を中心に進めるが，教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮　口　侗　廸

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということをテーマとしながら，地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい，日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小　林　高　壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）④自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑤地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑥地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑦人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と，二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

早　船　元　峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ，人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に 2.5万分の1，5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ，それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕氷見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

自然地理学概説

安　部　喜　也

地球表面の自然を構成する要素としての地形，水，気候，植生等のそれぞれの分布および変動の要因について解説し，また自然のシステムにおける要素の相互関係について考察する。後半には環境としての自然について論ずる。

民　法　I

青　野　博　之

〈講義目的（要旨）〉

生活に関連するものとして，民法を学ぶ。民法の最初ということで，民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが，物権法も，もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば，民法全体のイメージをつかむためにも，民法の体系性からしても，できれば，民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で，自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみることができるようになれば，講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか（権利），自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか（義務）を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので，私から受講者に質問しつつ，受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら，私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前　期

民法総則のうち法律行為の前半まで（民法一条から一一八条まで）。

4月，序説（たとえば，自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か，他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか）。

5月，自然人（たとえば，未成年者が契約をするときにどんな問題があるか）。

6月，法人（たとえば，法人という制度を認めることによってどんな利点があり，どんな弊害が発生するか），物

7月，法律行為（たとえば，契約は自由であるとはどういう意味か）。

後　期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで，および物権法（民法一一九条から三九八条の二二

まで）。

9月，法律行為（たとえば，契約を取り消すことができるのはどんな場合か，契約を取り消すとどういう結果になるか），期間，時効（たとえば，時効という制度はなんのために認められているか）。

10月，物権総論（たとえば，物権は債権とどこが違うか），物権変動（たとえば，マンションを買った場合には何をしなければいけないか）。

11月，占有権，所有権，用益物権（たとえば，土地を借りるとどんな権利が発生するか）。

12月，担保物権（たとえば，土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか）。

1月，質問に答える（受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが，それとは別に質問時間を設ける）。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数，およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので，これに答えてくだされば，これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく，自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので，安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ，質問をし，私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また，私のためにもなる。したがって，質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお，評価は，年度末の試験で最終的には決まる。

〈教　材〉

教科書：我妻　栄・有泉　亨著（川井　健補訂）『民法1（総則・物権法）』（一粒社），教科書は，上記のものを使うが，ほかに自分が気に入ったもの，手持ちのものがあれば，それでもよい。

六　法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持ってくること。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように，法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は，『ポケット六法』（有斐閣），『コンパクト六法』（岩波書店），『デイリー六法』（三省堂）などの大きさ（厚さ・値段）のもので十分である。『口語～』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので，新しいものの方が望ましいが，多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも，法令索引で「借地借家法」が掲載されているかを調べて，この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし，借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

民　法　I

林　　幸　司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分野を対象とし，その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では，重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し，『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえるよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

大　塚　　桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく，以下の諸問題について検討していく。

Ⅰ．政治学の課題と対象ならびに方法論
Ⅱ．デモクラシーとリベラリズムの概念，史的展開
Ⅲ．政治権力論
Ⅳ．政治制度・機構論
Ⅴ．行政国家論・現代社会論
Ⅵ．政治変動論
Ⅶ．政治行動論
Ⅷ．政治過程論・政策決定過程論
Ⅸ．政治集団論
Ⅹ．現代政治理論

〔教科書〕特に指定せず。

〔参考書〕原田銅『政治学原論』（朝倉書店）¥5,356
佐竹寛『政治学体系論』（法学書院）¥3,090
中山政夫『現代政治学』（三和書房）¥2,575
日下喜一『現代政治学概説』（勁草書房）¥2,060

社会学原論

渡　辺　源　樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ，つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら，集団論・組織論などを中心として基

礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに，現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経　済　原　論

阿　部　　弘

〈講義の目的〉

生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で私たちは毎日の生活を送っている。私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ。価値は，社会に役に立つ・有益である，ということだが，このことは今私たちの商品社会にあっては「商品」生産の体系の中で言われることである。「売れるもの」でなければ富とは関係がない。この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけはないから，このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

私たちは「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会にそして私たちに利益になるからそのようなものが商品として生産されているわけだが「役に立つ」と私たちには思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ，いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なものでこれさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。「利潤」も株式という形で存在する「資本」を株券を手に入れることで自分のものにできる。「おカネ」がすべてのように思えおカネを手に入れるために種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうかで，何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は，ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようになろうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこでその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。「経済学」は成立のときから「富」とは何かを問題にしてきたのでその歴史は「富とは何か」の歴史である。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるからこの社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では３つのカテゴリーとその関係を明らかにしそのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

〈講義の方法〉

講義は受講生の人数によって異なる。

① 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年４回のレポートの作成を行い，最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え，２回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて，講師が添削して，各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。４回のレポートの作成は以下の日程で行う。
No.１：７月上旬　No.２：10月中旬　No.３：12月中旬　No.４：定期テストの時

② 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして，グループ毎にディスカッションをして２回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって７月上旬に第１回目のレポート作成を行う。

〈評価の方法〉

講義形態①のばあい：評価は４回のレポートを通じて行う。しかし第４回目に関しては「定期テスト」のときを利用するので，教務部で出欠の確認を行うという問題がでてくる。このばあい，欠席者は３回までレポートを作成していても自動的に「失格」となる。

講義形態②のばあい：ゼミナール形式をとるので試験は行わない。ただし２回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

受講生の質疑応答等に便利なように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538　Tel:9360
住　所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204
Tel:03-3976-7984

経　済　原　論

荒　木　勝　啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが，この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して，この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM 分析まで）に限定して行うことにする。

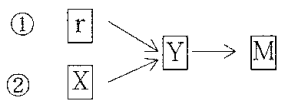
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは，毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は，おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり，輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば，日本経済の輸出拡大（黒字増大）と，景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A) 景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか，それともアメリカがそうであったように(B) 景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が，すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論，つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX，輸入をMとし，国際収支を便宜上経常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し，B＝X－Mと書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し，Mがふえれば減少（赤字化）する。X，Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて，公定歩合をrと表し，「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると，「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は$r\downarrow\rightarrow Y\uparrow$と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は$X\uparrow\rightarrow Y\uparrow$と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから$Y\uparrow\rightarrow M\uparrow$という関係がある。すると図式的に



のようなcausaltyが成立つであろう。さて上述の答案の混乱は，本来この図式の①から出発する事象の流れを，日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば，結果はMの増加だけであり，従ってB＝X－Mは赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ経常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば，結果はやはりMの増大となるがしかし，日本経済の経験が示すように△X＞△Mである限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして，上述の答案は前提が違うが故に，誤りであり，また(A)が正しいのか(B) が正しいのかという問題は，「景気が良くなった」その原因，出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

(1)　総供給＝総需要
(2)　均衡国民所得の決定
(3)　政府・海外部門の存在する場合への拡張
(4)　乗　数
(5)　ビルト＝イン＝スタビライザー
(6)　貨幣とは何か
(7)　信用創造理論
(8)　貨幣数量説
(9)　マネタリズム
(10)　古典派経済学の３命題
(11)　ケインズ理論
(12)　IS-LM 分析
(13)　財政政策と金融政策
(14)　ポリシー・ミックス
(15)　フィリップス曲線をめぐって
(16)　期待理論
(17)　成長理論

なお，年２回実地研修を行う。予定では(1)証券取引所　(2)大蔵省印刷局である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。２題出題し１題は計算問題，１題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』（成蹊堂）

経　済　原　論

小　野　俊　夫

いわゆる近代経済学の立場から，近年の学問的成果をも考慮し，現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し，複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目ざす。
〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
（学文社）

哲　学　概　説

篠　原　壽　雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとすると，儒教・仏教，そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命，非儒などの精神が韓非子にいかに受容されたかなどを中心に，先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び，併せて中国禅思想を考究したい。
〔教科書〕『荘子』〔内篇￥360，外篇￥400〕
（中公文庫）

哲　学　概　説

国　嶋　一　則

人間は，何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常，われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは，自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。
歴史上の大きな主義を検討することによって，現代世界の有力な主義を明確にし，自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。
哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために，教材の重要な個所を読んで解説する。
〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久　保　陽　一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら，－アリストテレス倫理学，キリスト教の倫理，カント道徳哲学，ヘーゲルの法哲学，実存主義等－現代における倫理の問題－国際的正義，生命倫理等－について考えることにしたい。
〔教科書〕プリント等を配布する。
〔参考書〕川戸好武他『西洋哲学の歴史』
（公論社）

宗教学概説

洗　　建

宗教学の体系について概観し，その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し，憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。
〔教科書〕なし。
〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松　田　文　雄

初めに宗教学の研究方法，その領域，宗教学で用いる用語などを概説し，後期，今年度は日本仏教の特色について述べる。
〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木　宏　幹

（P.26）参照

民間信仰論

谷　口　　貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら，神と人が織り成すさまざまな世界には，どのような意味があるのかを探っていきたい。そして，民間信仰の性格や機能，あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。
〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館野正美

本年度は，インド伝統医学（アーユルヴェーダ），グレコ・アラブ伝統医学（ユナニィ）と並んで，世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について，医学思想の観点から哲学的に分析し，講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を，秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして，その医学思想の根幹をなすところの，中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ，現代医学における諸問題に対する，中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗　建

新宗教の規定をめぐる諸問題，新宗教の展開，発達史を概観し，主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀　一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

歴史哲学

麻生　建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で，歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を，「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは，今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが，そもそもは「他者理解」の問題，「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生　建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

日本文化史Ⅰ

廣瀬良弘

（P.24）参照

美術史概説

中島亮一

（P.25）参照

日本宗教文化史

井上順孝

日本の宗教文化が，近世から近代・現代にかけて，どのように変化したかを，社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合，どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ，日本の宗教文化が，どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか，また逆にどのような面が影響を受けにくいかにも注意を払う。

教室の都合がつけば，できる限り視聴覚教材を利用して説明を行う予定である。

〔参考書〕井上順孝『新宗教の解読』（筑摩書房）
¥1,350
井上順孝『海を渡った日本宗教』
（弘文堂）¥1,550

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し，のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

【職　業】

産　業　概　説

前　田　幸　一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり，受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1．戦後日本の産業発展と今後の展望
2．産業の見方・考え方
3．素材型産業
4．組立加工型産業
5．生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが，特に上記の3，4，5の項目に力を入れて授業を進めます。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）
宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職　業　指　導

山　田　勇　治

〈講義目的〉（要旨）

職業指導（進路指導）は教職科目であるから，将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け，なるべく教育現場の現状をふまえた上で，実践的な授業にするつもりである。受講する場合には，問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

〈授業内容・授業計画〉

前期は，職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに，職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら，特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は，中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお，時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

〈評価方法〉

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら，期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商　業　実　習

前　田　幸　一

〈講義目的〉

国内よりもグローバル化した対外との企業間の商品取引観点から授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

〈授業内容〉

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1．輸出実務の概要
2．取引関係の創設
3．取引条件の取決め
4．売買条件の取決めと契約成立
5．輸出信用状の照合
6．約定品の調達
7．輸出保険
8．輸出承認と認証の取付け
9．運送契約の締結
10．為替の予約
11．海上保契約
12．輸出検査と包装
13．輸出通関
14．船積み
15．船積書類
16．輸出決済
17．貿易クレーム

〈評価方法〉

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館
藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商　業】

職　業　指　導	山　田　勇　治

(P. 17) 参照

Ⅱ　学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ

山　崎　慶　子

小学校，中学校，高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには，教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか，そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について，特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」，後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編　学校図書館通論』改訂版（学芸図書）￥1,442

図書館学Ⅱ

源　　昌　久

この講義においては，司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内，主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法，後期には目録法を講じ，各々の概念的フレーム・ワーク，基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法新訂８版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則1987年版』（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項をとりあげる。

1．社会教育の意義 ― 理念，歴史，現状，外国との比較，社会教育と学校教育
2．多様な学習の機会
3．社会教育の法と行財政
4．社会教育の施設
5．学習者の理解
6．社会教育の内容と方法
7．社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）¥2,000
〔参考書〕『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化，地域社会と社会教育，社会教育調査とデータの活用，社会教育事業計画，学習情報の提供と学習相談，社会教育と広報・広聴，社会教育施設の経営，社会教育の評価等が主な内容となる。

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 ― これまでの経験に学ぶ。
実 習 期 間 ― 個別の訪問指導。
実習後の指導 ― 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

社会教育実習

上岡安彦

事前指導
　社会教育分野の活動について講義
実習期間
　社会教育施設訪問指導
事後指導
　ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し，日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕永田良行著『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会）¥773
ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）¥1,500

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

（P. 8）参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし，その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては，

Ⅰ．女性問題を捉える基本的視点
　（ライフサイクル論，フェミニズム論争など）
Ⅱ．わが国における婦人教育政策の歴史と現状
Ⅲ．国際的動向と女性学の発展
Ⅳ．女性問題学習の実際
　（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践，その他の活動・実践など）
Ⅴ．今後にむけての課題

という内容を考えている。
〔教科書〕なし
〔参考書〕授業中に紹介する。

青少年問題研究

前期：中　野　東　禅
後期：和　田　謙　寿

（P. 9）参照

社会教育施設

村　山　輝　吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕適宜指示する。

図書館学Ⅰ

山　崎　慶　子

（P. 19）参照

博物館学Ⅰ

倉　田　芳　郎

（P. 23）参照

博物館学Ⅱ

竹　内　順　一

（P. 23）参照

企業内教育・職業訓練

塩　川　正　人

「企業」は“生きもの”のように変貌し，成長してます。企業の生きた姿を知ることは，卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は，企業人教育20年の経営コンサルタントが，実践事例を中心に，企業論と人間論を，学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を，企業人教育の手法を活用して指導します。
★会社就職を希望する人へは，会社選択のノウハウを，個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会体育Ⅰ

古　田　潤　子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして，私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか”“いいからだとはどういうのか”“それにはどうしたらよいか”ということを動きを通じて考え，行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て，地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）￥980

社会体育Ⅱ

古　田　潤　子

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ，自己発見していきます。

視聴覚教育
赤　堀　正　宜

(P. 23) 参照

教　育　原　理

(P. 1) 参照

教育心理学
（教育方法論を含む）

(P. 2) 参照

青年心理学
（教育方法論を含む）

(P. 2･3)参照

社会心理学
坪　井　　健

社会心理学は，元来，社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って，社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており，必ずしも統一されたものになっていない。
本講義は，個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ，現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち，社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして，社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。
〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

教育社会学
高　島　秀　樹

(P. 8) 参照

教　育　調　査
鈴　木　規　夫

(P. 8) 参照

教　育　史
北　村　三　子

(P. 8) 参照

児　童　文　化
湯　山　　厚

(P. 9) 参照

社会教育行政
牧　野　　篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し，生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では，戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ，社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ，生涯学習体系の中にあって，国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

成人学習論
牧　野　　篤

生涯学習振興法の成立により，生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし，そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいい難い。この講義では，生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら，その問題点を指摘するとともに，成人が学ぶということの意味をとらえ返し，そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

Ⅳ 博 物 館 学 講 座

(1) 必 修 科 目

博物館学Ⅰ

倉 田 芳 郎

学芸員課程の必修科目であり，社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので，同年度に併せて受講していただきたい。また，後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので，時間割を組むうえで，各自研究してもらいたい。なるべく２～３年生の時に受けておくことが望ましい。４年生で受けると，学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので，２単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は，「博物館学Ⅱ」（２単位）も履修することが必要である。受講方法について，誤りの無いようにしたいので，４月第１週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹 内 順 一

博物館の運営について，以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレイション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレイション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して，将来の博物館像を追求し，専門家の分業体制とともにレジストラーの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教 育 原 理

（P. 1）参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

（P. 20）参照

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また，学校教育番組や社会教育番組の利用は，教育方法・内容の革新とつながり，教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法，その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館実習Ⅰ（館務）

倉 田 芳 郎・太 田 喜美子

博物館で10日間以上，学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり，無条件に，誰でも履修できるわけではないので，年度第１週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉 田 芳 郎・所 理喜夫
葉 貫 磨 哉・太 田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは，年度第１週の講義時間に話すので，必ず出席すること。無断欠席のものは，受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの，１つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査　　7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査　　12月か2月
3. 文書・石仏調査　　9月下旬
4. 石仏調査　　10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば，考古学は机上の実習の一方で，遺跡を調査するための技術も必要とする。充分な技術は，一回の実習で身に付くと思えないが，いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を，汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は，必ず出席のこと。又，発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため，現場で学芸員の方のご講義を承り，博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上，今年度履修しようとする学生は，必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し，とくに中世文化の成立と展開過程，北山・東山文化，戦国期の文化，安土桃山文化と寛永文化，元禄文化等，中世から近世にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ，その成員により獲得され，習熟され，伝達されていく諸観念や慣習，儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても，例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らめるものであることは疑いない。そうした高いレヴェルの観念や行法を一方におきつつ，他方に，各種民間信仰的な諸観念や儀礼，生活慣習等，日常レヴェルの生活様式を考察し，且つ，両レヴェルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会，宗教とかかわらせつつ，仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ－インド，東南アジア－』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅲ

三小田敏雄

本年度は西洋文化史のうちローマ帝政時代の後期から中世ヨーロッパの成立，ビザンチン文化，中世文化の最盛期に焦点をあてて講義を進める。出席を重視し，成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕未定

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生，そして敦煌を経て竜門・雲岡へ，更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで），仏像の様式の変遷を通観し，あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を，精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し，政治と仏教，風土と仏教，特に道教とのかかわりなど，広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）￥720

〔参考書〕久野　健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現　代　美　術

宮　崎　克　己

19世紀，20世紀の西洋絵画について，様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩，空間など），表現内容の問題（象徴性，思想など），社会的問題（展覧会の形式，ジャーナリズムとの関係など）等を，代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜，美術館，展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅　美　術

海老根　聰　郎

日本の中世絵画には，伝統的な大和絵と，この時代に，中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり，画家も禅宗画僧である。講義は，この流れを黙庵，鉄舟，明兆，周文，雪舟などの画家を中心としてたどっていく。

（毎回スライドを使用する）

美術史概説

中　島　亮　一

日本美術の特質と問題点について，各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から，さまざまに変容をとげた姿を再検討し，様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。特に東洋・西洋の名作との対比も試み，それぞれの模倣独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相　馬　　隆

東西文化交流史，東西美術交渉史の視点より，タ－リム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく，葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて，道程，宿駅等隊商路の実相を復元究明し，併せて，東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し，講述を進めるものである。

（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉　田　芳　郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第１週目の授業には，必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯　島　武　次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
1985年（山川出版社）¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』
1991年（山川出版社）¥11,000

考古学特講Ⅱ

高　浜　　秀

吉林・遼寧・内蒙古・甘粛など中国北辺の地域では，漢代以前には中原とは異なった文化が知られている。当時，ユーラシア北方草原地帯では，スキタイ系文化と総称される遊牧騎馬民族の諸文化が栄えていたが，中国北辺の青銅器文化はその東端に位置する重要な文化といえる。これは一方では朝鮮半島の青銅器文化とつながりを持つとともに，中原の文化にも大きな影響を及ぼした。講義ではこの文化について述べる。

考古学特講Ⅳ

飯　島　武　次

周文化の考古学研究，講義内容は極めて専門的なものにしたい。

日本民俗学

谷口　貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して，日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では，各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら，通過儀礼（人生儀礼），年中行事，祭り，信仰，家族・親族，社会組織などについての理解を深め，民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。
〔参考書〕必要に応じて紹介する。

地形学 I

小池一之

地理学の基礎，地形学史から講義をはじめ，川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは，出来るだけ，それらの解説も加える。講義は，プリント・スライド，ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。（内容は最先端の知見を含む）
〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

宗教人類学

佐々木宏幹

アニミズム，アニマティズム，シャーマニズム，妖術，邪術，死霊・祖霊崇拝など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに，これら諸形態が，日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。
〔教科書〕佐々木宏幹著『仏と霊の人類学－仏教文化の深層構造』（春秋社）¥2,400

地質学

貝塚爽平

前期には，関東・東海地方でみられる，地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また，日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。教科書として貝塚著『平野と海岸を読む』（岩波書店）を用いる。
〔教科書〕貝塚爽平『平野と海岸を読む』（岩波書店）¥1,200

V 社会福祉主事 社会福祉士基礎 講座

社会福祉原論

伊藤秀一

本講では，受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ，まず，社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで，社会福祉の生成過程，制度的なしくみ，各分野の現状に論及する。

さらに，社会福祉の今日的課題を講述し，一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）￥1,700

社会福祉原論

原田信一

今日の社会福祉は，時代に即応し，個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者（対象者）間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり，従来までのような物的・貨幣的救済を主とした，福祉問題の彌縫的・応急的対応では，最早，包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて，本講では時代要請に応えうる専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1．孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』（ミネルヴァ書房）
2．岡村重夫『全訂・社会福祉学』（柴田書店）

老人福祉論

中野いく子

人口の急速な高齢化が進む中，家族形態・機能の核家族化と相まって，老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は，今後一層の深刻化が予想され，老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては，約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが，現状改善という視点からだけでなく，長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では，老人福祉施策の歴史的変遷はもとより，現状認識を深め，今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や，関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水　豊・浅野　仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版（海声社）￥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説　高齢者白書1992』（全社協）￥2,800
厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集1992年度版』（老人福祉開発センター）￥3,500

障害者福祉論

原田信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では，人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観，そして今後，激動化によって惹起が予測される障害者問題発生のメカニズムを究明する。さらに，その対応方法，政策，ならびに処遇のあり方などに加え，欧米先進諸国における障害者福祉との対比から，わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たなる課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕（有斐閣）

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）
(2)原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

児童福祉論

高橋重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上，それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく，子どもが権利主体であることを前提として，その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら，制度としての児童福祉は，社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では，主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して，児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』
（川島書店）

〔参考書〕開講時に指示する。

社会保障論

近藤　功

社会保障は，憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり，国政において，優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について，欧米諸国を含め，歴史的発展過程，体系，財政，国際比較等を検討し，その問題点を明らかにする。

特に，わが国の社会保障について，その主要な部門としての所得保障（年金保険，公的扶助，児童手当等），医療保障（健康保険等）その他について，制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤秀一

本講の中心的なテーマは，わが国の生活保護制度をどのように位置づけ，どのように方向づけるかである。

講義内容としては，上述した問題意識のもとに，以下の項目について講じていく予定である。

1．現代社会と公的扶助
2．低所得問題対策の概要
3．生活保護制度のしくみ
4．生活保護の最近の動向
5．生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお，テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

和田敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が，地方分権化，社会福祉供給システムの多様化，責任主体の多元化を伴い進展している。平成5年度は，老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ，市町村福祉時代が始まり，地域福祉の現実化が新しい段階を迎える。講義では，地域福祉の理念と内容，推進方法，地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに，それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7
『地域福祉論』¥2,500（中央法規）

〔参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』
（全国社会福祉協議会）¥2,000

心理学（福祉）

井上孝代

欧米諸国において，社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき，社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては，①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念，②人間の成長発達の様相と障害，③人間理解の学説および諸理論の実際，④心理学的援助の技術と実践など，社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが，必要に応じて資料，参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

江上　渉

戦後日本社会の変動を人口，家族，産業，教育などいくつかの視点からデータに即して理解しながら，日本社会の特質を考える。（前期）

地域社会に焦点をあて，「コミュニティは崩壊したのか」というテーマに関する議論の展開を紹介して，今後の地域社会のあり方と可能性を考える。（後期）

法学（福祉）

小林弘人

本講義は，教科書『社会福祉のための法入門』を使用して，憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他，諸般のことがらについては，講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000
〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』〔第2版〕（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原　田　信　一

リハビリテーション領域のなかで，学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は，内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか，いずれも現実的で，しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで，本講義はとくに，社会リハビリテーションの基本問題をふまえ，社会・文化的環境を考察し，政策と実践的方法論，それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等につて概説したい。
〔教科書〕講義ノートによる。
〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

坂　田　周　一

社会福祉における計画の概念を明らかにし，計画策定の技法を実例に即して具体的に明らかにする。技法としては，人口推計方法，福祉ニーズ測定法，最適な福祉サービスの組み合せを求めるデルファイ法，福祉サービスの効果測定法等の技法を中核としながら，これに関連して線形計画法，ＰＥＲＴ法，シミュレーション等のオペレーションズリサーチの技法についても述べる。
〔参考書〕大村平著『ＯＲのはなし』（日科技連）¥1,450
その他必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉運営論

坂　田　周　一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題，さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。
〔教科書〕大山博・武川正吾編著『社会政策と社会行政－新たな福祉の理論の展開を求めて－』（法律文化社）

家族福祉論

田　村　健　二

現代の家族生活の状況を，社会との関係，および家族内の関係から明らかにし，そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで，こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか，主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面，ならびに今後に要望される福祉機能の側面について，解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって，全国民にわたる健全な在宅福祉は，家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。
〔教科書〕田村健二『家族－社会の鎖・夫婦親子の鎖－』（金子書房）¥2,000
〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1，2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春　見　静　子

医療とは何か。医療の歴史，医療福祉の歴史，医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1．医療論
　医療の概念，医療の場，与え手と受け手，医療法，現代医療の問題点
2．医療領域のソーシャルワーク
　歴史，意義，機能，方法，機関
3．医療ソーシャルワークの実際
　事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林　　千　代

私は，婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが，それは，性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面，その解決へのプロセス，施策が主な内容になる。その状況として，主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連），売買春の問題（性とは何か，婦人保護事業について），女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も，女子労働との関連が深いので，主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。
〔参考書〕林　千代著『母子寮の戦後史』
（ドメス出版）

保健福祉論

安　梅　勅　江

急速な人口の高齢化や国際化，地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって，福祉に対するニーズは大きく変貌してきており，わが国の保健・医療・福祉の諸領域は，今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って，本講義では，人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき，健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに，学際的学問領域としての保健福祉学の概念，歴史，方法論を踏まえ，保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編　平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林　　千　代

いつの時代にも，人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には，常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に，英国，日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法，方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉，その本質は何か，その現状は等々を考えるためにこそ，歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡　他編『社会福祉事業発達史』
（ミネルヴァ書房）
〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

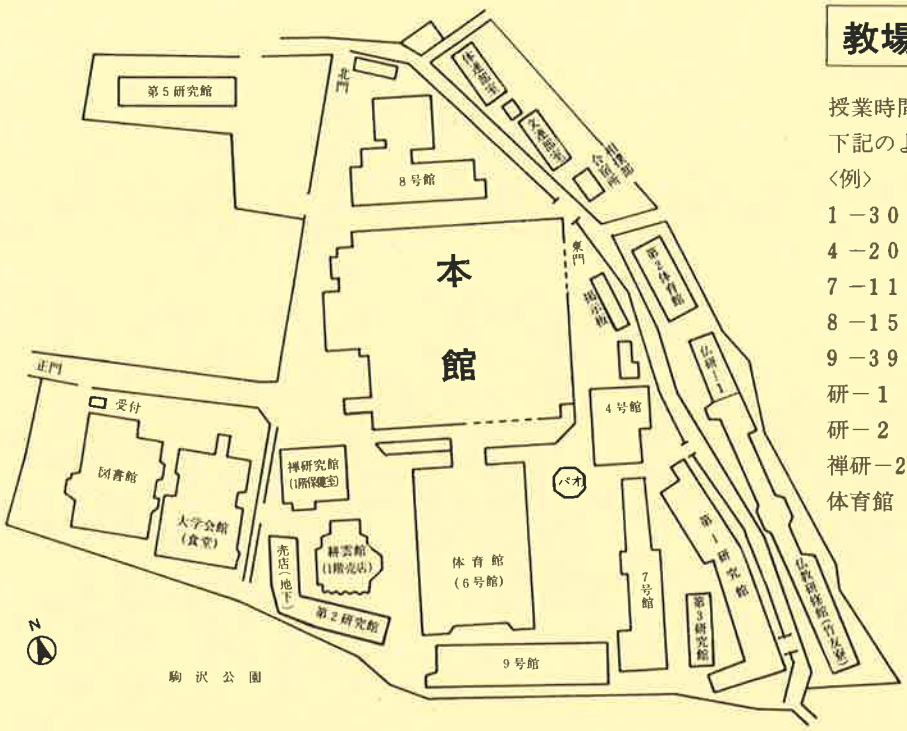
中　野　いく子

前半では，福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では，受講生の関心に基づいてグループを編成し，北欧やヨーロッパ大陸諸国，アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。
〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

〈例〉

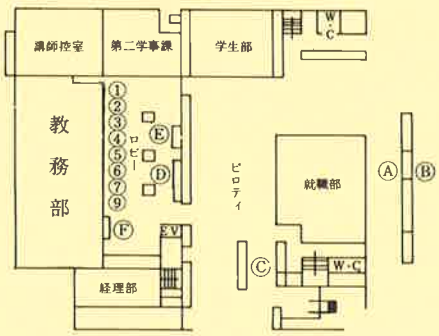
1－301	本館（1号館）3階
4－204	4号館2階
7－110	7号館1階
8－150	8号館1階
9－390	9号館3階
研－1	第2研究館1階
研－2	第2研究館1階
禅研－201	禅研究館2階
体育館	体育館2階（ただし選択種目により第2体育館になる）

各事務室・掲示板配置図

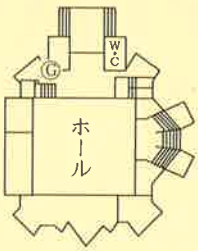
教務部窓口

①教職課程
　学校図書館司書教諭講座
②博物館学講座
　社会福祉主事講座
　社会教育主事講座
③科目等履修生聴講生卒業証書
④証明書（教務関係）申込受付・発行
　〈健康診断書および在学証明書は学生部〉
※　諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
⑤諸届願（休学・復学・退学・死亡／改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更）
⑥大学院関係・留学生関係
　卒業論文（仏教学部・文学部）
⑦時間割変更・休講・外国語指定届
　卒業証書・転部転科
⑨履修・試験・成績・学業相談
　学部演習（仏教学部・経済学部／法学部・経営学部）

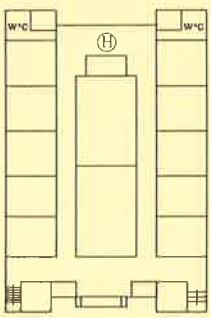
本館　1F



耕雲館　2F



体育館　1F



掲示

Ⓐ第1掲示板（表面）
　公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項，教務部関係（試験・教職・研究室等）連絡事項、その他
Ⓑ第2掲示板（裏面）－臨時掲示板－
　教務部関係連絡事項（12月～3月）
　就職部関係連絡事項（8月）
Ⓒ第3掲示板－臨時掲示板－
　教務部関係連絡事項（12月～3月）
　就職関係連絡事項（4月～11月）
Ⓓ休講掲示板・ビデオ教場使用一覧（当日）
Ⓔ授業時間表カウンター・教場変更掲示板
Ⓕ大学院・留学生関係掲示板
Ⓖ国際センター掲示板
Ⓗ留学生専用・海外留学掲示板
　学外諸機関からの案内・募集広告等